COM第1巻第10号　昭和42年10月1日発行（毎月1回1日発行）昭和42年5月17日第三種郵便物認可　昭和41年12月9日国鉄東局特別扱承認雑誌第2506号

COM こむ

月刊コミック・マガジン

10
1967

まんがエリートのためのまんが専門誌

手塚治虫／石森章太郎／永島慎二



●ゲストまんがシリーズ●
おふくろさん／川崎のぼる

特集1／児童まんが家アプローチ アシスタント

特集2／東京六大学まんが合戦

まんが月評 青年まんがを診断する

第5回 月例新人入選作発表

✽漫画・まんが・マンガ・MANGA✽



卵（アイデア）がなくっても

卵焼きを作ってないと　不安でしかたがないという……重い病気　**牧野　圭一**

COM
NO. 10
もくじ

火の鳥



第一部　黎明編

第十回

手塚　治虫

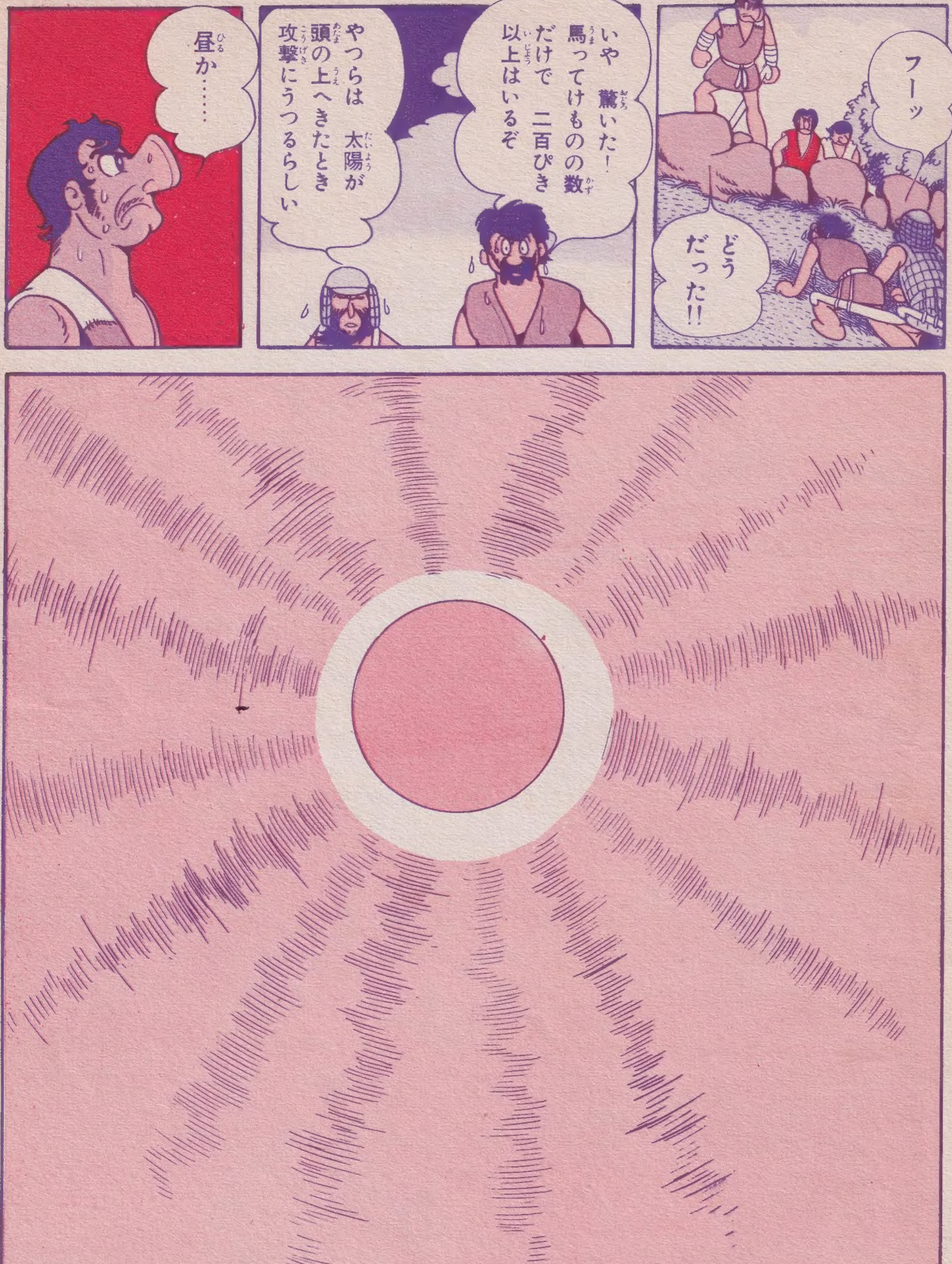


◎「火の鳥」を読んで、ご意見、ご感想がありましたら、東京都豊島区南池袋一の二〇の一 横田ビル 虫プロ商事出版部 角田 登記者におたよりください。





■手塚治虫先生のご住所は、東京都練馬区富士見台二の三〇の一です。


フーッ
どうだった!!
いや 驚いた! 馬ってけものの数だけで 二百ぴき以上はいるぞ
やつらは 太陽が頭の上へきたとき攻撃にうつるらしい
昼か……


ウームッ いくさのベテランがほしいっ
将軍たちはヒミコさまがなくなってフヌケ同然になってるし…
だいいちあの馬とかいうけだものを防ぐ方法はだれも まだ考えつかないのだ!
海岸のとりでもあの馬のおかげでひとたまりもなく破れてしまったし……
ここを破られるともう 都はやつらにふみにじられるままだ!!
なんとか……もちこたえられないのか
こうなったら勝つも負けるも運じゃな
ばかっ!!
それは防人のいいぐさだっ
おれたち民間人はどうなる? 負けるってことは……みな殺しってことだぞっ
弓彦どうだ?
ま そんなとこだな
このとりでが破られればおしまいだ
弓彦! あんたになにか作戦はないかっ!!
あいにくおれは防人じゃないのでな


あんたの矢なら あそこへだって とどくじゃ ないか!
馬の 十ぴきや 二十ぴき しとめたって なんになる?
おれの矢は 大ものだけを ねらうんだ ウフフフ
ウーイ… 大将は おれが たしかに 引き受け た…… それにしか 興味がねえな
将軍どもは ヒミコさまという 柱を失ったので 戦う気力がない 弓彦は飲んだくれてる ……だが ここで やつらにふみにじられては ヤマタイ国は滅びるんだ ……おれたちは死んでも ここをくいとめねば ならん!!
おーい 田力男 ーっ
猿田彦だ!! 猿田彦が もどってき たぞーっ
ええっ
ワァ
ワァ
ワァ
ワァ
ワァ
ワァ


猿田彦大将軍のお帰りだーっ
よくまあ古巣をまちがえずに帰ってきたもんだな
ネコみたいにいうなよ
とにかく酒を飲ませろ!! この子には水を!
猿田彦どのよく帰ってきてくれました さあ!! たのみます 全軍の指揮をとってください!
だ大将軍っおおおなつかしゅうぞんじます!!
ガブガブ
ガブガブ
ガブリ
うおー大将軍ばんざあああい
ばんざあいっ
みんなこの子をおぼえてるか?
もと奴隷だったナギだぞ!


おれを指揮者として 認めるなら……
この子も仲間として認めてやってくれ!!
たとい ヒミコさまが この子を死罪にせよと ご下命になっても……
みんな…… この子の味方になってやってくれるか?
どうなんだ みんな!!
ヒミコは 死んだぜ
天の弓彦っ
そうさ ヒミコは死んだ ついきのうのことだ まだ なきがらは宮殿に まつってあるはずだぜ
ヒミコ……さま……が おなくなりにだと……? そりゃ……ほんとか!!
ほんとです 猿田彦 敵の攻めてくる ちょっとまえ だったんです


原因はなんだ？
えっ 原因はなんだと聞いてるんだぞっ
お乳のところに腫れものが………
おまえたち女官だろうが!! お側つきのくせにそんなご病気がわからなかったのかっ？
わたしたちにはかくしておいででしたおなきがらを見てはじめて知ったのです………
ウオ……
よせ よせ あんなバアさんのことなんか忘れろ くだらないぜ
うるせえッ!
おれはヒミコさまに仕えるために帰ってきたんじゃない 高天原族と一戦まじえるために脱走してきたんだぞ
そんならオタオタせずにおちつけ!
おれにヨロイと刀をかせっ
それからこの子には弓をやれ

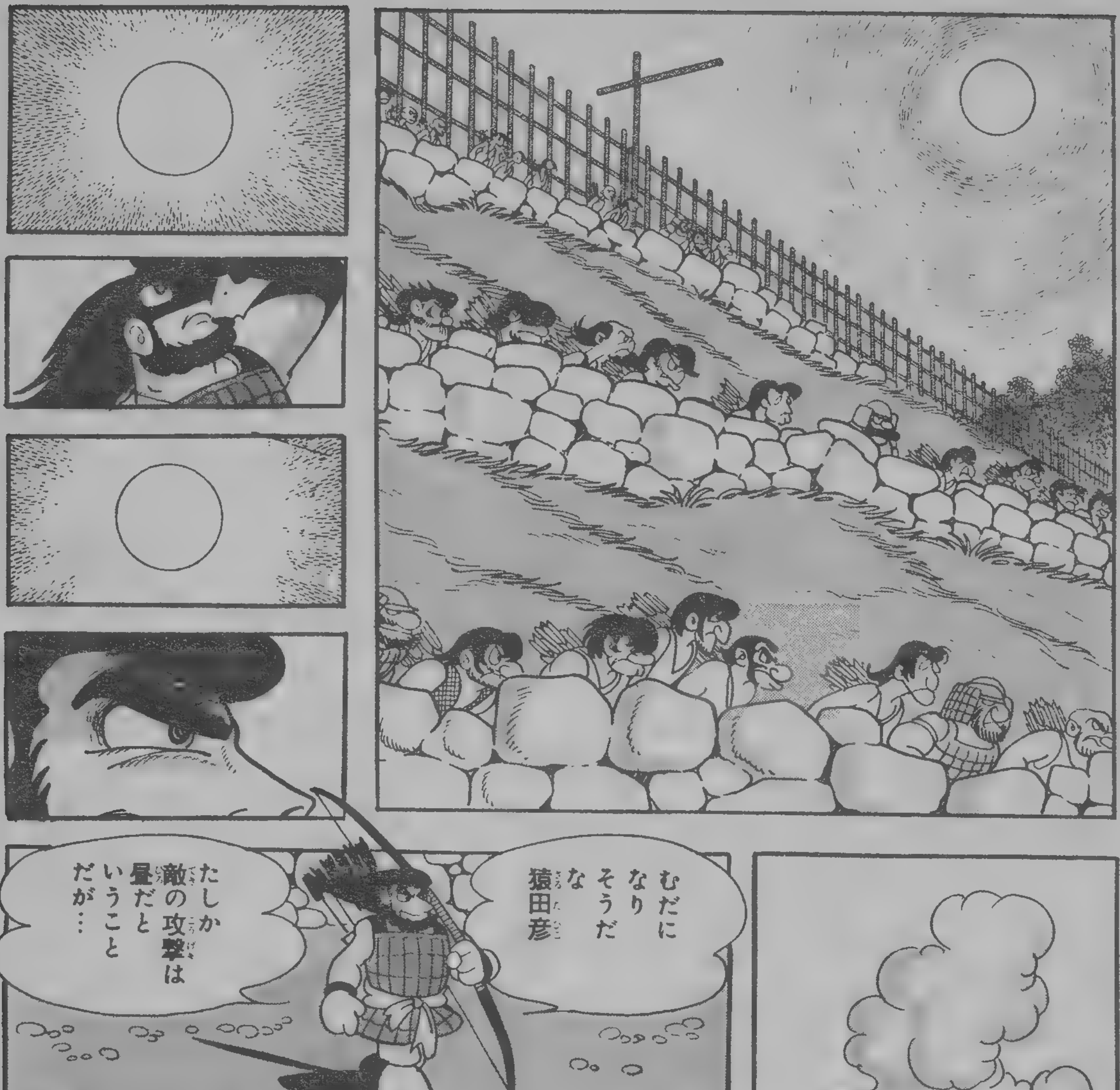

いよいよ正面きってやっと対決だぞ
猿田彦 あの馬というけだものの性質を教えてくれ
ああ……あの馬ってやつにゃ驚いたな
あれほど人間のいうことを聞くやつはない
どうしたら防げる?
やつらを素手で止めようたってむりだ…足をすくめさせる手がいい
頭を働かせろ やつらはなにせけだものだ 火に弱いだろう
火……そうか! なあるほど…
枯草を集めて玉にしろっ 二 三十作って坂の上へ並べておけっ


女どもみんなで草を刈るんだ
ジャッキーリ
ジャッキーリ
ジャッキーリ
ジャッキーリ
ジャッキーリ
ジャッキーリ
ドサッ
ねえ
あんた
……


あんた……クマソの……生き残りだね？
そうだ
クマソって……ヤマタイ国に滅ぼされたんだろ……？
…………
……みな殺しにされたのかえ……
そうだ
ほんとにひとり残らず殺されたの？
女子どもも赤ちゃんもかい？
理由もなく……？
うそーっうそだろっ私たちがそんな……そんなむごいことできやしないよ
ほんとだーっ
たしかにおまえたちの軍隊がやったことだっこんどはおまえたちがその番にまわってきたんだぜっ
オギャーオギャーオギャーオギャー
ギャーイ


じゃ　あんたは私たちがにくいんだろ?　どうして私たちに味方すんのさ?
どうして味方するのかって……?
おまえたちなんかに味方しやしない…
おれは死にたくないだけなんだーッ
だから……だれだろうが彼だろうが…赤ん坊までみな殺しにするようなやつはおれにとってみんな仇なんだ!
お……ここでも戦争やってるぞ
ちっちゃな赤アリとでかい黒アリの戦いだな


このアリの戦争が終わるまでにゃおれたちのほうもけりがついているかなあ……
赤アリがんばれーっ でかいやつに負けるなっ 絶対に勝てよーっ
いいかーっ この枯草玉はおれの合図で火をつけてこのスロープをころがしおとす! ただしそれは前線の陣地を突破されたときである それまではかくして敵に見せるなっ わかったかーっ



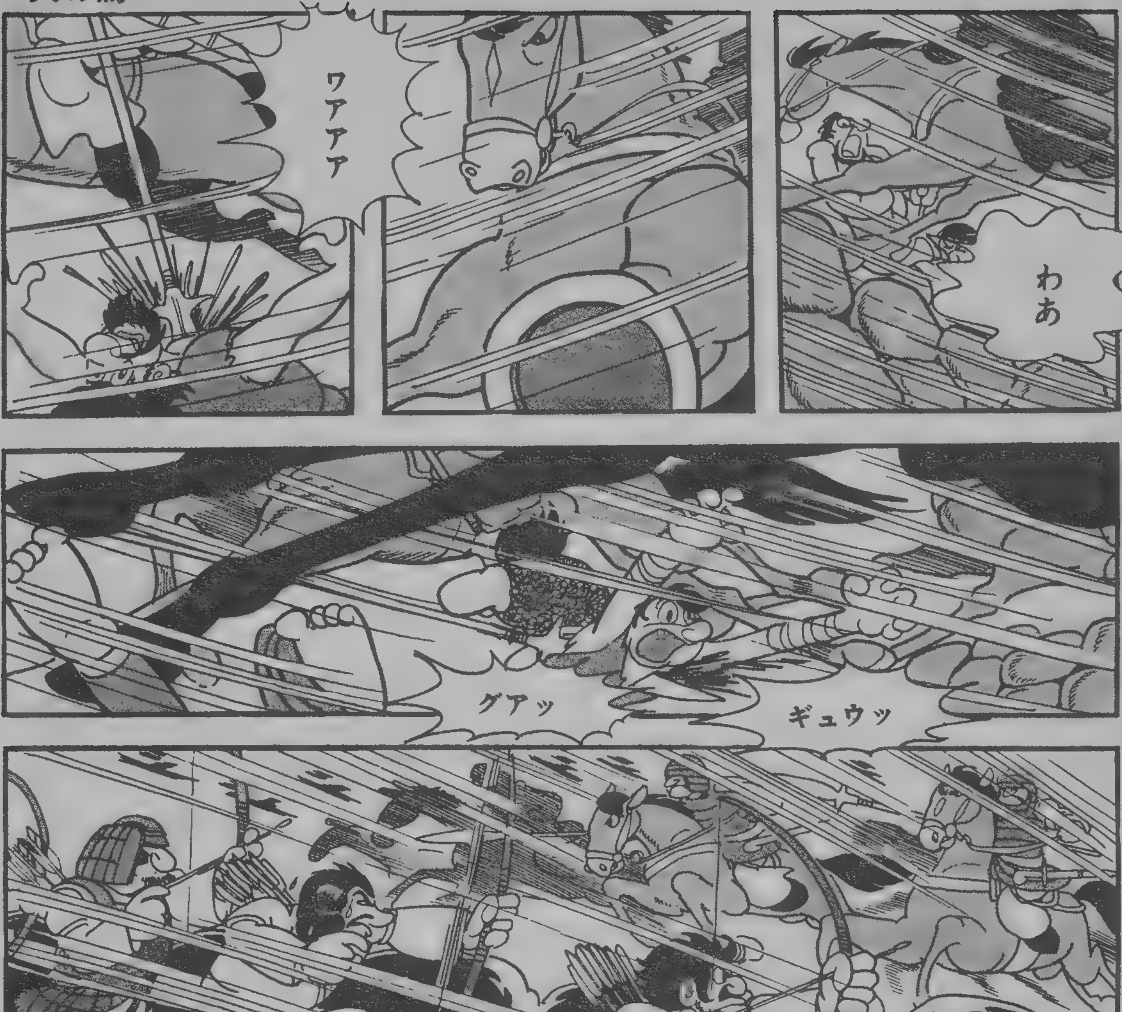
むだになりそうだな猿田彦
たしか敵の攻撃は昼だということだが…
空気にしめりけがまじってきた
あの雲を見ろ気になる雲だぜ
おれのカンだと……
昼ごろにわか雨が降るかもしれねえ


雨だって? ばかいえ!
こんなに日がカンカン照ってるんだぞ どこに……
おれは二十年 狩部で食ってきた
天気ぐらいのことは あんたより わかるつもりだ
作戦を変えるなら はやいとこ 変えたほうがいいぜ
ばかな…
この天気に……
やつら動きだそうとしません
ウーン 早くこいっ さっさと攻めてこんかっ
大将軍!
なんだか ひんやりしてきました
くもってきたんだ
雨が降ってくるぞ!!


ナギと いったな おまえに 渡してえ もんがある ……きな
こりゃ 火の鳥の 埋めてある 場所の 図だ
おまえに やろうじゃ ねえか
えーーッ!
火の鳥!!
ああ おれは 仕止めたんだ
ほんとですかっ ど どこに あるんです どうして あなたが 飲まないんです
おれが飲んで なんになる… おりゃあ命 なんかべつに 欲しかあねえ
じっは おまえの オヤジとの 約束があって な!
オヤジって 猿田彦の ……
おれが 火の鳥を 仕止めたら おまえに血を 飲ませろって たのまれた

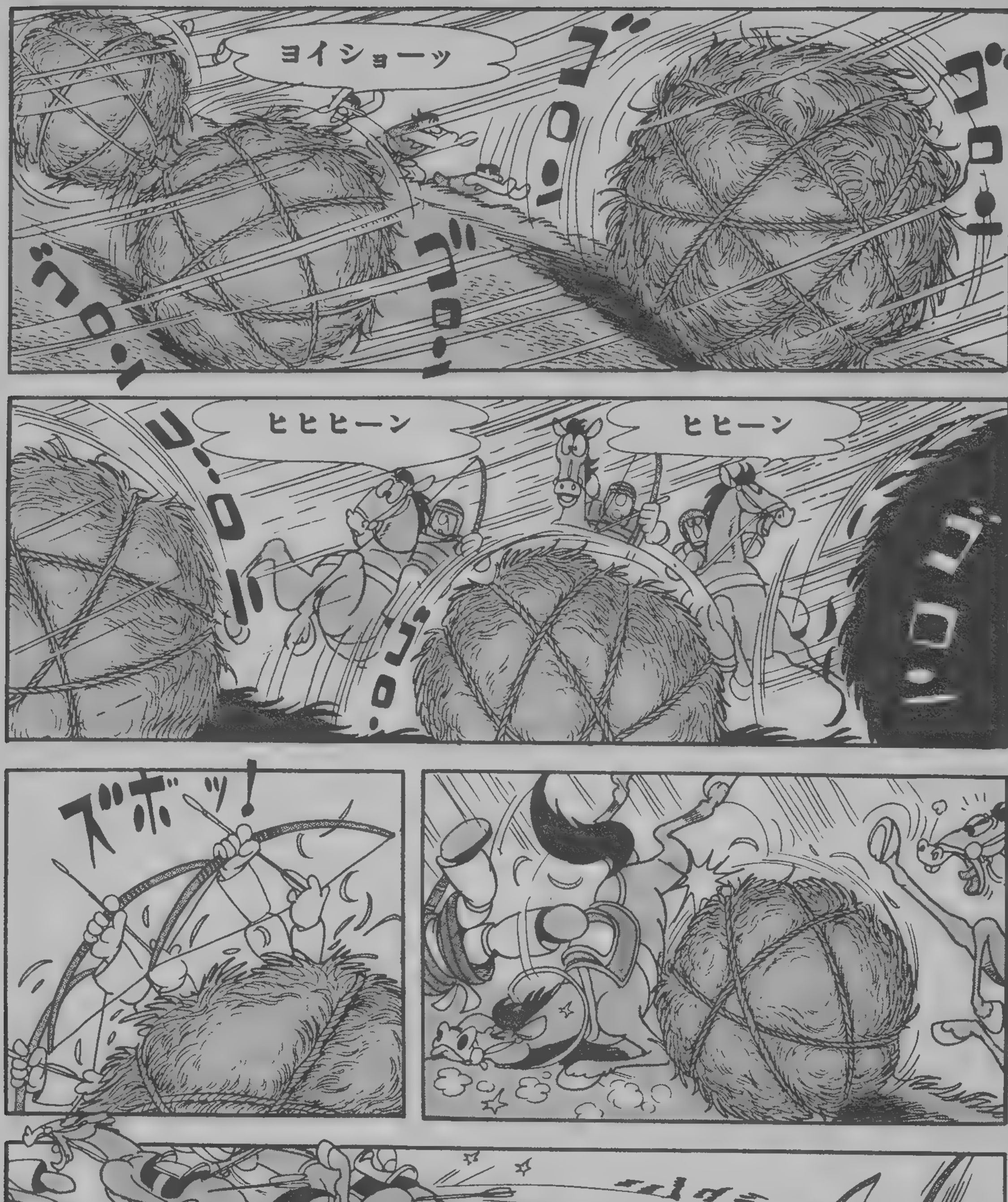

いま箱に いれて ある場所へ 埋めてある
いつでも いって 掘ってきて いいんだぜ
ほ………… ほんと!?
お そろそろ ボツボツと おいでなすったな……
いいか 落とすなよ それを……
長生き できたら しろよっ おれはこれで お別れだっ


大将軍ーっ たいへんです 火がつきません!!
第一陣突撃！
シューッ
シューッ
シューッ
シューッ

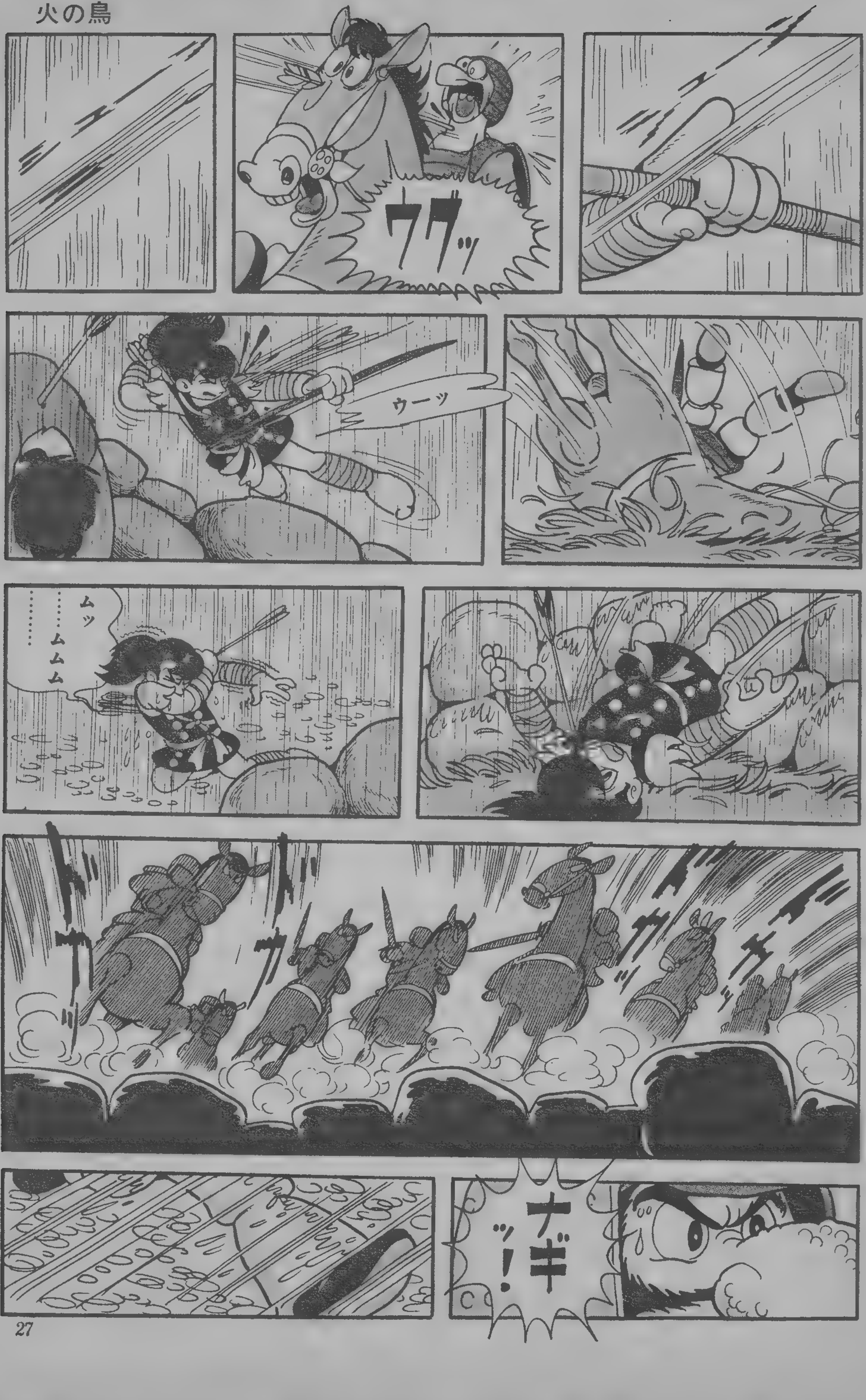

わあ
ワアアア
ギュウッ
グアッ



第二陣進めい!!
火がつかん…？ちくしょうめ雨のやつめ！
この枯草の玉の中へはいれ
そうだ五人ぐらいずつもぐりこめっ
人間玉をころがすんだっ下でとまったらとびだしてうしろから射かけろっ
せえの………


ゴロン!
ゴロン!
ゴロン!
ヨイショーッ
ゴロン!
ゴロン!
ヒヒーン
ヒヒヒーン
ゴロン!
ゴロン!
ズボッ!
ヒイー

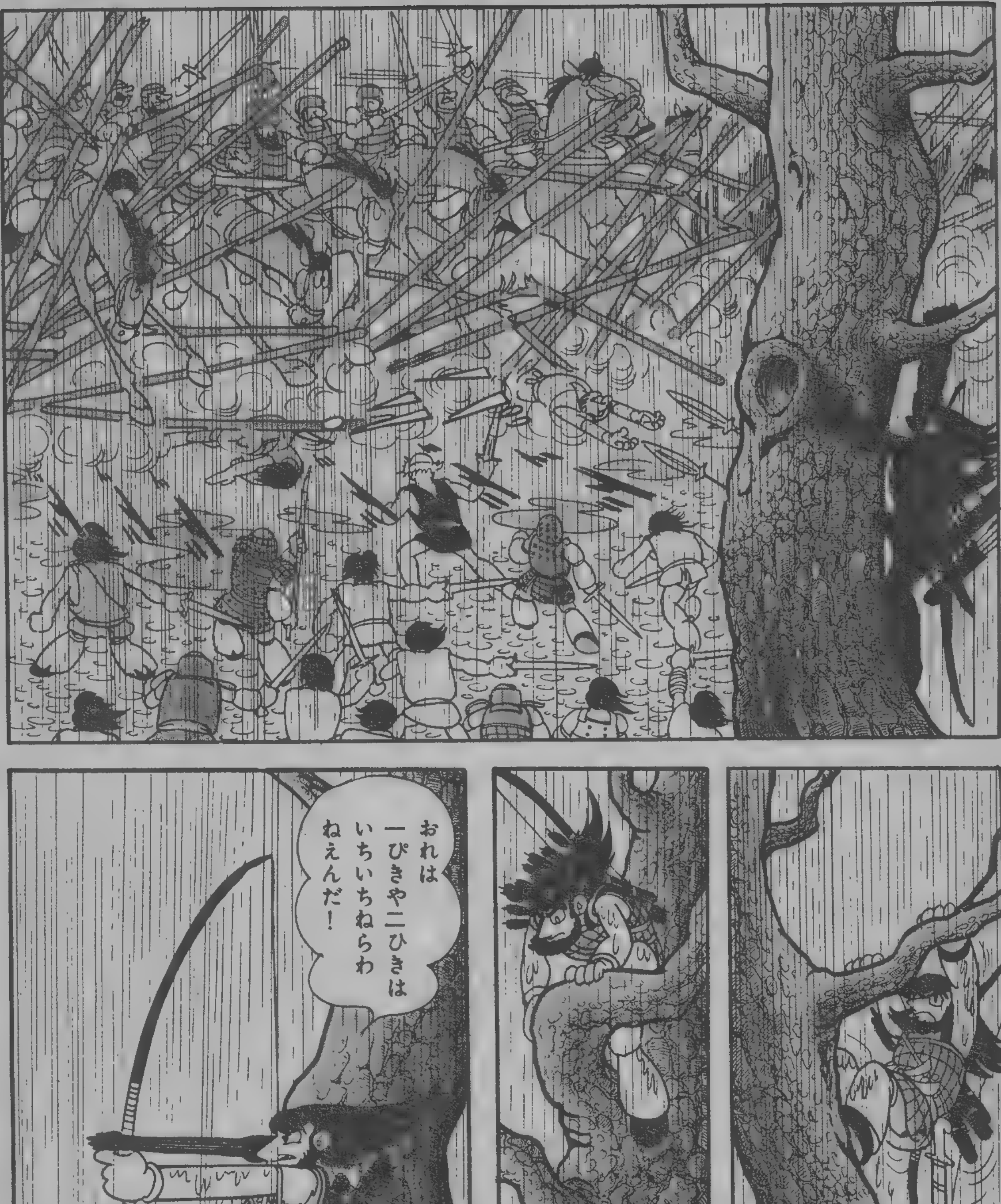

ギャーウ
あの枯草の玉に伏兵がいるぞ！
ウアーッ!!
ギャウッ
ブス
ブス
くそーっ やったなっ
ナギーッ あぶないーっ そこはもう ひけーっ ひくんだーっ
なに くそお ………


ウグッ
ウーッ
ムッ……ムムム……
ナギッ!


ゲッ！
しっかり しろっ 傷は 急所じゃ ないぞっ
馬の上は ひきょうだっ おりてきて 戦えっ


猿田彦 ここで 待っててっ おれ いい もんを 持ってくる
バカ そんな暇は ないぞ
おれも猿田彦も みんなが助かる もんだ… 埋めて あるんだ
待て どうしても いく気なら… ひとこと
おれを 一度ぐらい とうさんと 呼んでから いけ
ちえっ そんな ことこそ あとで いいよっ
よかないっ 最後のチャンスだっ
とうさんよう
よーし よくいった これでお別れ だ せがれ
ニニギーッ ニニギは どこだっ
猿田彦がきたぞ おれの女房を返せ ウズメを どうしたーっ


第三陣突っこめい!!
ウオー
カーン!
ガシ!

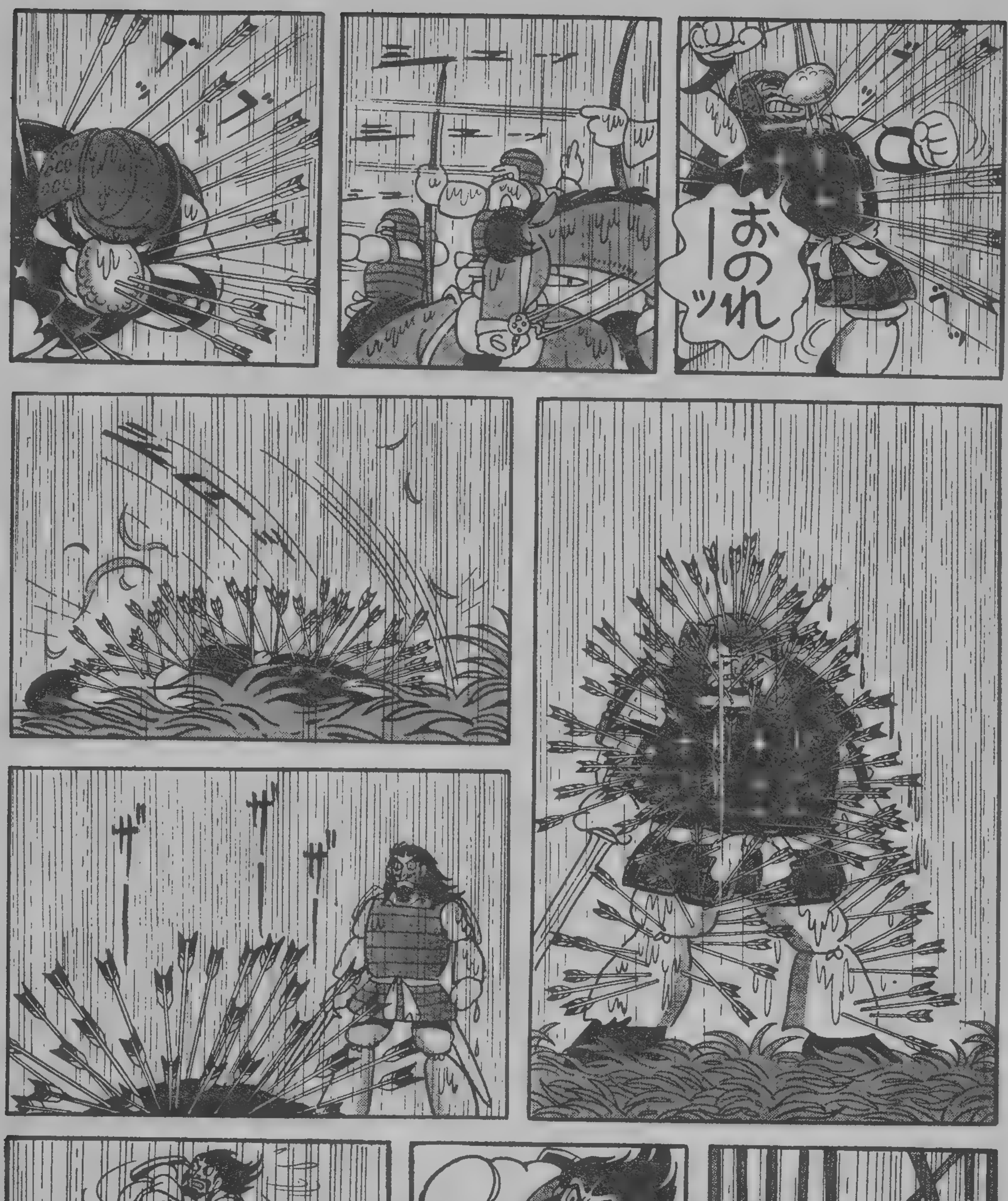

おれは
一ぴきや二ひきは
いちいちねらわ
ねえんだ!


うーん
うーん
ガミーン!!
ブス
ブスッ
よけいなことをするなっ弓彦っ

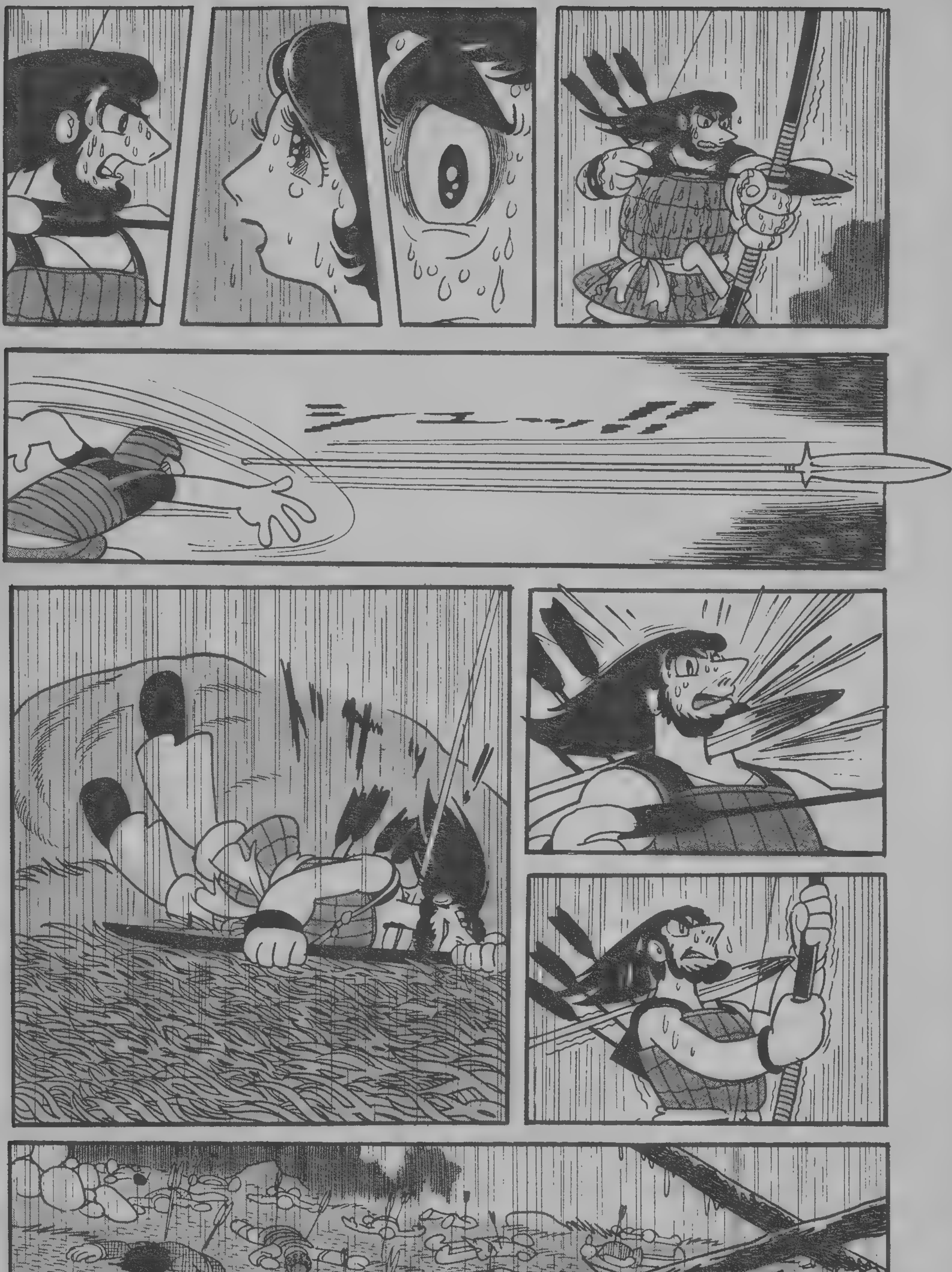

あんたこそ じゃまだから あっちへいっ てろよ
ちえっ
ニニギーッ 猿田彦は ここだぞーっ
ニニギッ 馬を おりろっ ひきょう だぞ
おりる 必要は ない！
これが 近代戦と いうものだ やばん人め！


ふん
近代戦か
聞いて
あきれる
わ……
きさまの
首を
馬の臓物の
中へ　おし
こんでやる！
やれる
なら
やって
みろ！


ガー
うっ
ブスッ
ギロリ
ムッ…ムムム………
ブスッ


おのれーッ


さあ 逃げろ どこへでも逃げろ だが いっとくが 一キロ四方どこへ 逃げたって…
おれの矢は おまえの胸を 射ぬくからな
き…きさま ……だれだ！
おれは ヨマ国の 天の弓彦だ
ヨマ国… ふん あの国は おれが 滅ぼしてやった きさまは生き 残りか？
動くなっ
すぐ兵隊に 命令しろ ここへきて 並べといえ おれがひとりずつ あの世へ送って やるぜ
それより ヨマ国の女に 会いたくない か？ おまえの国の 女だぞ
なにっ
この女はヨマ国の娘で おれの奴隷なんだ どうだ この娘が 殺されるところを見たい かっ
うっ




よーし
この勢いで
ヒミコの宮殿へ
つっ走れーっ
用のない物は
片っぱしから
焼きはらって
しまえっ!!
宮殿と
穀物倉庫だけは
残しとけっ!



〈つづく〉

お詫び—第9号の31ページと32ページがいれちがいでした。
お詫びとともに訂正いたします。

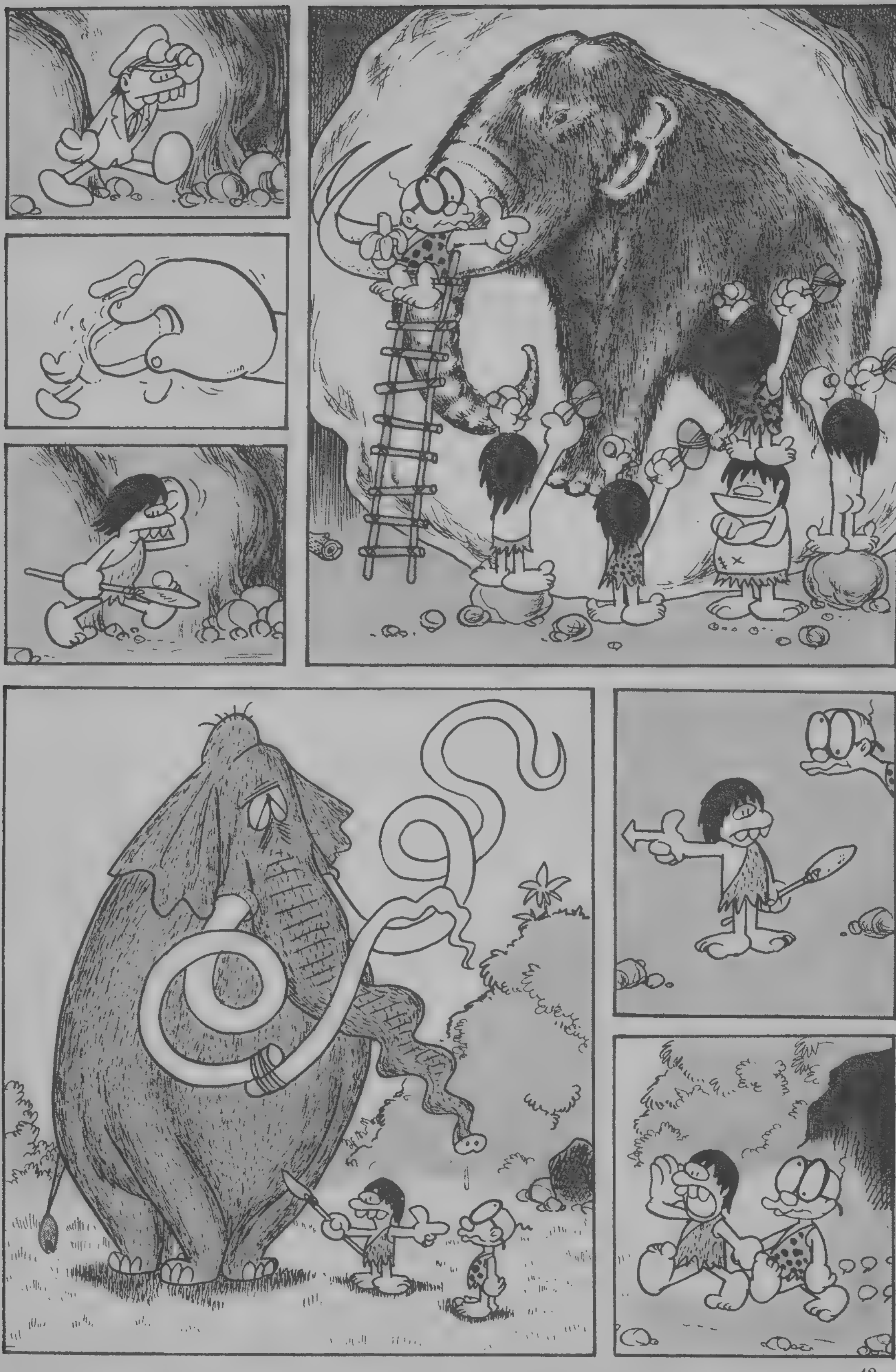
ジュン
の
まんが

章太郎の
ファンタジィワールド
ジュン

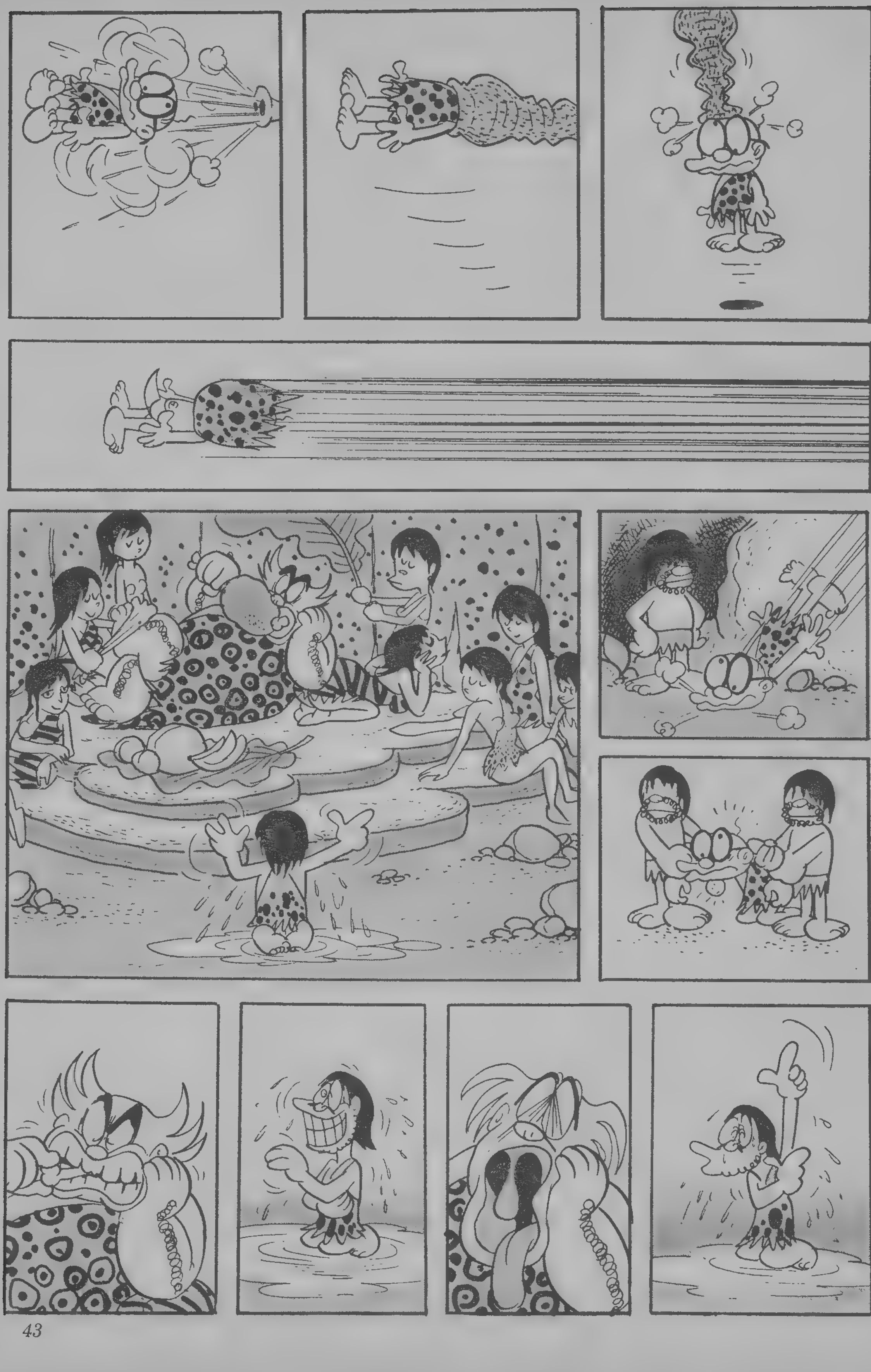
RENSAI ⑩

石森章太郎（いしもりしょうたろう）

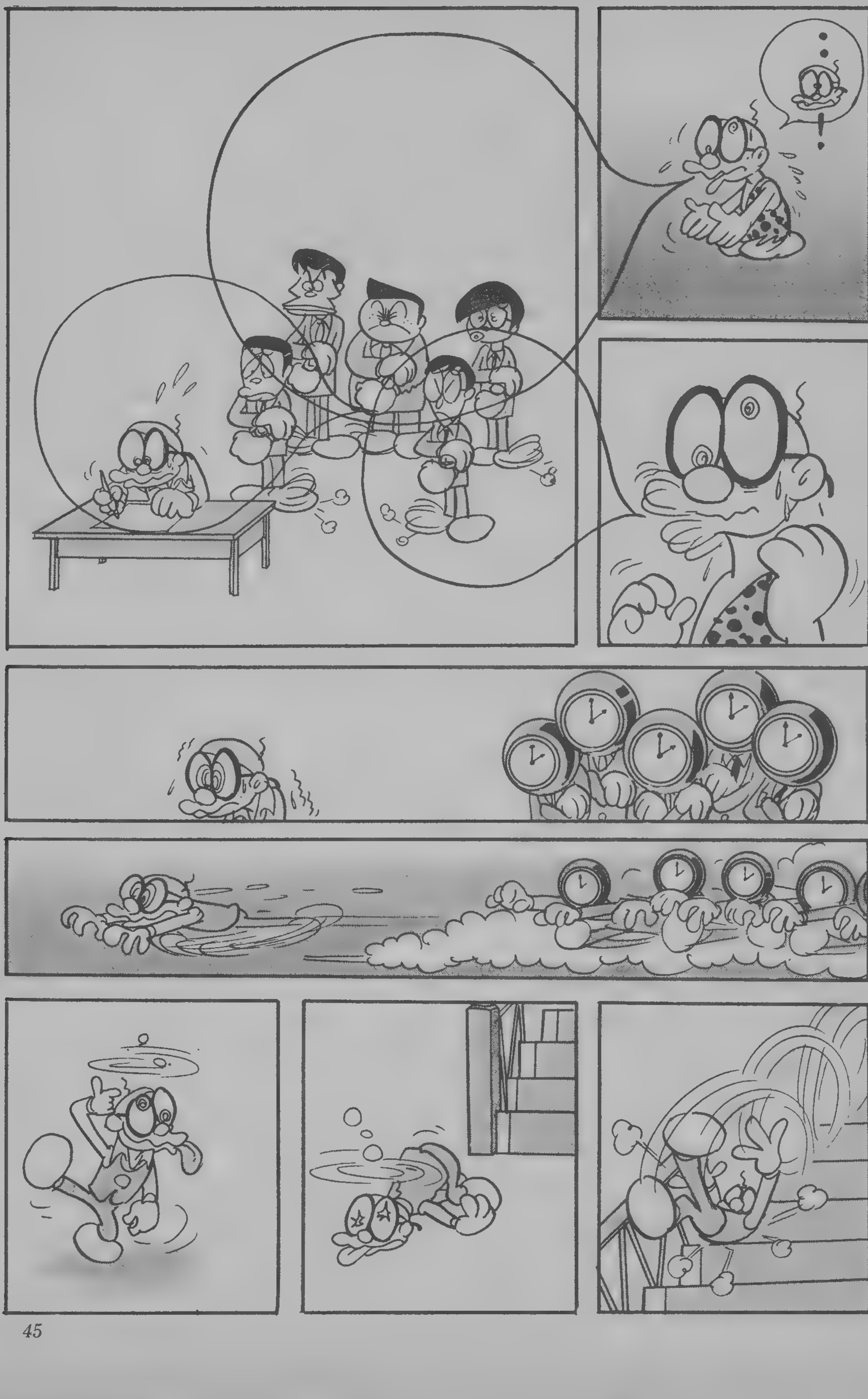


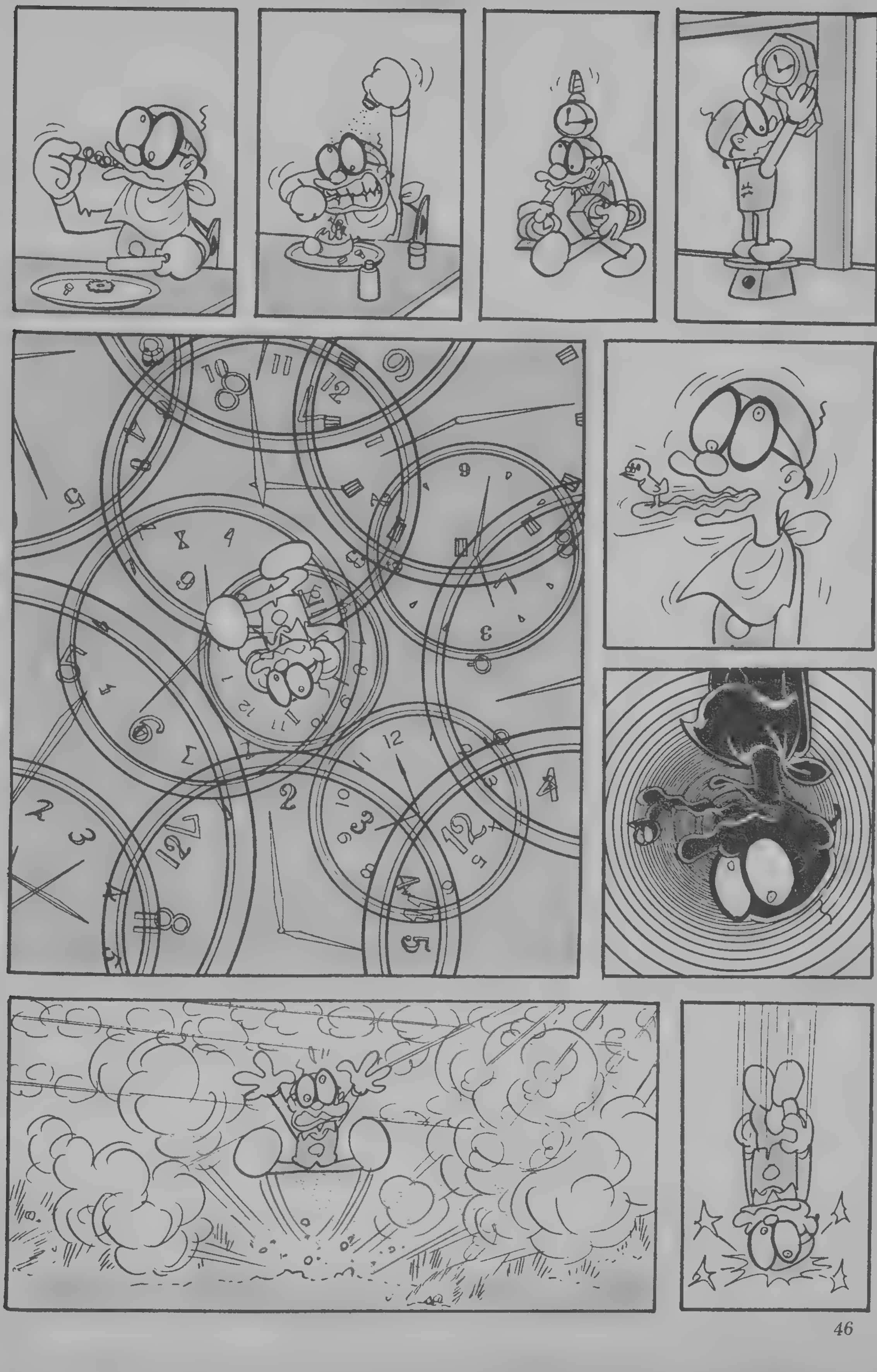


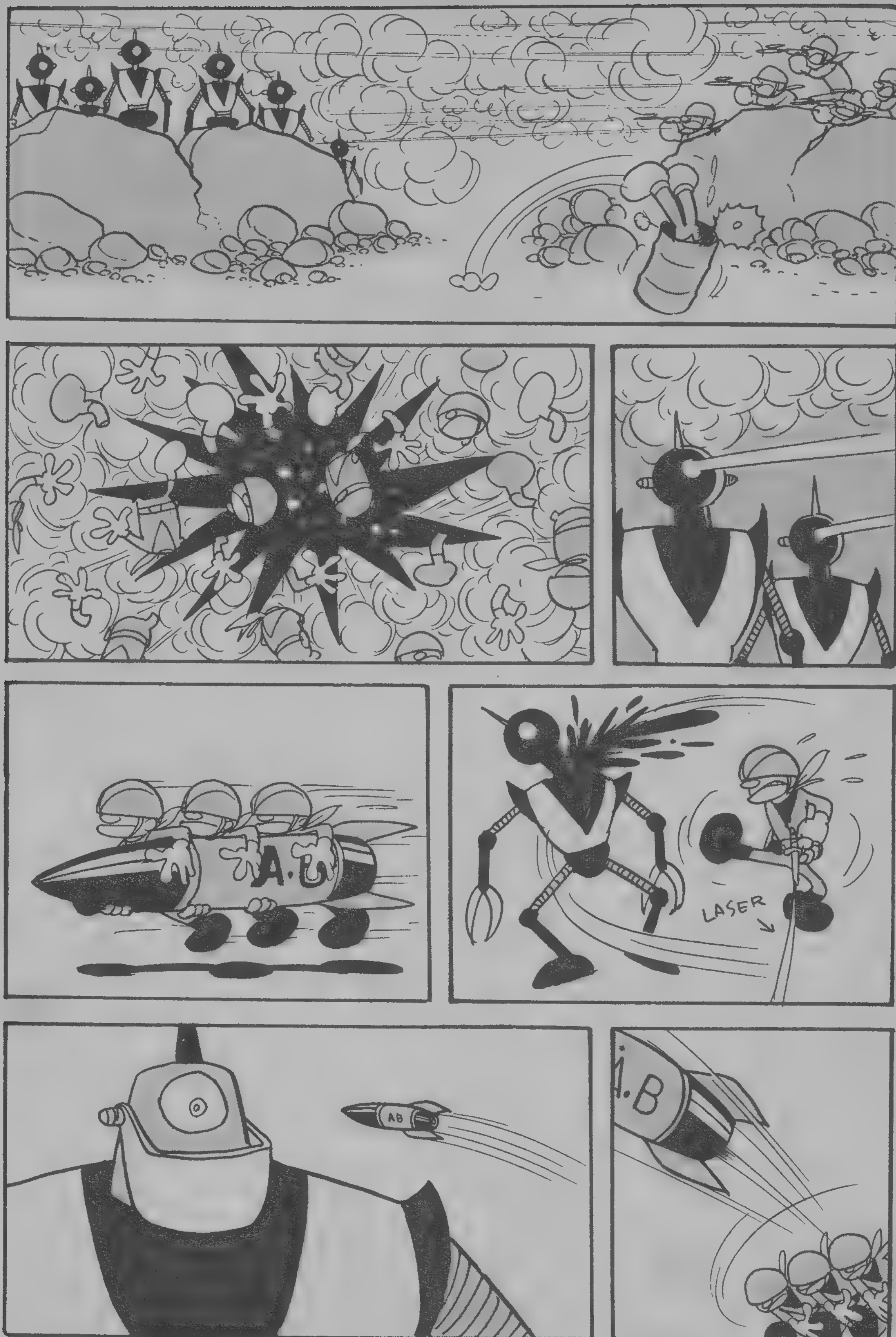
⦿『ジュン』を読んで、ご意見、ご感想がありましたら、東京都豊島区南池袋一の二〇の一 横田ビル 虫プロ商事出版部 石井文男記者におたよりください。

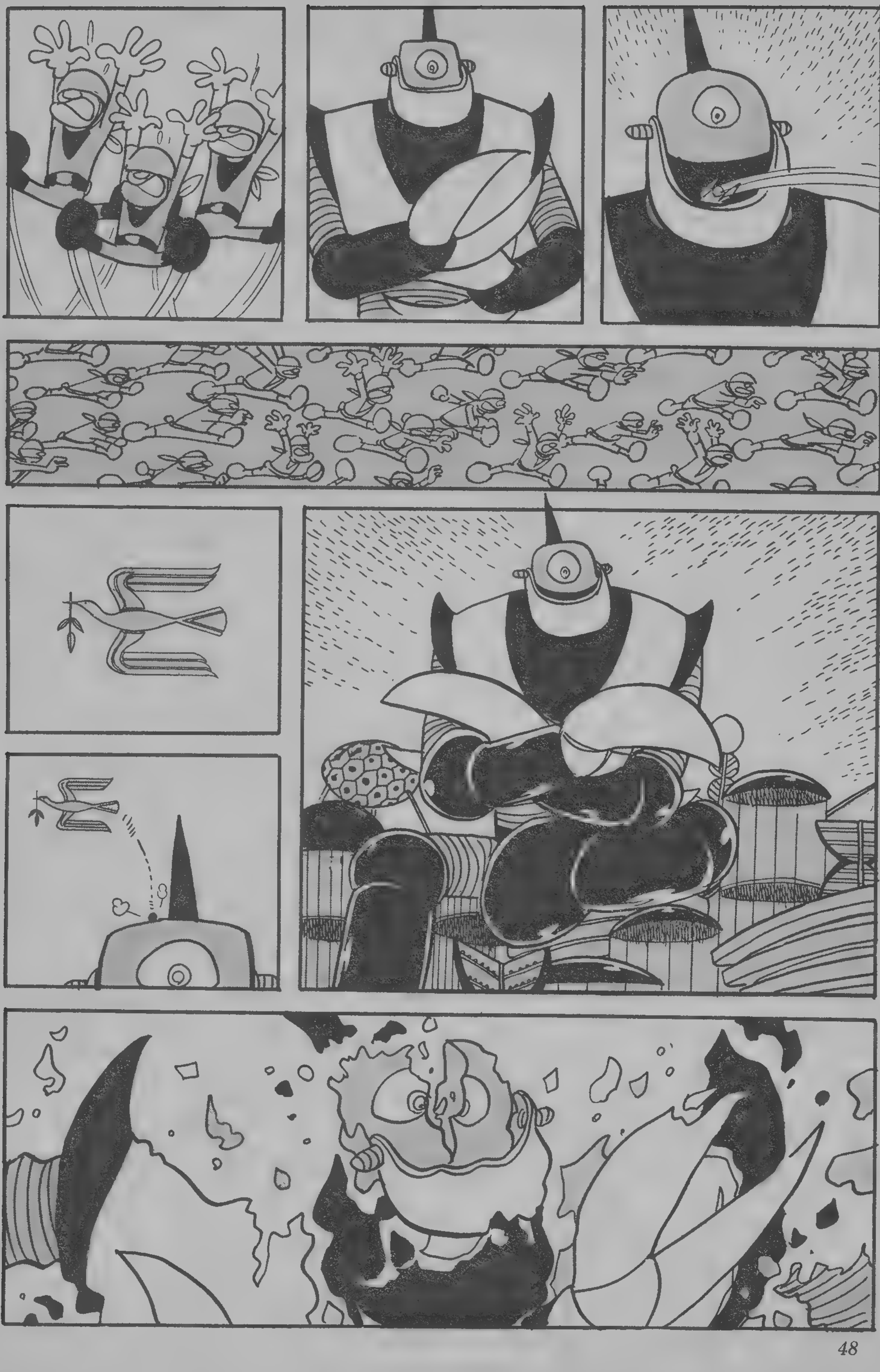


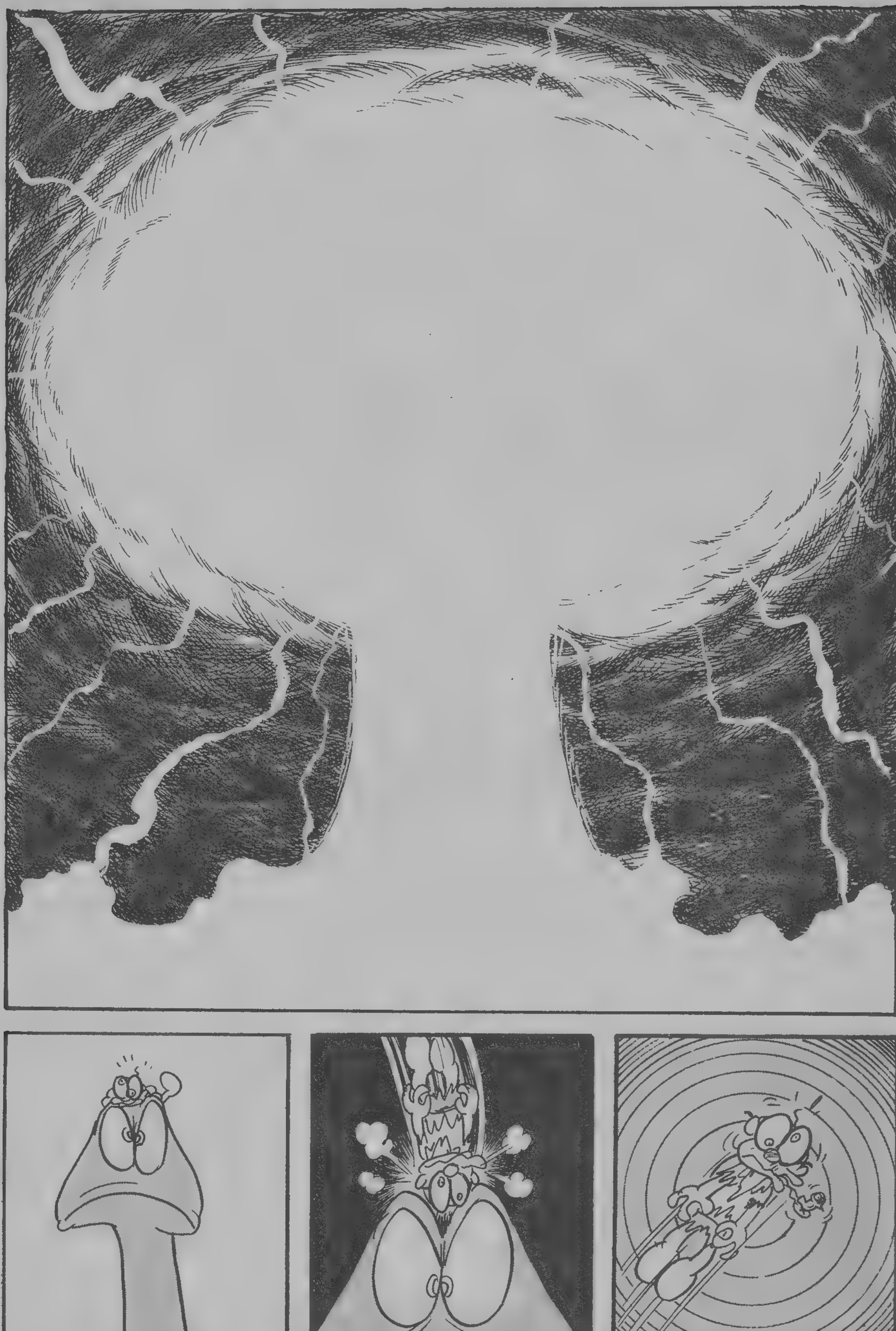


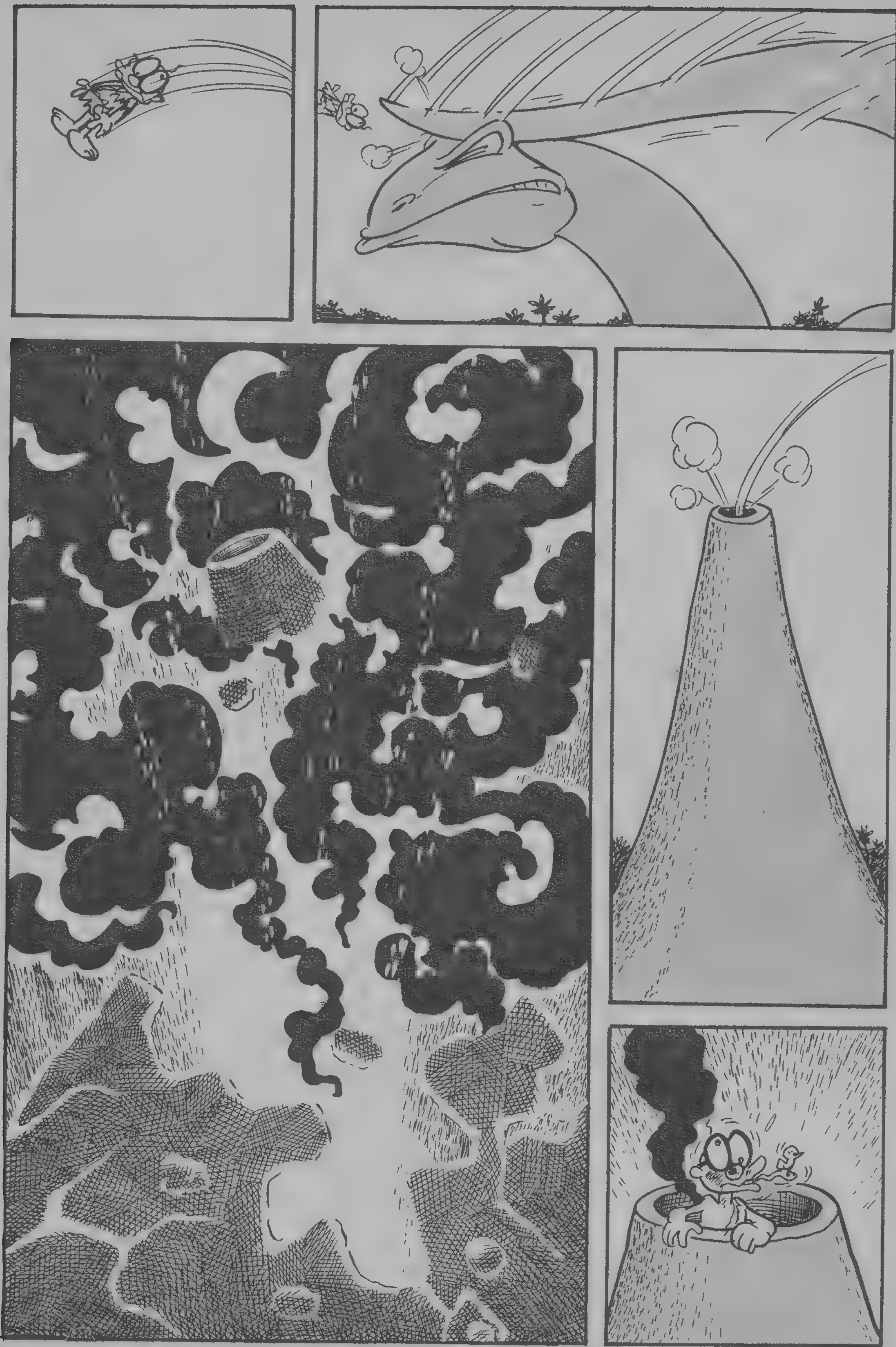




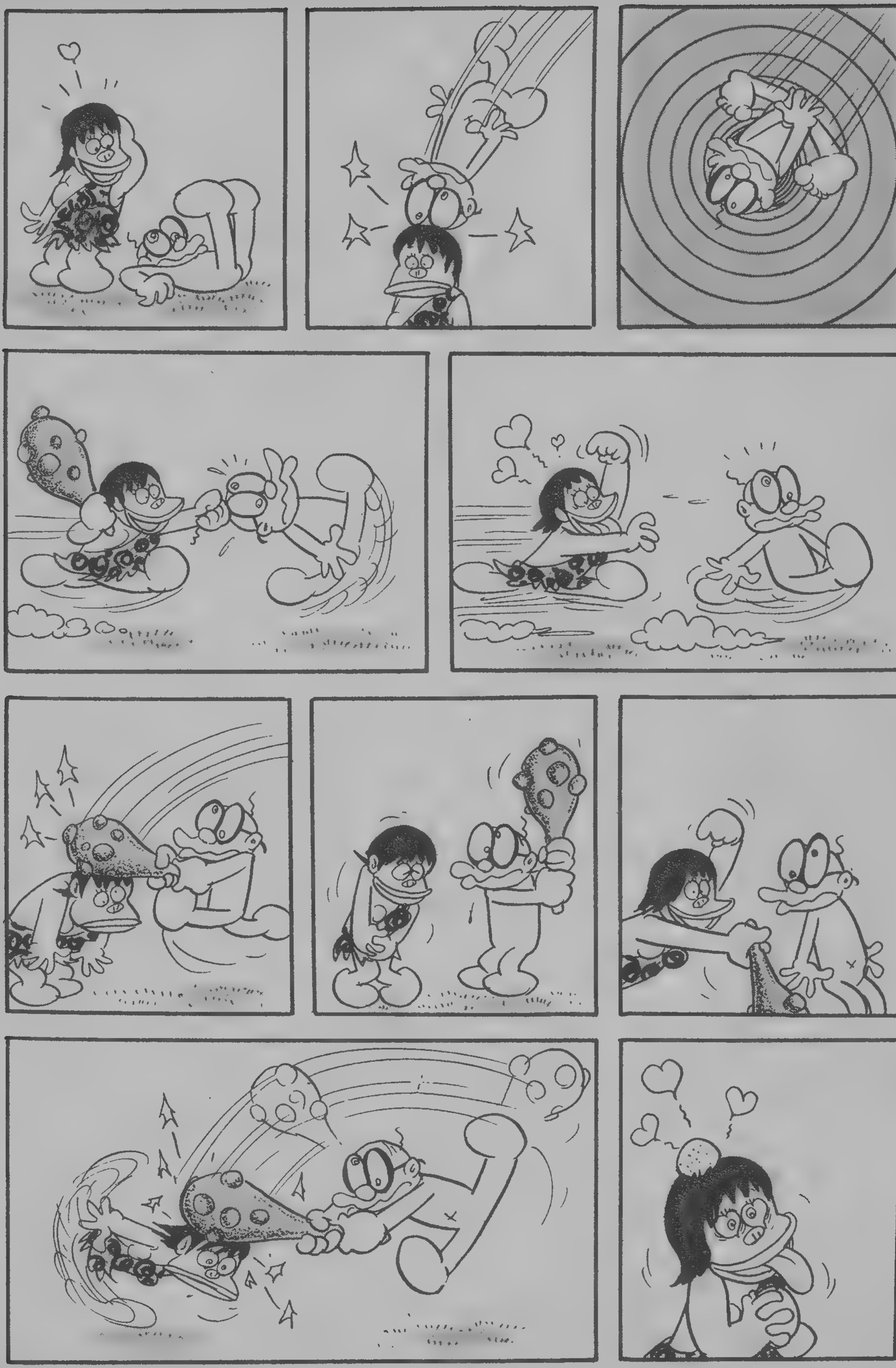

A.B
LASER
AB
A.B

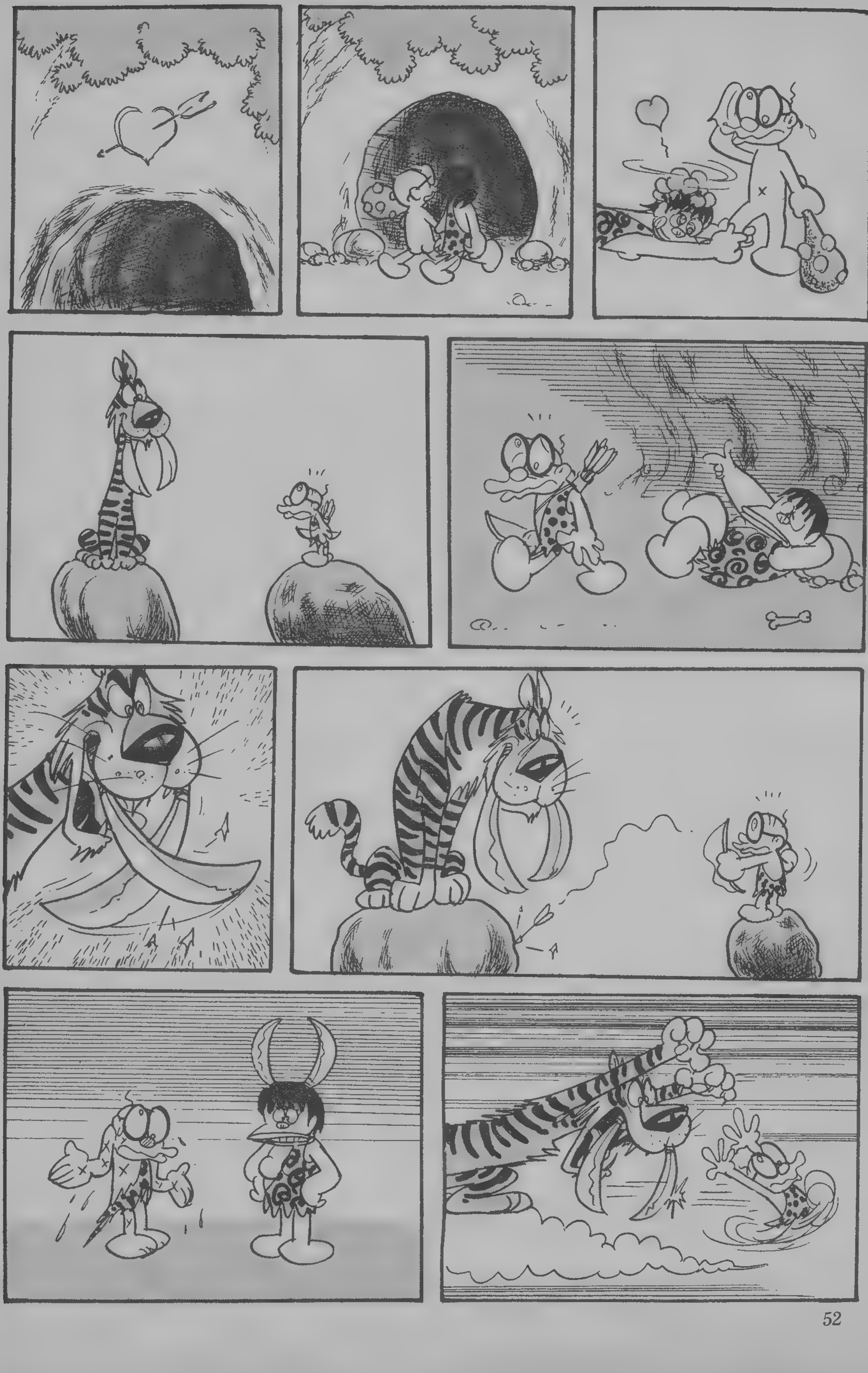






ジュン









〈つづく〉

シリーズ黄色い涙

青春残酷物語

—その4—

RENSAI.

／FÛTEN／

フーテン

第1部 春の章

No. 7



By. 永島慎二



⊙『フーテン』を読んで、ご意見、ご感想がありましたら、〒東京都豊島区南池袋一の二〇の一 横田ビル 虫プロ商事出版部 鈴木清澄記者におたよりください。



注＝ヨドバシとは、新宿淀橋警察署のこと。



■永島慎二先生のご住所は、東京都杉並区阿佐谷北二の十二の十五です。

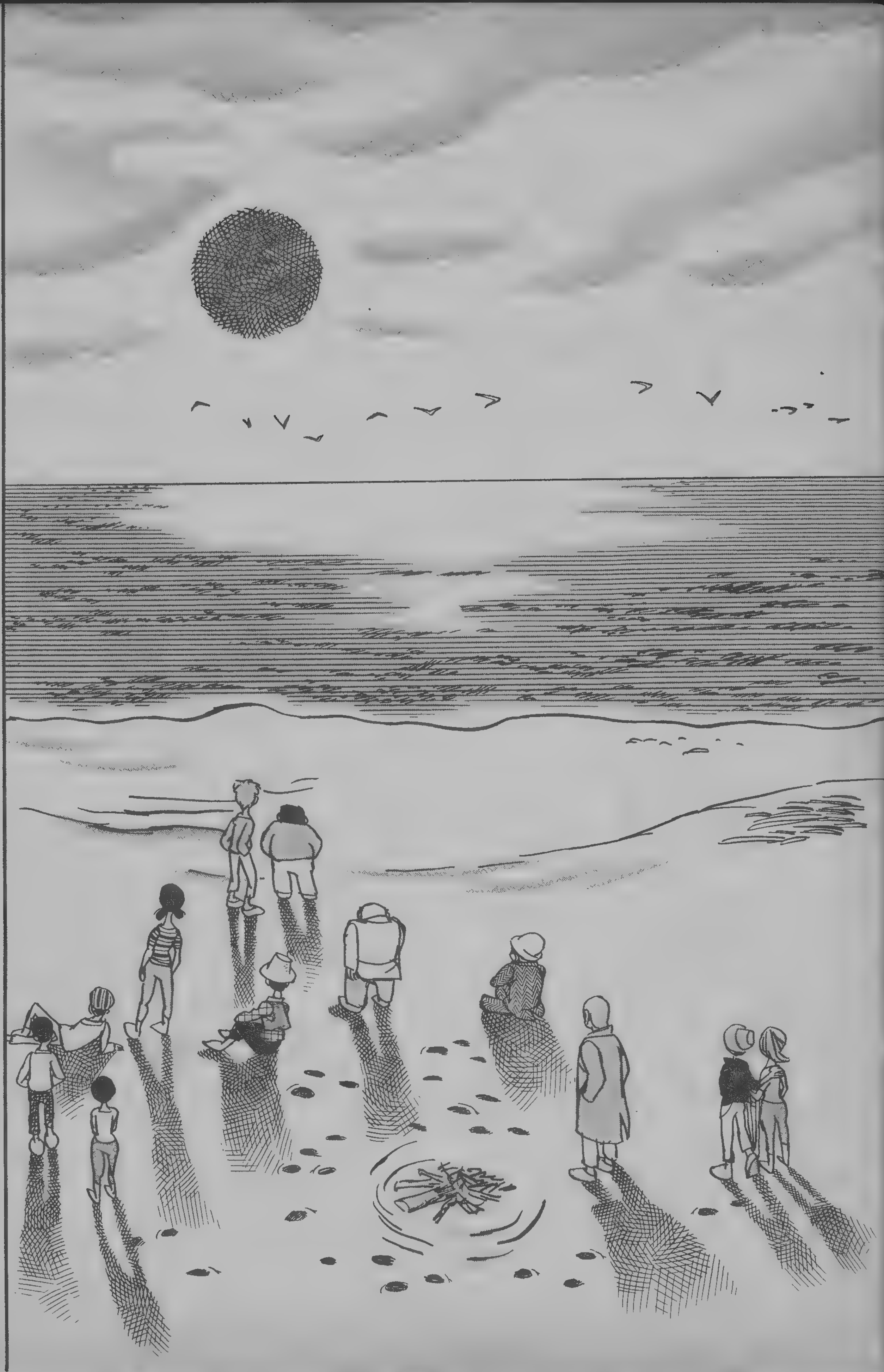

タクシーをひろえばいい五　六台でいいだろう
金なら　ある……　……よ
しゃっ社長！　あんた　そりゃ　いくら　なんでも　もったいねえよ
そんだけありゃあ　みんなで　カツ丼が　食える
ウイ！
カツ丼より　カレーライスにラーメンがいい！
金なんて　なんにつかったって……もったいないと思えば　もったいないものだがね
ま　金は　つかう　ものさ！
ヒャッホー
よーし　きまった　いこう!!


おい
だれか
西口へ
いって
おにぎり
買って
きて
くれ
よし
きた
コートさん
おれと
ハイちゃん
買いにいこ!!

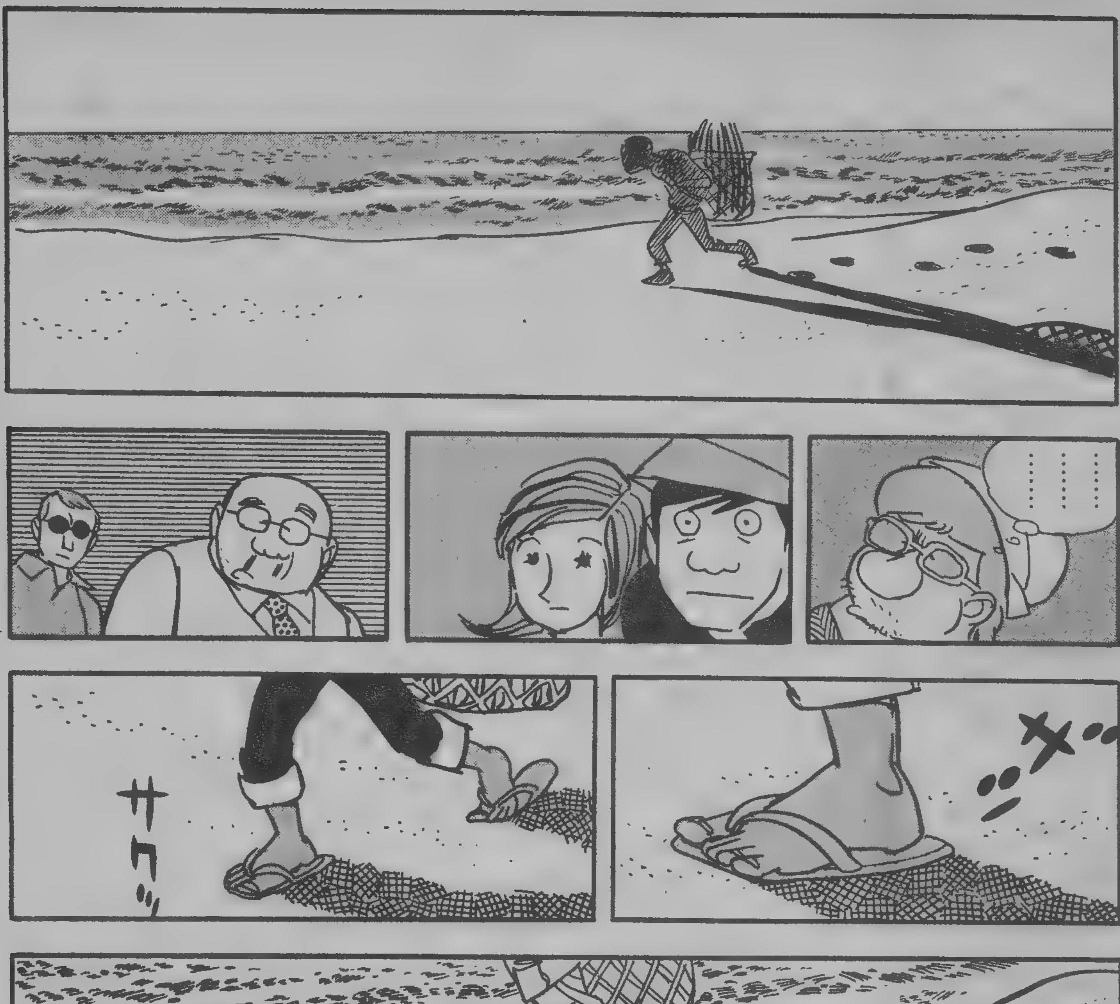

おう海だ!
ウヒョッ潮のにおいだ!!
いやまいった
まっ暗でなにも見えん
腹がへった
おうみんなで枯木をじゃんじゃん集めてきてくれ!
自動車でもけっこうかかるもんだわね
まあ こんな でたからな
あと四時間ほどで夜が明けるぜ!


考えてみるとおれ生まれて初めてじゃないかな海見るの…
おれは……海につかりながら育ったようなもんだな
星がでてきた………
あしたは晴れるな……
ザ
ザ
ザ
グー

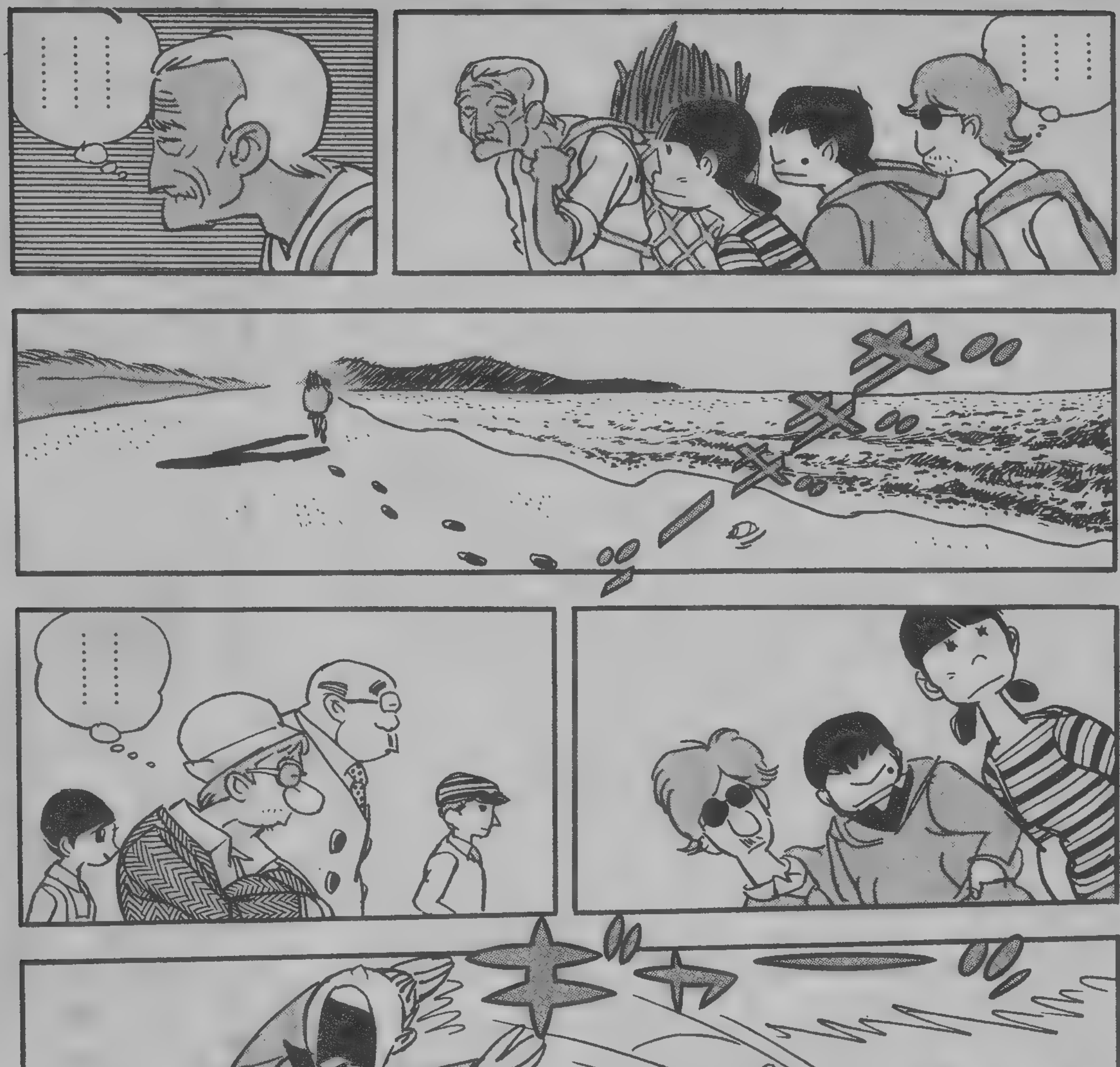

あ
あ
ぁ
グ〜




気にいらねえな……
なにが……?
美しい……とは思わない……?
そんなことじゃない!
こんな大きなはてしもないように見える海にも水平線があるってことさ……
ザザザザザ……



サクッ
ザッ
サクッ
ザクッ


アアア



えへへへ……
ちめてえ
おい……だ だいじょうぶか?
つみほろぼしさ!
いい気持ちだぜ!
よーし
おれもだ!


ギャッホーッ
わーっ
ザザザーー
おい だれか 白タマ 買いに いったろ？
ハイミナールならあるぜ
ほ ほん とかよ！
ならんで ならんで
ひとり四つずつだぞ！



カリ カリ
カリ
た たったの四こじゃきかねえんだな……………な……!
チ!
しようがねえなあ……
ダンさんはいらない?
ああいらんよ!
あたしたちもいいわよ!
おい……
いっちょわしも飲んでみるか
うわーっ
ひゃっほーっ


せえの
いまよう
我身かわいや
ホーイの
ホイ
あの子
かわいや
ホーイホーイ


こじきになってうらぶれて
よってきもせぬスズメをおって
一日イッパイ
ーうたって
いたって
いたい!
我身かわいやホーイのホイ
あの子かわいやホーイのホイ
人間かわいやホホイのホイ
コテ。
コテ。


……?
……?
いったい何もんじゃろか?
とんとわからん……
新宿のフーテン族といいます
気にしないで下さい!。
新宿のフーテン族……?
やっぱり日本人なんじゃろなあ……
わっ!! なんだこりゃ重油じゃないかきたねえ
太古の昔……地球上に海ができてまもないころは………
どんなに美しくきれいだったことか
ふう
人間は海をよごすために生まれてきたのかもしれないな


海も歳をとった……
………
二十代のものが歳をとるということと……
六十代の人が歳をとるということのちがいはあまりにも大きい……
見てよ！この貝のきれいなこと!!
カニの親子だ！
すげえコンブだろ
これワカメかなァ
ワカメのみそ汁が飲みたくなった
おれはやっぱしつかれてんだ
………
まいったな……ふう
すごいわ……まるで貝の墓場ね


おい見ろ なにかの骨がでてきたぜ……
人間の骨じゃねえのか
ばかだなそりゃホネ貝のかけらだよ!
きみどこか体のぐわいでもわるいんじゃないのかね
自分のからだを自分でささえてんのが ちょっとめんどうになってきただけだな……
……
いや……べつに……
ひとつふたつ……
このまんまできることなら だれかにあずけちまいたい気持ちだ
無責任なことをいっちゃいかんな
人間ってやつは……!少しばかり……人間におたがいよりかかりすぎていけないね……


とにかく……つかれた……！
くたくただあ
それによいこらせっと！
春にしちゃ陽ざしが強すぎらあー
社長さん！金貸してくれないか？
……どうするね？


ひとーつ ふたーつ みっつ よっつ いつつ…… むっつ……
春の海 ひねもす のたり のたり かな とくら


ブオー


おれは……帰る！
仕事をしなくてはならない……！
……　……
締切がとっくにすぎちまった……帰ってかかなきゃあ……
じゃあ……
みんなわるいけど……
おさきに……な！
さいなら


自称児童漫画家
長暇貧治は、
湘南の海岸線に沿って
走るハイウエイを
歩いて……
ひとり東京に帰っていった。
昭和三十六年春
三月も終わりに近い
ころのことである……。
第1部春の章
おわり

〈つづく〉


異色作をおくりつづける虫プロが話題の中で放つ テレビシリーズ第6弾！
幽玄の乱歩の世界を借りて
漸新なイメージ ここに誕生！
わんぱく探偵団
放映迫る！
原作・江戸川乱歩の少年探偵団シリーズより
主題歌 朝日ソノラマ
制作・虫プロダクション

日本漫画家協会 "漫画100年"開催決定

来年は、文明開化の明治から数えて満百年めになるが、それを記念して、日本漫画家協会主催による第一回会員展"漫画100年"が、来春一月、東京・池袋の西武デパート七階ホールで開催されることになった。

これは、まんがの歴史ではなく、まんが家から見た世相百年史で、明治、大正昭和の各セクションでそれぞれの世相をまんが化したものの展示会である。

また未来百年の予想史のようなものも企画されている。

ともあれ、まんが界でははじめての大規模なまんが展なので、そのなりゆきが各方面から注目されている。

期間は一月二日から十六日までの予定

漫サン主催による「漫画講座」開かる



「漫画サンデー」の投稿欄「漫画大学」に投稿しているプロまんが家志望者を集めての「漫画講座」が、八月二十七日午後、東京・都市センター第一ホールで開かれた。

サトウサンペイ、小川哲男、岡部冬彦各氏をはじめとする代表的まんが家により、長いまんがの描き方、ネタの拾い方、アイデアと絵などについて、三時間半講義が開かれ、まんが家志望者たちが熱心に聴講した。

（写真は小川哲男氏の講義）

「がくまん'67」が発行される

早稲田、慶応など十一の大学による全国学生漫画連盟から、「がくまん'67」という会員の作品集が、十月上旬に発行される。

「人類の歴史」というテーマのもとに、古代から未来までを十一に分け、各校が一つ一つを受け持ち、一コマで表現するものである。

ほかに自由課題を与えておとなまんが二ページと児童まんが八ページが載る。

B五判七十ページで、千部発行。

また早稲田大学からは、「あかさんかく」という会員の作品集が発行される。

ャーナル　まんが界ルポ

くるか、時代まんがブーム?

つい半年前までは、白土三平の「カムイ伝」「ワタリ」と横山光輝の「仮面の忍者」「水滸伝」の活躍のみで、まったく低調であった時代まんがも、新たに、石森章太郎の「佐武と市捕物控」「黒い風」、手塚治虫の「どろろ」、小沢さとるの「丹下左膳」、さいとうたかをの「無用ノ介」などが加わり、少年誌では活況を呈しつつある。

この傾向は、明治百年の記念行事が来春早々より全国的に活発化すること、新聞・テレビ・雑誌などでもこれに関する

まんが界

企画がさらにふえ、たとえば、NHKの「竜馬がゆく」など幕末物が進出することなどから時代ものの流行を敏感に読みとった少年ジャーナリズムが、これに積極的に参加しようとする姿勢の一つと考えてよいだろう。

もっともテレビでは捕物帳はじめ、かなりの時代ものが現在も放映されており一方、青年まんが誌においても、時代ものを得意とする平田弘史、小島剛夕などがトップクラスの人気を得ている点など時代まんがブームの素地はすでにじゅうぶんだともいえる。ともあれ、どんなヒット作が生まれるか楽しみである。(S)

「劇画パイオニア」結成

佐藤まさあきの佐藤プロでは、「劇画パイオニア」を結成し、会員を募集している。劇画を愛する人なら老若男女を問わない。締め切りは十月中旬ごろ。

単行本「劇画大学」発行

辰巳ヨシヒロ経営のヒロ書房から九月十日に「劇画大学」が出版された。劇画の発生・劇画史・劇画入門・劇画テクニックなどが掲載されている。

東京デザインカレッジ第一回卒業展

八月二十三日～二十八日まで、東京・銀座の村松画廊で、東京デザインカレッジ漫画部の卒業生二十六名による作品展が開かれ好評だった。

なお、それらの作品集が九月中に出版される予定である。

まんが家短信

▼**水島新司**▲『少年キング』三十八号から、「下町のサムライ」にかわって、同じく熱血学園ものの「ファイティング番長」の連載をはじめた。梶原一騎原作によるもので、テレビと協同企画。

▼**水野英子**▲東京のわずらわしさと暑さからのがれて、八月二十三日から三週間静かな軽井沢でまんがを描く。

▼**手塚治虫**▲九月十一日から、東京新宿のコボタンで「手塚治虫作品展」を開催中。手塚の過去二十年間の作品の流れが壁面いっぱいに展示され、好評である。二十五日まで。

▼**ちばてつや**▲アクアラングにこり、八月二十日から三日間、伊豆下田の海岸にくりだしたが、台風の余波でぜんぜんもぐれず。

▲**つのだじろう・貝塚ひろし**▲八月二十六日徹夜の将棋大会に参加。その結果、つのだ氏が二位で貝塚氏は四位。

▲**久里洋二**▲八月の末から九月のはじめにかけて、「久里洋二と七つの国のアニメーション」「幻想画展」「テクニックアニメーション展」を催おし、なかなかの好評だった。

十月から怪獣もののテレビまんが二本放映

十月の番組改編で、怪獣もののテレビまんがが二本放映される。

ことしは、テレビに映画に雑誌にと怪獣が現われ、〝大怪獣ブーム〟を呼び起こしたが、そのブームもまだまだつづきそうである。

だが、一般的傾向として、はじめはリアルな怪獣が、「オバケのQ太郎」「怪獣ブースカ」と、こわくない、いわゆるアイドル的な怪獣の登場へと、変化してきている。

十月放映の「ヤダモン」と「おらあグズラだぞ」も、後者的な怪獣が主役となって活躍するものである。

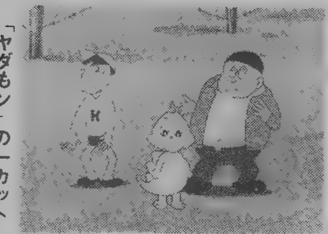
▼ヤダモン▲

十月二日からフジテレビで放映。時間帯は毎週月曜日午後七時から七時三十分。

怪獣の生み落とした卵からかえった子どもの怪獣、ヤダモンが家庭にはいりこみ、いろいろな事件をまき起こす。怪獣の持つ能力はすべてそなわっていて、空を飛ぶことも火を吹くこともできるが、いずれも中途半端なもの。ヤダモンはネコがきらいな身長八十センチの小怪獣である。

原作うしおそうじ。制作ピー・プロダクション。

雑誌は十二月号から『ぼくら』『なかよし』への連載を予定している。

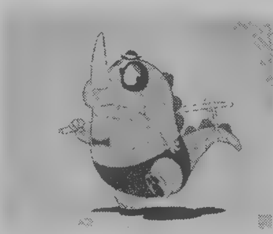

「ヤダモン」の一カット

▼おらあグズラだぞ▲

グズラは南海の恐竜だが、流されて日本に着き、これも家庭にはいりこむ。ユーモアにあふれた怪獣ものである。

原作、笹川ひろし、制作竜の子プロ。十月七日から毎週土曜日午後七時よりフジテレビより放映。

雑誌は『少年サンデー』に板井れんたろうが連載している。


「おら グズラだぞ」 1カット

TVまんが展望　まんがジ

光速エスパーフェスティバル おこなわれる

日本テレビで毎週火曜日「光速エスパー」が放映されているが、八月二十七日横浜のドリームランドで、東芝と光文社の後援で、〝少年・光速エスパーフェスティバル〟が開かれた。そして「光速エスパー」の執筆者、浅野りじ氏のエスパーまんが教室や、似顔絵コンクール、歌唱会などが行なわれ、児童たちは夏休み最後の日曜日を楽しんだ。

TV まんが短信

▼水木しげるが『少年マガジン』に連載中の怪奇まんが「墓場の鬼太郎」が、東映動画でテレビ化を企画中。十一月放映をねらっている。

▼ピー・プロでは「怪獣王子」につづく特撮ものとして、うしおそうじ原作による「ジャガーマン」のパイロットフィルム制作にかかっている。これはジャガーマンと呼ばれるスーパーマンの活躍する物語で、『冒険王』に永島慎二が連載。

▼日本テレビで放映中の「怪獣ブースカ」(円谷プロ制作)は九月いっぱいで放映終了となる。そのため日本テレビでは、円谷プロと、来春放映の新特撮シリーズ制作についての話し合いをはじめたもようである。

▼NETで放映中の横山光輝原作「魔法使いサリー」は、人気も上昇し、来春三月まで放映延長が確定した。

▼白土三平原作の「カムイ伝」(『ガロ』連載)のテレビ化が企画されたが、作品内容が多少残酷であるという理由から制作延期となった。

作家
井上　光晴



□「群像」10月号に廃鉱をテーマにした長編「階級」を発表。本年度刊行の著書「眼の皮膚」（勁草書房）「乾草の車」（講談社）「九月の土曜日」（潮出版社）

廃鉱地帯のまんが

二か月ばかり前、私は筑豊をたずねたのですが、田川市に隣接する廃鉱地帯で、奇怪なまんがを描く男に出会いました。

鉛色の廃屋群の中を通過する白いコンクリート道路に、その男は赤のマジックインキで幽霊のまんがを次々に描いているのです。それがなんともいえず薄気味がわるい。ひとりの幽霊は口にネコをくわえ手に何匹かのネズミをつかんでいました。頭にキャップ（坑内帽）をつけたもうひとりの幽霊は鳥打帽をかぶったためがねの男を噛み殺そうとしており、「助けてくれ。金はもう返さずともよい。なんでもいうことを聞く」ということばが添えられています。思うに、めがねの男は金融業者なのでしょう。炭鉱離職者に高利の金を貸付けて、生活保護費を担保にとる金貸しのことを私は何度も見たり聞いたりしましたが、その高利貸しが「助けてくれ」と悲鳴を上げているのです。

「どうしてこんな道路にまんがを描いているのですか」と私が聞くと、小ざっぱりした半袖と釣合わぬような古い地下足袋をはいていた男は「紙を持っとらんからねえ」と答えました。

「炭鉱で働いていた人ですか」と、重ねて聞いたのですが、それっきり男はものをいわず、つべこべいうと、おまえもまんがにしてしまうぞ、というような目でじろりと私を見るのです。

男はきっと、何年か前はまんがの好きな坑夫だったに違いありません。そして荒廃しつくした現実の中で、やりきれぬ思いを幽霊の恨みにこめようとしたのでしょう。キャップをつけた幽霊の口からしたたる赤いマジックの血は、そのことをはっきり告げていました。エログロまんがの横行する時代の片隅で、こういうまんがも描かれていることを、私たちは知っておく必要があります。

落語家
立川　談志



□10月の上席名人会で、新趣向の対談漫才なるものをやってみようと思っている。はたしてどんなことになるか？乞うご期待といったところ。

近頃のまんが家の作品に一言

世はまさにお笑いブームとやら、それに便乗した寄席芸人たち、そしてそれらの演じる笑いの程度の低さ……とは毎度演芸評論家と称する諸先生たちのTV演芸の評である。たしかにお説の通りで、その笑いの低さには私が聞いても腹が立つほどだ。

が、さて、こんどは絵で見せるお笑いであるまんが——これははたしてどうだろう。まんが評論家なんてなものが少ないからいいようなものの、まずプロと称するまんが家の笑いに対する程度の悪さはひどいもんだ。

はっきりいう。〝まんが家ってナア、バカじゃねえのかネ〟

よくあんな程度で許されていると思う。そのくせ一応は文化人の仲間にはいっているつもりだから腹が立つ。新聞、週刊誌を通じて〝こいつあ、いいや〟と笑える著名なまんが家の作品にまずはぶつかったことがない。おまけに、たまたま一つのパターンを見つけると、それで十年は食えるというありがたさ。それなのに、そのパターンの使いようの陳腐さかげん。TV演芸の笑いより下であることはたしかだ。

天才、加藤芳郎さんにしても、一冊の中に腹をかかえるのが五、六点だから、むずかしいものなのかもしれないが、たとえ腹をかかえなくてもよいから、一応プロとしてのメンツを保つぐらいの作品を描いてくれ。

これは子どもまんがについても、またしかりである。そして、わが手塚治虫もちょっぴり安定したムードがあるのは遺憾である。

手塚さんよ、変なおとなまんがはこの際よして、もう一度、あの夢のある思い出に残る作品を、しゃれた会話と映画の手法と、冴えた空想からやってはいただけないでしょうか。一家をなし、一つのエポックを作った手塚さん、それも最高峰をきわめた手塚さんも次の峰に挑戦する義務があるはずです。

ファンタジーを作るか、もう一度、高度な少年SFを一段上のところで作るか、なんでもいいのです。やってください。勝手な注文かもしれませんが、ファンとはこんなものです。

●まんがと私

映画女優

吉永小百合



□自動車の免許もとり、[redacted]れる。3か月ぶりの映画「斜陽のおもかげ」に新珠三千代さんと共演。テレビドラマにも出演の予定

私の教養？

「吉永さん、この本読んだことある？」

とつぜん、つきだされた表紙の色もあざやかな少年雑誌（マガジンだったかサンデーだったか忘れてしまったので……）に目を白黒させて思わず"ううん…"と首を横にふると、昼働いて夜学ぶ、わが同級生の彼女は、

「あら、教養ないわねえ！」と叫んだものである。それ以来、私は、教養？をつけるために努力を惜しまない、勤勉なまんがファンのひとりになってしまった。目下のところは白土まんがに夢中である。

考えてみると、小さい頃から、まんがにはずいぶん親しんで育ってきているようで、素質は昔からあったのかもしれないとも思う。だいたい、うちの母などは、まんがに対して大いに理解のある方で、ひところPTAなどでまんが追放が叫ばれ、学校に持っていってはいけないといわれていたときも、母からまんがを禁止されたことはない。

姉の本箱から『少女』をひっぱりだして、「あんみつ姫」のところを破いておこられたり、一家じゅうで「サザエさん」に笑いころげた記憶もある。

それに、こんなことをいうと少々おこがましいのだけれど、私自身もじつは、まんがのヒロインの出身(?)である。

というのは私がいまの仕事にはいるきっかけになったのが、そもそも小学六年のとき、武内つなよし先生作「赤胴鈴之助」のラジオ放送化で、さゆり役に選ばれたことであり、つづいて桑田次郎先生の「まぼろし探偵」テレビ化のとき、さくらという少女の役をやらせていただいた。

もう、まんがのヒロインをやるには少々オトナに近づいてしまったかもしれないけれど、「リボンの騎士」のように馬に乗ってかけまわる少々おてんばなお姫様(?)の役なんて、できたらまだやってみたいような気がしている。

ともあれ、まんがが価値をみとめられ、どうどうと世の中を渡っている姿に、たのもしさを感じる次第である。

詩人

三木 卓



□詩集「東京午前3時」で第17回H氏賞受賞。詩のみならず、童話にも意欲的で、現在長編SF童話を執筆中。近日、出版される予定である。

ともに笑い合う楽しみを

いますぐこの世界から消えてなくなったら、どんなにすばらしいだろう！と思うようないやなものがあります。もし、この世界から不意になくなってしまったらどんなにさびしいだろうと思うような、ぼくのすきなものがあります。

まんがは、そういう好きなものの一つです。小学校にはいる前から好きで、大学を卒業したときも好きで、いまも好きです。この分だと、もし長生きをして養老院へはいるときにはまんがを持っていくでしょう。

いろんなまんがを見ました。最初は『幼年倶楽部』の吉本三平作「コグマのコロスケ」からはじまっています。のらくろやタンクタンクローの世代の一員です。戦後にはヒョウタンツギとプーサンとジェイムズ・サーバーが同居しています。

ぼくはまんがが好きで、まんがを見ることが必要です。それはどうしてか、というと、まんがは、ぼくをなぐさめてくれたり、はげましてくれたり、驚かせてくれたり、喜ばせてくれるからだと思います。ことばをかえていえば、ぼくはそういう、生きるということを肯定している、いきいきしたまんがが好きなのです。あるいはきっと、まんがというものの本質は、そういうものではないかという気がします。なぜなら、ともに笑い合うということを、ぼくはまんがにとって不可欠のものと思うからです。それは、生きるということを、さまざまなニュアンスはあれ、認める精神だと思うからです。

まんがについてむずかしいことをいうと、まんががおもしろくなくなるからいいたくありません。

ぼくは、これからも、人間の心の広さと深さをいっそう広げるような、のびのびしたまんがを見たいと思います。それは単にアイデアだけのことではありません。むしろ、すばらしくいい絵の中にしかあり得ないものとして、それを発見したいという気持ちなのです。

●―アイウエオ順



手塚治虫

★あふれるユーモアのなかに、社会風刺をきかせた、手塚治虫のオムニバス形式による異色ＳＦまんが。



−1− 炎症



症状

前駆症状 戦慄ヲ以テ高熱ヲ発ス 患部ハ発赤激痛ヲ伴ウ 炎症末期ニハ潰瘍 壊疽ヲ起コシ ツイニ全身麻痺ヲ来シテ死亡スル 予後不良

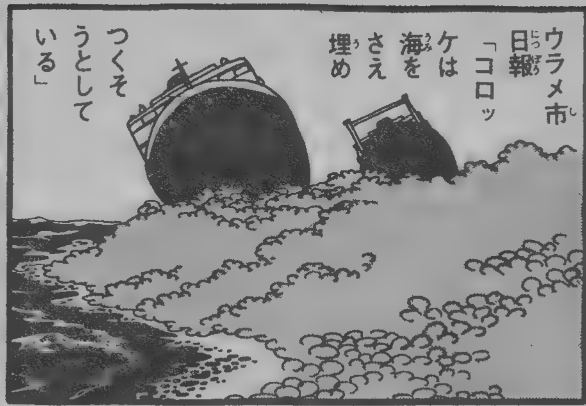
★この作品は、『ＳＦマガジン』(早川書房刊)に、昭和38年3月号から39年3月号まで連載されたものです。

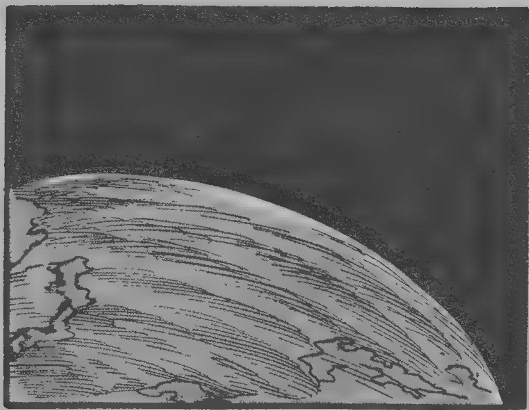

農夫某談
「おらンちの台所にヨ一か月前コロッケが三つ落っこちてただ　それを一つ食ったらヨ　残りがふえて四つになっただ　食っても食ってもへらずにヨふえる一方でさ」
号外タイムズ記者談
「私は、ためしにそのえたいのしれないものを食べてみた。まさしくコロッケだった。
しかも、食べれば食べるだけどんどん分裂してふえていく。こりゃあ特ダネだ!」
州知事談
「というわけで、同地におけるコロッケの大収穫は、わが州の食糧問題の好転に寄与し……」
農夫某産業大臣賞を贈られる。
(号外タイムズより)
イカガワー市トリビューン
「当市の教会同盟では、コロッケこそ神のたまわりし食物であるとスローガンをかかげて、感謝の大行進をおこなった」
神の栄光を!
防衛庁長官談
「コロッケのためにわが国の食糧問題が解決し、食糧予算がへれば、当然軍事予算がふえなければならぬ」



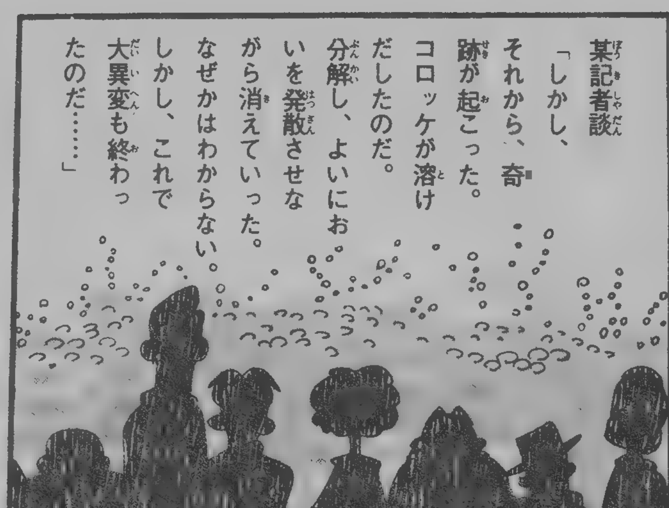
デイリー・ヤブニラミより抜すい
「コロッケはその後もどんどんふえつつある。その山はボタ山のごとく遠くからも見える。
毎日、コロッケをもらいにくる人でごったがえしている。
余波でソース会社の株が三倍にもはね上がっている」
国際救済委員会
ナショナル ソース
付近の某主婦談
「毎日毎日コロッケばかり食べているので、もう、においをかぐのもいやです」
テレビニュースより
「コロッケのボタ山がくずれて、民家を三軒も押しつぶしました。住民はふるえ上がりました。
ついに、軍隊が、火焔放射器を持ちだしました」


テレビニュースより「焼きつくされたとみえたコロッケは、一そうふえ溶岩のようにあふれだしました。イカガワー市は、危機にひんしています」
某科学者発表「あれはコロッケではない！
宇宙からの挑戦である。宇宙人がコロッケに化けて、──いや　あのコロッケは単細胞生物の一種だと思う。諸君　私は警告する！地球はコロッケに占領されんとしているのだ」
防衛庁記録より「ついに大統領は水爆使用を命令した。コロッケの発生地に一ぱつ打ちこまれたが、コロッケは、とたんに倍にふえた。
政府は、ありったけの兵器をくりだした。
しかし、コロッケは、ついに原子力兵器工場を押しつぶした」









治療法

特効薬プラレルタン三粒投与
プラレルタンハ固形ナレド　無限大ニ増エテ
患部ヲツツミ　コトニ破壊性炎症ニハツヨク
根治スルマデ　効果ヲ持続スル
治癒後ハ分解シ　副作用ナシ
最近ハ放射能爆弾ノ乱用ニヨル　炎症寸前ノ
地球星ニ対シテ用イ　成功セル例アリ
（銀河連邦医学大系惑星科）

（つづく）



青年まんがを診断する

最近、青年を対象としたコミック劇画誌がふえ、青年まんがはブームを呼んでいる。このまま定着するか？　問題点はないか？　まんが家、編集者、読者が語る青年まんがの実状!!

ブームを生んだ〝まんが世代〟

尾崎　青年まんがということばは、まだ未熟な感じがするのですが、マスコミも使っておりますし、われわれも使っておりますので、この名称で考えていきたいと思います。

じつは最近、活字の世界でも佐伯千秋、津村節子、富島健夫、平岩弓枝などのジュニア小説がブームとなっていますが、それとおなじように、同世代を対象とした青年まんがブームが起きてきているのは、たいへんおもしろいことだと思います。

では、そのブームの原因はなにか？　また青年まんがの生まれてきた過程は？　……といったところから話を進めていただきたいのですが……。

平田　ジュニア小説の場合と青年まんがの場合は、ブームの発生の原因には、かなりの違いがあると思うんです。青年まんがの場合は児童もののストーリーまんがを読んで育った子どもが、成長して青年になり、そこで彼らが求めるまんが――コミック劇画が必然的にブームを呼ぶようになったのだと思います。



尾崎　秀樹氏

出席者

- 赤塚不二夫（まんが家）
- 小島剛夕（まんが家）
- 佐藤まさあき（まんが家）
- 長谷邦夫（まんが家）
- 平田昌兵（コミックマガジン編集長）
- 橘　賢（ヤングコミック編集長）
- 清水丈二（漫画アクション編集長）
- 峠あかね（まんが評論家）
- 山屋正美（読者・十九歳）
- 塚本育夫（読者・十七歳）
- 近藤正彦（読者・十五歳）

――司会・尾崎秀樹――

順不同・敬称略

小島　ぼくらが、単行本を描きはじめたころ、もう十年も前のことですが、それまで、おとなの本はいろいろあるし少年少女雑誌もたくさんあった。しかし、その中間に中学・高校生が娯楽的に読む本がない。

そこに真空地帯がある。そこを埋めようと二、三の仲間と話し合ったことがあったのです。佐藤さんなどの劇画工房もそのころスタートしたわけで、すでに十年前に現在のブームのさきがけみたいなものが、発生していた

わけです。

佐藤　そうですね。わたしどもが劇画工房を作ったのは、八年ほど前なのですが、そのときの考えは、いま小島さんがいわれたとおりです。

赤塚　そういえば、ぼくがまんがを描きだした昭和三十一年ごろには、すでに青年まんがはあった。貸本屋中心でしたが、それが最近雑誌にとり上げられるようになったという感じですね。

峠　こんなまんがをほしがっていた世代——読者が四、五年前にも多かったのだから、そのころでも、ブームはじゅうぶん起こりえたし、時期としては少しおそすぎたぐらいだと思います。

山屋　『ガロ』の影響も大きいと思います。ぼくなんか、『ガロ』を読んでいて、青年まんがを読むようになったのですが……。

尾崎　今日のブームというもののかげには、劇画をやってこられた人たちの、今日まで十年あまりにわたる単行本の世界という下積みともいえる世界でえいえいとして努力された歴史があり、また『ガロ』という独立プロ的性格の本が、マスコミへの窓をあけたともいえると思います。



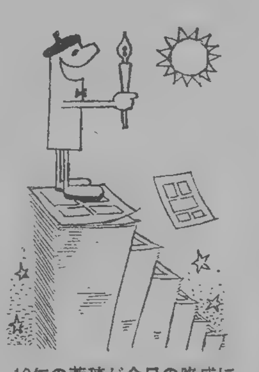
小島　剛夕氏

佐藤　たしかに、われわれは経済的には雑誌の作家にくらべて不遇でした。ただ、自分の描きたいものが描けたということが、ここまでこられたんだと思います。

小島　そうですね。

清水　私はこう思うんです。現在のおとなまんがは、青年層には受けていない。というのは、戦前の感覚で描いている。その点、劇画はあくまで戦後のものとして発展してきた。そこに戦後に育った青年層のエネルギーをつかむものがあった……。

山屋　だけど、いまの青年まんがは、どうも、ぼくたち青年にあたえるものでなく、おとなにあたえるもののように思えます。もっと青年の夢とか、冒険とかをだしてほしい。いらないところまでセックスを持ちだしています。



10年の蓄積が今日の隆盛に

小島　それは、作者の不勉強が原因なのでしょう。いままで、単行本で長編を描いてきた。ところが雑誌になると、ページ数は少ないうえに読者に受けなければならない。ということでまず頭にひらめくのがヌードであり、エロである。それもすばらしい絵ならいいが稚拙で、未熟であるため、グロの感じすらあたえてしまう。

長谷　いま描かれているセックス描写では、若い人も共感しない。描いている人は、年は若いにもかかわらず、二、三十年前の性の意識で描いている。これは、作者の完全な不勉強だと思う。このさいあやまるべきじゃないですか（笑）。

近藤　佐藤先生にしても、さいとう先生にしても単行本時代の作り方がよかった。それが、いまは商業ベースを意識して描いているように思います。



佐藤まさあき氏

佐藤　単行本のときは、さっきも話したように自由に描きたいものを描いてきたが、いまはたくさんの新しい読者をつかんで、それから、自分自身の描きたい作品を描いていきたいと考えているわけです。つまり、雑誌の

青年まんがを描いて

平田　弘史



青年まんがといわれるものをとくにあらたまった姿勢で描いている私ではない。私は私なりに感激した話を描いている。読者がどう思おうとそれはかまわぬ。軽佻浮薄なうわへを飾るだけの通り一片の奇をてらった話、そのような作品をものする姿勢を私は極力避けるとともに、ただ、おもしろおかしいという作品をも私はこのまぬ。

いったい昨今の映画界にせよ、青年まんがにせよ、あまりにもうわついた作品がおおすぎる。なにかといえば、密輸だ、麻薬だ、やくざだ、乗っとりなどとくだらぬ話が——いうなれば頽廃的昨今にいっそう拍車をかけるような作品がだ——描くものには、すなわち、われわれとしても責任がある。これからの義務もある。

私は目下、『コミックマガジン』の誌上で原作ものの脚色をしているが、私の主旨にあったものは、若干の構成を変えるだけで、そのまま描くこともある。小細工をろうすることが仕事ではない。私が感激した話を読者にも読んでもらいたい。その姿と没我精神以外なにものもない。裸の女をだして濡れ場を描く、これもときにより必要だ。ただことさらそれを見せ場にしようとたくらむくだらぬまんがは、早晩なきものになろう。ただそれを美しく描くかいなかで長寿を保つことができよう。青年まんがは、今後隆盛の一途を進むであろう。進まなくてはならぬ。

読者を広く開拓して、じょじょにぼくのペースにもっていこうと考えているわけですよ。

明るい青春ものを

赤塚　絵はみんなうまいと思うんですが内容がそれについていけない感じですね。青年に読ませるりっぱな力量が作家の側にほしいと思いますね。作家自身が実力を持たねば、青年まんがはだめになっていくと思います。子どもものの世界とおなじで、ネームバリューは通用しないでしょう。

平田　そうですね。読者は名前には、こだわらないんじゃないですか？



左より近藤正彦くん　塚本育夫くん

近藤　ぼくらも、一本一本の作品を見て評価します。

小島　それだけ、読者が向上したわけですね。私どもが描いた単行本の世界では、名前によって部数がきまったものですが。

清水　それは一部のファンやマニアを対象にした単行本の場合だからです。大多数の読者を相手にする雑誌ではちがってきます。

峠　ぼくは、雑誌でも二、三年たてば、いい意味でのネームバリューが幅をきかす時代がくると思う。ただ、そうした力量のある作家が育つかどうかが問題だと思います。たとえばセックスも結構だし、サービスとしてのヌードもいいと思うが、現状ではサービスになっていないで、描き手の自己満足に終わっている感じです。

長谷　だけど、セックスやヤクザものばかりで、はっきりいって、いままでいるもののうちで、ぼくらが読める青年まんがはないようですね。知的水準が落ちたということにつきると思います

橘　いちがいには、そうはいえないんじゃないかな。たとえば、ものを知らないからということで知的レベルが低いとはいえない。いまの青年の知性は信ずべきだと思う。また劇画の場合、松本清張が社会の断面を描いたように、そういう暗い面をことさら追求していく場合もあるということです。それと同時にいまの青年の夢にマイホーム主義が非常に多い。私はそれが残念なんです。バイタリティを秘めた青年はもっとでっかい夢があっていいと思うんです。それで、うちの雑誌では、そういう青年像を描いた劇画をのせています。青年のバイタリティをくみとって、じゅうぶんそれに答える雑誌にしていきたいと思っています。



橘　賢氏

尾崎　青年まんがは、もちろん、青春をテーマにするわけで、その青春とは、千差万別であるわけです。そして、それは、無限の可能性を持っているわけです。それを見るワイドの目を編集者も作家も持たないとしたら、そして、挫折した暗い青春に向けるという、あきらめの方向を向いてしまうだけなら、青年まんがの将来も暗いということになってしまう。それがこわいと思います。

小島　作家のなかには、たいへん憶病なところもあるわけです。ハードボイルドな暗い青春を描いている作家が「明るい春」を描こうとすると、なにか、描きにくいといったような……。



赤塚　不二夫氏

峠　平田弘史さんの『無念平平太』(コミックマガジン)はよかったですね。原作つきまんがという問題は残りますが。

清水　原作を見ない人はすごいと思う。あるいは、原作を読みたいと思うかもしれない。ただ、平田イズムというか平田節をもっとだしてほしいですね。

小島　あの人の場合、構図のとり方やコマはこびのうまさは激賞にあたいしますね。

平田　平田さんは、原作をえらぶ場合、自分の主張に近いものをえらんでいます。そして、作品化するとき、ここを強くだしたいと思うところは、強く打ちだしているので、平田イズムはでていると思うんですが。

小島　ぼくも「座頭市」(ヤングコミック)で、はじめて原作つきをやったんですが、いかに話をもりこむかにせいいっぱいで、原作つきのむずかしさをしみじみ知ったんです(笑)。

峠　小島剛夕さんの「おぼろ十忍帳」はもう少しページがほしい感じがします

小島　それは、ぼくもほしい。(笑)

清水　小島さんの「土忍記」は、土にかえるというか、東洋的な思想がいいと思いますね。

小島　ぼくの場合、どうしても現代的テーマとか、短編でまとめるのは、どうしても苦手なんです。ぼくの描き方は魅力的なシーンを描こうということからストーリーを組みたてるので、読者はぼくのすきなシーンにごまかされているのかもしれない。(笑)いままでの時代ものの場合、歴史的な裏づけなどで、いいかげんなのが多かった。だが今後は、それではだめだ。これからは、小説家なみの勉強をせねばならない。



清水　文二氏

清水　そう。史実にのっとった上でのフィクションを、おもしろく描くことです。

峠　『週刊漫画』の増刊号で、棚下照生が、ときどき、五十ページの読みきりをやりますね。あのような長編がやはりほしい。佐藤さんの「スパイガン」(ヤングコミック)もおもしろいが、あの「つづく」というのには、どうも弱い。(笑)

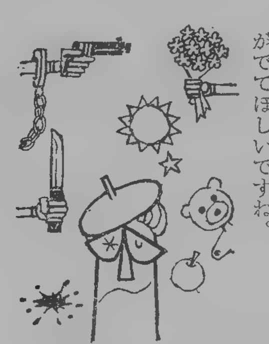
佐藤　あれは、読みきりではどうも自信がない。だから、ああなったのです。ぼくも単行本を描いていたので、二十ページにまとめるのはどうしても苦しいですね。ページがほしいと思いますね。

尾崎　劇画が本来、長編的性格のものだということはわかりますが、現在の方向としては、これから、ますます読みきり形式のものが要求されてくると思います。だから作家の側でも、長編ものを主張すると同時に、そうした需要に応じた短編の技法をマスターすることが必要になってくると思いますね。

佐藤　もちろん、私たちもそうした勉強はしていかねばと思っています。

赤塚　佐藤まさあきが、今月百ページ描き、次の月に五十ページの短編を描いた。これはもうショックですよ。そうした演出も必要じゃないですか……。(笑)

橘　たしかに、長編も短編も描ける作家がでてほしいですね。



多角的な青春まんがを



平田　昌兵氏

清水　われわれ編集者にだって、現在の青年まんが誌には不満があります。しかし、これはあくまでまんが家との共犯の結果であって、そうした意味では、もっともっと作家に勉強してもらいたいんですね。

峠　青年まんがを拡大解釈すれば、『漫画サンデー』などもはいるわけですが、赤塚さんは、もうお描きにならないんですか？

赤塚　ぼくは、もともと児童とおとなまんがの垣根をなくしたいと思っていたわけです。ひところ、おとなまんががブームといわれたころ、おとなものはマンネリ化したので、"ここらで、子どもまんが家を登場させよう"と編集部が考え、ぼくのところにきたのです。「大学生によませるものを描きなさい」といってきたのですよ。ぼくはだめだといったんですが。(笑)そしてはじめたのが、「過激派一年生」だったわけです。しかし、やはり、悪い面がでてきて、やめてしまった。これから、描かないわけではありませんが、おとなまんがには慎重にかからねばならないと思っているんです。(笑)



山屋　正美くん

青春の多様性を

尾崎　話が前後しますが、青年まんがというと、なにか形がきまってしまったように考えられがちですが、児童まんがにも、いろんなジャンルのものがあるように、もっと幅広いものが生まれてもいいと思いますね。

長谷　たしかにそう感じますね。劇画の読者には、永島慎二が描くようなものと、アクション中心の劇画がすきな人と二通りあると思いますが、永島的なものは、ほとんどはいっていない。

赤塚　ぼくが見た範囲では、お酒、バー、けんか、やくざ、セックスなど不健康なまんがが多すぎると思うんです。石坂洋次郎の文学などのように、青春の明るいムードを持った作品があってもいいじゃないか。いまでは、小説の変わりに読まれるまんがが、人生の裏街道を描いたような暗い面ばかりだというのはまずいですね。そういう意味で長編・短編の問題もふくめて、いろいろな青春を描きえなかったら、多数の読者の支持は期待できないな。



長谷　邦夫氏

小島　私もそう思いますね。

平田　ストーリーやテーマの視野を広げることも必要ですが、青年まんがの描き手がふえてこなければならないと思う。新しい感覚や考え方を持った作家がぐんぐん登場して、はじめて青年まんがが確立したことになると思いますね。

塚本　同感！　もっと若い作家を登場させ、すきなものを描かせてほしい。このままいけば、青年まんがはここ二、三年で危ないと思います。いまのはなにが青年まんがという気がしない。東映や日活映画のやきなおしのような気がします。



「石坂文学のような明るい作品も……」赤塚氏（中）

山屋　それと、作家は、みなそれぞれの青春観を持っていると思いますから、それがでている作品をのせてもらいたいですね。

清水　新人まんが家が、模ほうからはいるのは当然でしょうが、それで終わるのではなく、自分の個性――オリジナリティをじゅうぶん持った青年まんがを描いてほしい。そのような作家が輩出すれば、ぼくは、青年まんがの百万部雑誌が生まれてくるときが、近いうちにくるんではないかと思いますよ。（笑）



峠　あかね氏

峠　これから登場する新人も編集者の責任とだけいわず、まんがを産業としてとらえ発展させていってほしいと思います。児童まんがによって育った土壌はできているわけですから、それに対する送り手がいい作品をどんどん完成させていけば、青年まんがの将来は明るいと思います。

尾崎　最後に、私からの注文をのべさせていただきます。青年まんがは、ここまできたという感じなのですが、ここで危険を感じるのは、おとなのまんがが、大衆文化のなかでエリート意識を持つことにより、大衆から遊離してしまったというおなじあやまりを青年まんがくり返すなということです。それをくつがえしたのが子どもまんがであったということ。その世代とともに考え、成長してきた子どもまんがのプラス面を青年まんがは持ちつづけていかねばならないということです。それがややもすると、おとなの世界で使いふるされたモチーフにたよってしまう。たとえばセックスに対する描き方も当然ちがってこなければならないのに、おとなのセンスでしかない。こうした堕落の方向――おとなまんがの穴に落ちこんではいけない。これを作家と編集者の両方にいいたいと思います。その上で、無限の可能性をもつ、青春の姿を多角的に認識できる目を育てていってほしいということです。これが「われわれの青春だ！」と、おとなにむかっていえるもの、それが青年まんがの本来の姿であるからです。

寸評／尾崎秀樹

最近青年まんがという名称をよく耳にする。児童まんがとおとなまんがのあいだを埋めるまんがを指すのであろう。しかもただ単にそのあいだを埋めるという以上に、積極的なものを感じる。それは戦後のストーリーまんがで育った世代にとって、既成のおとなまんが（娯楽本位の）では納得できない、ある種の要求があるからだ。

とくに劇画的な発想にもとづく画面の処理になれた世代にとっては四コマまんが的なおとなまんがの方向はあきたらないものがあるにちがいない。しかし同時に青年まんがには、おとなの世界はこのようなものだとあらかじめ予測をたて、しかもその既成の概念に不定調和させるような危険性もともなう。

おとなは官能的なものがお好き――といったイージーな発想からは、これからの青年まんがを育ててゆく新しいバイタリティは生まれない。青年まんがの描き手には、貸本屋相手の書き下し出版いらい、営々とつとめてきた人たちもいる。その人たちにやっとマス・コミの光が当りだしたことは、うれしいことだが、青年まんがを発展させてゆく自主的な構想を欠いていたのではどうしようもない。

青春は夢多き時代だ。その可能性に盲目のままでは、青年まんがも育たない。おとなの世界にこびへつらうことなく、むしろ児童まんがの持つフレッシュな感覚をもって青年層の多様な要求にこたえてほしい。現代の青春が陥っている孤立感から青年を救いだすためにも、青年まんがの在り方は重要な課題となるにちがいない。

まんが家論⑧

幻想怪奇にとりつかれた男

—水木しげるの巻—

草森紳一

戦争体験と奇想天外な想像力

感心するまんがを描く人はたくさんいるけれど、感心すると同時に、会ってみたいと思わせるまんがを描く人は、そうざらにはいない……。

水木しげるのまんがは、ぼくに手紙の筆をにぎらせた。といっても、そのころぼくは、雑誌の編集者であったから、たとえ機動が水木しげるに会ってみたいという私意に発していたにしても、編集者の欲もからませていた。あるいは欲をからませなければ、かっこうがつかなかった。手紙には、〝一枚もののまんがが日本には少なく、描ける可能性を持った人もまた少ない〟そこであなたに……といった。いじましい内容のものであったと思う。七、八年も前の話である。

といって外国まんがにあるような〝一枚もの〟と俗にいわれるものを描いてもらいたいという気持ちに偽りはなく、当時ぼくなりに真剣に考えていたことなのだが、その目的以上に、会ってどんな人か確かめたいという気持ちのほうが強かったのだろう。

ともかく彼の貸本まんが「鬼太郎夜話」は、ぼくにとって、とつぜん足もとで爆発するダイナマイトのようなもので、このような奇妙な発想のできる水木しげるとは、いったいどういう人間なのだろうと思わないわけにはいかなかった。

何度めか、氏の家を訪問したある夜のことを思いだす。夕方から雨が降りだし、まもなく雨は、おびただしい雷を伴いはじめた。これまで、ぼくは遠雷しか知らず、それははるか空のかなたで打ち上げられる自然の花火のようなものにしか思えず、どうして昔の人々が、地震・雷・火事・親父といって恐れたのか、雷は子どものヘソをとるというが、どうしてこんなおおげさに考えるのか不思議でならなかった。雷とは、ヘソどころか、心臓までもちぎりとっていくような恐怖感を与えるものであるということを実感したのは、調布の氏の家であった。

停電になった。家の中はまっ暗やみとなり、屋根にかみついてくるような雷のとどろき、矢の束が板戸にあたるような雨の音の、波状にくりかえされる襲撃の中で、畳の上に寝そべり、まんがを、怪奇を、恐怖を、氏と語りあったことを思いだす。

氏は片腕であった。戦争で失ったのだとぼくがたずねない前に氏はいった。あの奇想天外な怪奇まんがは、片腕によってコマが埋められていたのだと思うと、なるほどと考えないわけにはいかなかったが、それはおちつきを失った考えでもあると反省もした。奇想天外な想像力は、あくまでも彼の心の内にあるのであって、片腕が想像するわけではない。かといって片腕であることが彼の心に影を落とさないかといえば、そうでないともいいきれない。けっきょく片腕であることが、彼のまんがの怪奇性に手を貸そうが、

水木しげる主要作品リスト

昭和	作品名及び掲載誌	発行
32	ロケットマン	兎月
	怪獣バラン	暁星
33	スポーツマン宮本武蔵	網島
	地獄の水	暁星
	マメ博士の冒険	兎月
	お笑いチーム	兎月
	プラスチックマン	網島
	飛び出せピョン助	兎月
	猫娘	兎月
	ブル探偵長	兎月
	戦場のちかい	兎月
	0号作戦	網島
	空中爆雷	兎月
	暁の突入	兎月
34	幽霊一家（妖奇伝）	兎月
	墓場の鬼太郎（妖奇伝）	兎月
	地獄の片道切符 鬼◆	兎月
	下宿屋 鬼◆	兎月
	あう時はいつも他人 鬼◆	兎月
	必勝雷撃隊	兎月
	台風爆弾	兎月
	印度洋作戦	兎月
	大夜戦	中村
	かなしみの道	中村
	雪のソルツ	中村
	おおミステイク〃	
35	**吸血鬼と猫娘** 夜話1	三洋
	地獄の散歩道 夜話2	三洋
	水神様が町へやってきた 夜話3	三洋
	顔の中の敵 夜話4	三洋
	庭に住む妖怪	宏文
	亡者の笛	宏文
	半幽霊	宏文
	ねずみ町三番地	宏文
	ミッドウェイ作戦（少年戦記）	兎月
	珊瑚海大海戦（少年戦記）	兎月
	急襲ツラギ夜戦（少年戦記）	兎月
	脱出地点（少年戦記）	兎月
	あ号作戦と南雲中将（前）（少年戦記）	兎月
	あ号作戦と南雲中将（後）（少年戦記）	兎月
	決戦レイテ湾（少年戦記）	兎月
	戦艦武蔵の最後（少年戦記）	兎月
	ガタルカナルの死闘（少年戦記）	兎月
	エンガノ沖海戦（少年戦記）	兎月
	サマールの一戦（少年戦記）	兎月
	回天（少年戦記）	兎月

貸すまいが、一個の「もの」となってしまったまんがの存在には関係のないことなのだ。

ラバウルの蛮地で、酋長のむすこトペトロと知り合い、その姉さんと結婚して部落の酋長になるよう懇請されたという話も聞いた。昭和二十年、終戦直後のころの話である。おそらく、これらの戦争体験が、彼のまんがに表われる人間観・社会観に影響を与えているにきまっているのだが、これもまた片腕と同様、戦争体験のせいにするわけにはいかない。もっとわかりやすくいえば、厳格な造型性を写真で表現することで有名なカメラマンがいる。その彼が、昔徒手体操をやっていたという話を聞きつけ、なるほどと手をうっても、ひとつもおもしろくない符号の一致なのと同じである……。

日常と非日常の結婚

「鬼太郎夜話」は、破天荒なまんがであった。そのころ、彼は「墓場の鬼太郎」というシリーズを同時に描いていたし、それ以前にも紙芝居で試みていたわけだが、四巻までで未完に終わった「鬼太郎夜話」は、彼のまんがのある段階を結集させたものであり、その後も彼は「墓場の鬼太郎」シリーズを描きつづけているが、この未完の作品をしのいでいない。

彼の想像力は、自由をきわめていた。これほど人間は、想像力にたいして自由になれるものかと思った。どんな想像力を働かしてもよいといわれても、人間には、各自の想像の道すじというものがあって、なかなかその道すじを逸脱しないしできないものだ。水木しげるの想像の道すじは、はじめから特殊なのか、自分の道すじをどんどん無視していく才に恵まれているのか、まったく自由であった。

たとえば、「鬼太郎夜話」の導入部は、低音の人気歌手トランク永井氏が、有楽町のホームで最終電車を待ちながら、ねずみ男と出会うところからはじまる。(人気歌手が電車で帰るはずはないのだが……)そして電車の中で眠りこけているうちにねずみ男によって、赤い肉のような木を腕に植えつけられてしまうのである。それは吸血木で、演奏会のある日、ついにトランク永井氏は、木の根になってしまう。その木の根を、生花の勅使河原蒼風が片いなかで見つけ、「なんというすばらしいオブジェだろう」といって持っていって植木ばちにいけ、喫茶店「ザ・パンテー」の生花にしてしまう。

といったナンセンスな展開が、もったいないほどつぎからつぎとでてくる。人気歌手トランク永井氏は、血液を買うために毎日汗水流して歌うようになるというこっけいな苦悩ぶりとか、木のオブジェと化したトランク永井氏の形が、勅使河原蒼風の作品とそっくりだったりして、作者の目的は、風刺ではないかと思わせるのだが、じっさいは、風刺などというものを越えていて、ナンセンスの世界になっている。

■水木しげるのメモ



♣本名　武良茂

♣生年月日　大正13年3月8日

♣出身地と略歴　鳥取県境港市で出生。昭和18年から2年間，太平洋戦争に従軍。ラバウルで終戦を迎える。24年武蔵野美術大学を中退後，加太こうじらと交わり，神戸にて紙芝居作家として活躍。31年上京後，「ロケットマン」(兎月書房)でデビュー，プロまんが家生活にはいる。代表作は「墓場の鬼太郎」

♣現住所　東京都調布市富士見町1の9の15

年	作品	出版社
	フット号轟沈さる（少年戦記）	兎月
	田中頼三（少年戦記）	兎月
	別冊・特攻（少年戦記）	
	別冊・空母飛竜の最後（少年戦記）	兎月
	別冊・乃木将軍と二〇三高地（少年戦記）	兎月
36	永仁の壺（恐怖マガジン）	セ
	サイボーグ（恐怖マガジン）	セ
	剣豪正伝（無双）	兎月
	残月（群雄）	兎月
	魔性の剣（群雄）	高橋
	桐竹半九郎（一番槍）	高橋
	決戦千早城（一番槍）	高橋
	おんぼろ小函一番槍（二番槍）	高橋
	うじ虫（一番槍）	高橋
	猫又（恐怖マガジン）	セ
	撃墜（陸海空）	兎月
	ダンヒール海峡（陸海空）	兎月
	絶望の大空（陸海空）	兎月
	マリアナの竜（陸海空）	兎月
	壮絶特攻	曙
37	怪奇一番勝負	兎月
	霧の中のジョニー	兎月
	人魂を飼う男	曙
	墓の町	曙
	怪奇鮮血の目	曙
	化烏	泉
	河童の三平（一～八）☆	兎月
	駆逐艦魂	曙
	零戦総攻撃	曙
38	呪いの谷	文洋
	火星年代記	ゼ
	妖棋死人帳	セ
	鈴の音	セ
	嘆き川	セ
	花の流れ星	セ
	幻行燈	セ
	墓をほる男・地底の足音（忍法秘話2）	曙
	忍者無芸帳	青林
39	おかしな奴・ぼくは新人	佐藤
	アホの男	佐藤
	悪魔くん〈一～三〉☆	東考
	ないしょ話	東考
	夜の草笛・地獄流しか	東考
	えり船・古墳大秘記	東考
	猫姫様	東考
	約束（黒のマガジン）	東考
	安い家（黒のマガジン）	東考
	鉛（黒のマガジン）	東考
	群衆の中に	
	山本元帥と連合艦隊（あゝ太平洋）	宏文
	戦艦血に染まるとき（あゝ太平洋）	宏文



←鬼太郎とねずみ男

風刺は意識的な世界で、センスの領域なのだが、水木しげるの手に一度かかった風刺的素材は、風刺的機能を停止して、ナンセンスの素材に転化してしまうのである。ぼくは、ただただあきれて笑いころげるよりほかはなかった。水木しげるは、自分の想像したことに忠実であった。このような想像をしては、へんだと人に笑われるのではないかという憂いから、彼はまったく解放されていた。たかが人間が想像するものなのだから、いくら奔放であっても存在しえるのだ。人の理解に耐えるものだ」という彼の自信によってコマはつながれていた。

また、彼は怪奇まんがという領海に、不思議な棹をいれてこいでいた。そのころの貸本まんがには、怪奇、スリラーものといったジャンルが開けていたのだが彼の怪奇は、俗世間に流布されている怪談をコマに置きかえるという志向とはまったく無関係に発展していた。

彼の超能力への信頼と「もの」の形が持つ不思議さにたいする好奇心から、彼の怪奇まんがは誕生し、鬼太郎は誕生してきた。そしてその怪奇作品は、他の作家の幽霊談のように、日常的な人間の生活から遊離したところから、人間たちに襲いかかってくるのとはちがい、人間の日常生活の中へ、人間のような顔をして割りこんでくるのである。実直な血液銀行のサラリーマンは、鬼太郎を育て、学校へ通わせなければならないし、ねずみ男は、テレビにもでたがるのである。

つまり、日常と非日常の結婚が、水木のまんがでおこなわれ、その結果、日常でも非日常でもない一つの世界、すなわち水木的世界が展開される。笑いなどというものが、随時、彼の世界に発生するのはそのせいである。ぼくたちは、日常でも非日常でもない世界だということに気づく前に、日常か非日常かわからなくなり、ごっちゃになってしまって、日常の中に非日常があるのを見て、その違和におかしみを感じ、非日常の世界にふけっているつもりになる。非日常の世界にふけっていると思ったら日常が顔をのぞかせてくるので、恐怖する前に吹きだしてしまうのである。

想像の奔出と幸福への希求

水木しげるは、怪奇や恐怖の中にとっぷり首をつけていることはできない。彼は、おそらく怪奇や恐怖の深刻さを愛しながらも、ぴったり愛することはできない。その深刻さにテレてしまう。このテレこそが、彼の怪奇まんがを独特のものとし、ナンセンスな世界に跳躍させ、笑いを引き起こす原動力になっている。

しかし彼は、なぜ怪奇まんがに志向するのか。それは、さきに超能力への信頼と「もの」の形の不思議さへの好奇心からきているとのべたが、さらにいえば、彼の人生観と深くかかわっている。

彼のまんがの登場人物たちの考えていることは、人間・怪物を問わず、衣食住の悩みであり、金への執念であり、成功であり出世であり、美人の妻を得たいということである。あげくには、不老不死の希求である。それらの願いはみなうまくいかないのであり、そこで怪奇の世界に逃げこみ、超能力を獲得し、人間社会のわずらわしさを越えるのかと思ったら、そうではなく、どの人物も現世を脱出することはできず、超能力の怪物たちさえも、わざわざ現世へやってきて人間なみに悩むしまつなのである。

昭和	作品名及び掲載誌	発行
39	此一戦（戦記日本1）	兎月
	忍者は一度勝負する（忍法秘話7）	
	忍法屁話（忍法秘話8）	青林
	雷石（忍法秘話9）	青林
	怪忍（忍法秘話10）	青林
	聖なる輪（忍法秘話11）	青林
	太郎稲荷（忍法秘話12）	青林
	ライバル（忍法秘話13）	青林
	不老不死の術（ガロ9月号）	青林
	イボ（ガロ10月号）	青林
	勲章（ガロ11月号）	青林
	ネコ忍（ガロ12月号）	青林
40	呪われた村	東考
	青葉の笛・ゴマスリ二等兵	日丸
	地獄	佐藤
	異形の者	日丸
	水妖鬼（夜襲）	日丸
	壁ぬけ男・へびの神（怪談）	日丸
	海の男（日の丸戦記）	日丸
	墓場の鬼太郎（少年マガジン）☆	講談
	テレビくん（少年マガジン）★	講談
	夜襲ツラギ沖（日の丸戦記）	日丸
	二人の中尉（日の丸戦記）	日丸
	ハト（忍法秘話14）	青林
	河童（忍法秘話15）	青林
	空想石（忍法秘話16）	青林
	陸ピラニヤ（忍法秘話17）	青林
	釣り落した魚（忍法秘話18）	青林
	空のサイフ（忍法秘話19）	青林
	ろくでなし（忍法秘話20）	青林
	金太とピン子（忍法秘話21）	青林
	猫のボン太（忍法秘話22）	青林
	神変方丈記（ガロ1月号）	青林
	ああ無情（ガロ2月号）	青林
	神様（ガロ3月号）	青林
	剣豪とぼたもち（ガロ4月号）	青林
	幸福の甘き香り（ガロ5月号）	青林
	こどもの国へ（一〜三）（ガロ）	青林
	はかない夢（ガロ9月号）	青林
	新講談 闘牛（ガロ10月号）	青林
	マンモス・フラワー（ガロ11月号）	青林
41	カモイ伝（ガロ1月号）	青林
	君、富みたもうことなかれ（ガロ2月号）	青林
	チャンピオンと晴着（ガロ3月号）	青林
	トランク（ガロ3月号）	青林
	なまはげ（ガロ4月号）	青林
	未来をのぞく男（ガロ6月号）	青林
	夢の食糧（ガロ6月号）	青林
	惑星（漫画天国）	芸文
	一万人目の男（漫画天国）	芸文
	怪物マチコミ（漫画天国）	芸文

水木しげるは、自分の放った怪奇たちと親しげであるが、とことんまで親しくはなれない。彼の怪人奇人が、みなかれんであり、笑いをふりまいているから、兄弟のように彼と親しいのだろうと思いがちだが、それは逆である。水木しげるは、たしかに現実嫌悪から、怪奇へ、死のイメージへと近づくのだが、けっきょく彼の現実嫌悪は現実への未練の裏返しであるから、死の世界に憧れ、死の中に耽溺することはできず、むしろ死の世界を逆に人間界になれさせる。そのためにぼくたちは恐怖するよりも、笑ってしまうのである。つまり水木しげるも、自分から近づいたはずの死の想念に耐えられないのであって、笑いで恐怖の虜になる寸前に逃がれるのである。「鬼太郎夜話」の第四巻の終章は、死の電車を扱っている。新宿駅の最終電車に乗り込むと、乗客はみな骸骨である。大勢の駅員が線香を持ってやってきて死を賛美する歌をうたいだす。停車する駅は「臨終」「火葬場」「骨壺」といった気味の悪い駅ばかりである。かなりこわがらせる材料を彼は用意しているのだが、恐怖におののくはずの乗客が、狼男であり、ねずみ男であるため恐怖は相殺されて、ひとつもこわくない。狼男は、ただならぬ様子に気がつき「独自の行動をとる!! わしゃあこれでも英国の大学をでとるからな、教育があるんだ」とつぶやき列車の窓から飛びだし死んでしまう。その死にたいしてぼくたちは笑いさえする。

↓情報屋とおかみさん



水木しげるの怪奇の趣味は、彼のまんがの中にふんだんに散見する「人間とは……」「人生とは……」「世の中とは……」と大上段にふりかざした彼の生き方・考え方とはまったく表裏しているように思える。彼の悲観的な人間観・人生観・社会観が、怪奇への執着をよぶのだが、執着すればするほど、人間への執着、社会への執着がますます鮮明になってくるのである。だから怪奇に彼がとりつかれているというより、彼はむしろ、現世での「幸福の病」にとりつかれているといったほうが正確である。

「人間とはなになになり」といった人生論臭は、ふつうならテレくさくて聞くに耐えられないものだが、彼自身もテレながらいっているので、ぼくたちは、その自意識ゆえに割引きして許し、その上笑ってしまう。この屈折した彼の意識は、戦中派といわれる小説家たちと共通するものだ。

水木しげるのまんがにあって、この笑いは彼の抒情性とともに重要であり、魅力ではあるが、もっとも評価すべきものは、やはり想像力の奔出であると思われる。たとえば「悪魔くん」(ただし単行本でだした作)のエジプトのスフィンクスが、太平洋を渡って、波しぶきをあげながら日本に向かってくるという壮大なイメージの力が、最近の作品には衰弱しているように見うける。人生論臭がめだちすぎる。

最後に彼のテクニックについてのべたい。彼のまんがには、写真と絵画の映像がふんだんに利用されていることである。写真や絵画に知識のあるものなら、これは土門拳・奈良原一高の写真、中村宏・ブリューゲルの絵といったふうにつぎつぎと指摘できるほどだ。このような視覚を風景としてコマにはめこみ、さらに彼のまんがタッチの絵と接合することによって一種の不調和が起こり、この不調和こそが、こわさをかもしだすことに大いに助成しているのだ。

(END)

年	作品（掲載誌）	発行
	丸い輪の世界（ガロ9月号）	青林
	五円玉（ガロ11月号）	青林
	暑い日（漫画天国）	芸文
	昭和一四一年（漫画天国）	芸文
	足跡の怪（漫画天国）	芸文
	深夜の怪（漫画天国）	芸文
	ふしぎなふしぎな話（少年サンデー）	小学
42	砂かけ婆（漫画天国）	芸文
	紙魚（漫画天国）	芸文
	恐るべきライバル（漫画天国）	芸文
	死者の招き（漫画天国）	芸文
	べとべとさん（ガロ3月号）	青林
	錬金術（ガロ4月号）	青林
	合格（漫画読本）	文春
	大いなる幻術（漫画読本）	文春
	古道具屋の怪（漫画サンデー）	実日
	仙人酒（漫画サンデー）	実日
	木枯し（漫画サンデー）	実日
	やまたのおろち（少年サンデー）★	小学
	悪魔くん（少年マガジン）	講談
	地獄の水（少年マガジン）	講談
	役の行者（漫画アクション）	双葉
	幸福という名の怪物（アサヒ芸能）★	芸能
	鬼太郎夜話（ガロ）	青林
	幽霊艦長（少年）	光文
	一つ目小僧（漫画アクション）	双葉
	なまけ武蔵（ガロ）	青林
	吸血鬼（少年キング）	少画
	流れ星（少女フレンド）	講談
	墓場の鬼太郎（少年マガジン）☆	講談
	死声（少年キング）	少画
	一陣の風（漫画読本）	文春
	幻覚のいましめ（漫画読本）	文春
	死人つき（少年サンデー）	小学

注＝発行の欄の兎月は兎月書房、暁星は暁星出版、網島は網島書店、三洋は三洋社、宏文は宏文堂、セはセントラル出版、高橋は高橋書房、曙は曙出版、泉はいずみ出版社、青林は青林堂、佐藤は佐藤プロ、東考は東考社、日丸は日の丸文庫、芸文は芸文社、講談は講談社、文春は文芸春秋新社、実日は実業の日本社、小学は小学館、双葉は双葉社、芸能はアサヒ芸能社、少画は少年画報社、光文は光文社の略。鬼◆は墓場の鬼太郎シリーズ、夜話は鬼太郎夜話シリーズ、☆はシリーズ、★は連載もの。

〈特集〉児童まんが家アプローチ

アシスタント

編集部

この数か月、『COM』愛読者よりアシスタントになるにはどうしたらいいのかという質問をよくうける。また、地方からまったく無計画に家出同然に飛びだしてきて、好きなまんが家のアシスタントにしてほしいと泣きつく少年も多くなった。彼等は、アシスタントをまんが家の卵ぐらいに安易に考えこんでしまっている。アシスタントからすぐまんが家になれるわけではないのだ。まんが製作に欠くことのできない影の功労者アシスタントの実状は、いまや複雑をきわめ混沌としている。そこで今回は、アシスタントの発生・発展、アシスタント出身のまんが家、現在の実態等について特集した。

アシスタントの発生と発展

徒弟制度の衰退と分業制度の発生

戦前の画家や芸能人のあいだでよく見られた師弟関係の厳格さ、いわゆる徒弟制度的なものが児童雑誌界で保たれていたのは、戦前の絵物語全盛の時代(昭和二十年〜二十八年)までである。

田河水泡・島田啓三等に師事し、現在もこの関係が保たれている人気まんが家もいることはいるが、田河や島田の場合、徒弟制度というきびしさはほとんどなかった。

この制度がはっきりしていたのは絵物語・さし絵画家に多く、中でも小松崎茂（大平原児・地球SOS）の場合は、その好例といえよう。

根本圭助・岩井川牲一（死亡）・高荷義之・伊藤展安・前村教綱・小林秀隆などのさし絵画家が小松崎のところからでており、当時は住みこみで使い走りから便所そうじまで、なんでもやらされたという。小松崎は、自分の絵の手伝いをさせることはなかったが、こうしたきびしい愛情をもって弟子たちを育て、いまだにこのグループのあいだでは師弟、兄弟弟子としての親交が礼義正しくつづけられている。

このころは、さし絵もまんがもひとりですべて仕上げることが常識とされ、病気などで作家が描けない場合は、まったくの代作を掲載していた。

いっぽう、大阪の赤本から彗星のごとく雑誌界に台頭してきた手塚治虫は、昭和二十七・八年ごろ、「ジャングル大帝」(漫画少年)・「鉄腕アトム」(少年)「サボテンくん」(少年画報)・「冒険狂時代」(冒険王)「ぼくのそんごくう」(漫画王)・「ピピちゃん」（おもしろブック）等、このころとしては驚意的な仕事量をかかえており、月刊誌の原稿締切日が近づくと雑誌編集者がトキワ荘（手塚が住んでいた東京・豊島区の安アパート）におしかけていた。

当時「サボテンくん」を連載していた『少年画報』の担当編集者で多少の絵心のあった村山正氏（現在は家業に従事）と福本一義氏（現智プロ）は、毎月「サボテンくん」が一番最後にまわされ締切に追われていたので、少しでも早く仕上げてもらおうと、ベタ（墨汁で黒く塗りつぶした部分）・ライン（一コマ一コマのワク線）・ホワイト修正（白のポスターカラーで、はみだした部分を修正する）の手伝いをした。

これがきっかけとなって、手塚担当の編集者は、ベタ・ライン・ホワイト修正を手伝うようになる。さらに福本氏の場合、バック（人物以外の背景）のペンいれも手伝うようになり、大いに重宝がられたという。

この繰り返しが何度かつづくうちに作品完成の時間短縮が真剣に考えられるようになった。こうして、ベタ・ライン・ホワイト・バックのペンいれまでは、手伝ってもいいだろうということになり、福本氏が全面的に協力することになった。これが現在のアシスタントのはしりと考えてよいだろう。

これ以前にも、まんが家やさし絵画家の奥さんや親族の者が、ベタなどを手伝ったことはしばしばあった。

その後、武内つなよし・桑田次郎・高野よしてる・横山光輝等、当時の人気まんが家もこのシステムを採用するようになった。こうして、徒弟制度的師弟関係と、まったく異質な分業システムが急激に広まってゆくことになる。

しかし、昭和二十七・八年当時はまだ"アシスタント"ということばは使わず、"ベタマン"とか"ラインマン"とか呼んでおり、正式にアシスタントと呼ばれるようになったのは、昭和二十九年、手塚治虫が新聞で公募して採用になった岩本成修（おとなまんがに転向）からであり、この時代にはまだまだ師弟関係的なものの見方が、世間一般にはあったことはたしかである。

プロダクション設立と分業システムの強化

第一次まんががブームと今日の第二次まんががブーム（COM6号参照）の分業システムを比較した場合、最も大きなちがいとしてプロダクション形式の採用があげられよう。

虫プロ（手塚治虫）・赤目プロ(白土三平)・光プロ（横山光輝）・石森プロ（石森章太郎）・フジコプロ(藤子不二雄・フジオプロ(赤塚不二夫)・つのだじろうプロ（つのだじろう）・げんこつプロ(森田拳次)・カメプロ(桑田次郎)・アトリエK(貝塚ひろし)・竜の子プロ（吉田竜夫）・カワサキプロ（川崎のぼる)・智プロ(井上智）等と、まんが家による単行本出版社経営のさいとうプロ（さいとうたかを)・佐藤プロ(佐藤まさあき)

製作協力した主要まんが家と作品一覧表　(42.9.現在)

まんが家	協力依頼者	協力した作品
赤塚不二夫	石森章太郎・長谷邦夫	まだらのひも・他
石森章太郎	手塚治虫・藤子不二雄	鉄腕アトム・オバケのQ太郎
今村ゆたか	今村洋子	ハッスルゆうちゃん・他
伊東章夫	手塚治虫	ふしぎな少年
井上智	手塚治虫	マグマ大使
石井いさみ	つのだじろう	ライバルの旗
石川フミヤス	さいとうたかを	ナポレオンソロ・007
池内誠一	白土三平	ワタリ・他
梅本さちお	ちばてつや	ハリスの旋風
うちのすみを	手塚治虫	火の島・鉄腕アトム
江波譲二	古賀新一・浜慎二	白ヘビ館・他
江原伸	古城武司	ホームラン太郎
大野豊	手塚治虫	鉄腕アトム・他
大山学	永島慎二	網走番外地・他
小貫健太郎	吉田竜夫・桑田次郎	マッハ三四郎・エリート
小山春夫	白土三平	カムイ外伝・ワタリ・他
一峰大二	岡友彦	絵物語
川崎のぼる	さいとうたかを	単行本
加来あきら	横山光輝	ジャイアントロボ・他
木村しげる	手塚治虫	ジャングル大帝・他
木村光久	東浦美津夫	夕月の山彦・どこに青い鳥
桑田次郎	岡友彦	絵物語
楠高治	桑田次郎	エイトマン・他
楠勝平	白土三平	ワタリ・他
古賀新一	浜慎二・江波譲二	氷河王子アトラン・他
笹川ひろし	吉田竜夫	マッハ三四郎・大空のちかい
篠田ひでお	藤子不二雄	フータくん・怪物くん・他
社領系明	手塚治虫	ケン一探偵長・他
鈴木光明	手塚治虫	風之助がんばる・他
鈴木良明	影丸譲也	ラットパトロール・他
鈴原研一郎	武田京子	美加は生きた
関谷ひさし	手塚治虫	ぼくの孫悟空
園田光慶	桑田次郎・川崎のぼる	エリート・大魔鯨・他
棚下照生	手塚治虫	ジャングル大帝
高井研一郎	赤塚不二夫	おそ松くん・天才バガボン
谷川一彦	手塚治虫	鉄腕アトム
田中ちかお	手塚治虫	W3
つげ義春	水木しげる	墓場の鬼太郎
月宮美鬼	平田弘史	ボロ・他
辻なおき	吉田竜夫	マッハ三四郎・他
佃竜二	川崎のぼる	単行本
天馬正人	吉田竜夫	忍者部隊月光・他
永島慎二	手塚治虫	丹下左膳・他
長谷邦夫	赤塚不二夫	おそ松くん・天才バカボン
後恵二郎	東田健二	単行本
浜　慎二	江波譲二・古賀新一	氷河王子アトラン・白ヘビ館
東浦美津夫	手塚治虫	ピストルを頭にのせた人々・
久松文雄	小沢さとる	サブマリン707・他
長谷川一	手塚治虫	リボンの騎士
橋本将次	水木しげる	墓場の鬼太郎
藤子不二雄	手塚治虫	ジャングル大帝・他
福本一義	手塚治虫	ケン一探偵長・マグマ大使
保谷良三	手塚治虫	死神岬の決戦
松本零士	手塚治虫	黄金のトランペット
望月あきら	保谷良三	単行本
矢島利一	河島光広	ビリーパック
山内龍己	手塚治虫	単行本
横山光輝	手塚治虫	黄金都市・鉄腕アトム・他
横田とくお	赤塚不二夫	おそ松くん・他
吉田ゆたか	板井れんたろう	ポテト大将
芳谷圭児	つのだじろう	グリグリ・ヒュンヒュン丸・他
わちさんぺい	益子かつみ	白星くん・サイコロころ助
渡辺邦雄	手塚治虫	ライオンブックス

（アイウエオ順）

・横山まさみちプロ（横山まさみち）等が主なプロダクションである。

このプロダクション形式は、ひとりの人気まんが家とアシスタントの関係からさらに、社長と社員という新しい関係にはいり、それぞれがプロダクションの重要なスタッフとして分担制をしいている。

フジオプロ・智プロでは、アイデア部門・絵部門・渉外部門が決められ、絵部門ではさらに、各作品ごとに人物・バック・ベタとホワイトの担当がはっきり決められている。

プロダクションシステムがまんがの大量生産に大いに役立っていることは周知の事実であるが、ここで考えなければならないことは、ベタマン・アシスタント・制作スタッフ・社員等と、個々のプロダクションによって呼称が変わってはいても、ひとりの人気まんが家を盛りたて、量産体制の一つの歯車となっていることに変わりがないことである。最近よくいわれるようになったまんが界のサラリーマン化の問題がここに内在してくるが、そのことについては後に述べることにする。

いずれにしても、分業の強化によりさらにまんが製作の細分化がなされ、ひとりの作家の作品というよりも、映画界に見られる黒沢明監督と黒沢組と称するスタッフとキャストとか今村昌平監督と今村班と称するスタッフとキャストの関係のように、強固な集団創造としてのまんがにまで、発展していくのではないだ

■アシスタント経験の主要まんが家■

まんが家	作品	ついた先生	ついた期間	手伝った作品	同期のアシスタント
赤塚不二夫 あすなひろし	おそ松くん 嵐が丘	横山光輝 水野英子	昭31年6月～33年1月 36年と39年	かあさんふたり・他 星のたてごと・他	小沢さとる・岸本修
今村洋子 今村ゆたか 石川球太 伊東章夫 石井いさみ 井上智 井上のぼる 井上英沖 飯田信宏 池上遼一 五十嵐辛吉 伊藤たかし	ハッスルゆうちゃん ヨッチャンパンチ 牙王 ジャングル大帝 パイロットの星 魔神バンダー 遊星少年パピー 単行本 白い液体 月水金太郎 ゴロニャン大将	今村つとむ 鈴木光明 手塚治虫 貝塚ひろし 武内つなよし・手塚治虫 木の実和 手塚治虫・横山光輝 関谷ひさし・川崎のぼる 水木しげる 水島新司 大友朗	33年～37年ごろ 30年～31年ごろ 36年ごろ 32年10月～36年 37年～41年 34年～40年ごろ 33年3月～39年6月 36年ごろ～ 41年8月～ 36年5月～ 32年～35年ごろ	ワンパク剣士 もも子探偵長 ふしぎな少年 クリクリ投手・他 鉄腕アトム スリル博士・鉄人28号 巨人の星 墓場鬼太郎 下町のサムライ 出世だんご山	荘司としお・山崎勝 大野豊 篠田ひでお・古谷三敏 中城健太郎・他 森田照政・北川義和
梅本さちお	俺は逆転屋	ちばてつや・他	38年ごろ～41年	ハリスの旋風	
江原伸 榎本有也	スターナイン 名犬アレックス	ちばてつや・吉田竜夫 益子かつみ	36年ごろ 26年～38年ごろ	マッハ三四郎 サイコロころ助	古城武司・望月三起也 湧井和夫
小沢さとる 大野豊 小畑しゅんじ 奥田竜緒 大山学	サブマリン707 少年ロケット隊長 キャプテンウルトラ 単行本 見えない手	東浦美津夫・横山光輝 手塚治虫 横山まさみち・桑田次郎 関谷ひさし 影丸譲也	31年10月～33年9月 38年5月～ 38年～41年 37年ごろ～40年ごろ 37年～39年ごろ	鳴門の獅子丸・鉄人28号 鉄腕アトム エイトマン・エリート ジャジャ馬くん 単行本	赤塚不二夫・岸本修 井上智 中城健太郎・他
貝塚ひろし	ミラクルA	下山長平・大野清	33年～35年	青空源平・猿飛佐助	
加藤輝彦 加来あきら 鎌田忠春 川崎三枝子	ルパン三世 あばれマッハ どたんち親子 愛のかたみに	辻なおき 小沢さとる 手塚治虫 佐藤まさあき	39年～41年 37年～40年ごろ 38年～42年2月 39年4月～	戦国猿・少年パンチ 少年タイフーン・他 鉄腕アトム・W3 単行本	小室保孝・下村風介
岸本修 北島洋子 北野英明	暗闇の左近 美しきスザンナ 単行本	横山光輝 水野英子 手塚治虫	31年ごろ～33年ごろ 36年～38ごろ 36年～37年	鉄人28号・かあさんふたり 星のたてごと・他 鉄腕アトム・他	宮腰義勝・月岡貞夫
楠高治 楠勝平	遊星仮面 参加	桑田次郎・他十数人 白土三平	30年～40年ごろ 39年ごろ～40年ごろ	月光仮面・まぼろし探偵 ワタリ・他	小山春夫
九里一平	弾丸児	吉田竜夫	33年～	マッハ三四郎・他	
古城武司 小山春夫 後藤みねお	ムサシ一平 虹の剣士	吉田竜夫・天馬正人 桑田次郎 吉田竜夫	35年5月～36年3月 31年～32年ごろ 35年～37年ごろ	マッハ三四郎・他 まぼろし探偵・Xマン マッハ三四郎・他	古城武司・他

主要まんが家アシスタント数一覧

まんが家	プロダクション名	アシスタント数	製作協力者数	親族協力者数
赤塚不二夫	フジオ	5	2	0
旭丘光志		2	0	0
あすなひろし		0	0	0
伊東章夫		1	1	0
今村洋子	イマムラ	0	0	3
石森章太郎	石森	4	0	0
井上智	智	2	4	0
石川球太		2	0	0
石井いさみ		1	1	0
井上英沖		0	1	0
いばら美喜		0	0	0
上田としこ		1	0	0
栗図かずお		2	0	0
江原伸		1	0	0
江波譲二		0	0	0
小沢さとる		1	0	0
小畑しゅんじ		2	0	0
影丸譲也	アトリエK	0	1	0
貝塚ひろし		3	0	0
川崎のぼる	カワサキ	2	1	0
川本コウ		1	0	0
一峰大二		3	1	0
桑田次郎	カメ	1	0	1
小島剛夕	アニマル	2	1	0
古賀新一	古賀	2	1	1
古城武司		0	0	0
さいとうたかを	さいとう	2	3	0
佐藤まさあき	佐藤	5	0	0
里中満智子		0	0	0
荘司としお		3	0	1
白土三平	赤目	0	7	2
鈴原研一郎		2	0	0

(昭和42年9月現在)

笹川ひろし 斉藤あきら 斉藤ゆずる	ワンワン刑事 単行本 陽がまた沈む	手塚治虫 杉浦茂・他十数人 さいとうたかを・他	32年5月～33年10月 29年～ 35年～41年6月	鉄腕アトム・他 弾丸トミー・他 007・血風	井上英沖・篠田ひでお
荘司としお ジョージ秋山 篠田ひでお 鹿野モユル	魔球の王者 パットマンX 雷ゴロちゃん でっかい海	貝塚ひろし 森田拳次 手塚治虫 吉田竜夫	35年9月～36年11月 38年ごろ～40年3月 33年3月～34年5月 35年～	0戦レッド・他 丸出だめ夫・他 鉄腕アトム・魔神ガロン マッハ三四郎・他	石井いさみ・山崎勝 井上英沖・笹川ひろし
菅嶋清吾 鈴木勝利 清常雄	目のない目 さすらいのガンマン ジャイアントRちゃん	益子かつみ 横山光輝・手塚治虫 石森章太郎・森田拳次	30年～ 33年9月～ 39年10月～42年6月	快球Xあらわる・他 鉄人28号・他 サイボーグ009・他	志岐はるみ・他 馬場秀夫・他 野口勝
高井研一郎 高橋タクミ 竹本サブロー 竹中けんじ 竹中きよこ	それいけカンスケ トラコン三Q士 単行本 チャコねえちゃん	手塚治虫 大友朗 さいとうたかお 赤塚不二夫 望月三起也	31年7月～32年2月 36年ごろ～37年ごろ 38年ごろ～ 38年ごろ～41年 37年～38年ごろ	ライオンブックス・他 日の丸くん 007・他 おそ松くん・他 最前線・戦闘機シリーズ	岩本成修・笹川ひろし
月岡貞夫		手塚治虫	35年～37年ごろ	鉄腕アトム・他	北野英明・他
天馬正人	かみくずおやこ	桜井一・桑田次郎	30年～31年ごろ	高丸菊丸・月光仮面	
中城健太郎 ながやす巧 中沢啓二	キャプテンウルトラ 単行本 宇宙ジラフ	関谷ひさし・吉田竜夫 南波健二 一崎大二・辻なおき、	35年ごろ～40年2月 39年4月～ 37年～41年ごろ	ジャジャ馬くん 黒バイ将軍・他 黒いひみつ兵器・他	飯田信宏・奥田竜緒
西村英雄	単行本	藤子不二雄・他数人	37年～41年5月ごろ	オバケのQ太郎	
バロン吉本 馬場秀夫	名のない男シリーズ 忍者小太郎	横山まさみち 東浦美津夫・横山光輝	37年ごろ～41年 33年～	単行本 夕焼けの曲・鉄人28号他	小畑しゅんじ 鈴木勝利
平田昭吾	単行本	手塚治虫	32年ごろ～34年ごろ	鉄腕アトム・他	笹川ひろし・他
福本一義 古谷三敏 藤まさき	戦えオスパー みかんの花さく丘 その名はゼロ	手塚治虫 手塚治虫・赤塚不二夫 佐藤まさあき	28年ごろ～31年ごろ 33年～ 39年～42年3月	ジャングル大帝・他 鉄腕アトム・おそ松くん 単行本	井上英沖・篠田ひでお
松森正	夜霧のハイウエイ	佐藤まさあき	41年4月～	Zと呼ばれる男・他	
峰太郎 宮腰義勝 宮脇心太郎	単行本 宇宙少年ソラン 男の叫び	小沢さとる・他十数人 手塚治虫 佐藤まさあき	30年～36年 34年～36年4月 33年ごろ	高丸菊丸・他 鉄腕アトム・他 単行本・他	月岡貞夫・北野英明
森田拳二 望月三起也	丸出ダメ夫 ひみつ探偵JA	一峰大二 天馬正人・吉田竜夫	32年10月～34年12月 35年2月～36年12月	ト伝くん・七色仮面 マッハ三四郎・他	山梨幸二 古城武司・他
吉森みきを	ごめんねロン	うちのすみお・牧美也子	33年4月～40年ごろ	牧の口笛・わたしのエル	広岡純
湧井和夫	単行本	益子かつみ	25年ごろ～40年	サイコロころ助	榎本有也

園田 光慶		1	1	0
ちばてつや	ちばてつや	3	0	0
つのだじろう 辻 なおき	つのだじろう ミミズク	2 2	0 2	0 0
手塚 治虫	虫	5	5	0
南波 健二 永島 慎二 中城健太郎	アニマル 地獄	1 3 1	0 0 1	0 0 0
西谷 祥子		0	0	0
浜 慎二		1	0	0
久松 文雄 平田 弘史 東浦美津夫		1 2 4	0 0 0	0 0 0
藤子不二雄	フジコ	4	1	0
堀江 卓 細野知栄子 細野みち子		0 0 2	0 0 0	0 1 0
牧 美也子 益子かつみ 松尾美保子	M・M	0 2 3	0 0 1	0 0 1
水島 新司 水木しげる 水野 英子 都島 京子	S・M 水木	1 1 3 2	0 0 2 1	0 0 1 0
ムロタニツネ象		0	0	0
望月あきら 森田 拳次 望月三起也 モンキーパンチ	ゲンコツ	0 3 2 1	0 0 0 0	1 1 0 0
山根赤鬼・青鬼		0	0	0
横山まさみち 横山 光輝	横山まさみち 光	3 3	2 0	0 0
吉田 竜夫	タツノコ	2	1	1

■まんが家名はアイウエオ順。親族協力者数の中には、マネージャー役もふくむ。■

ろうか。

すでに、赤塚不二夫のフジオプロでは、この方向が押し進められていることは事実である。

まんが家の分業システム・プロダクション形式については、前述したとおりであるが、この方法を採用しているのはごく一部の人気まんが家だけで、大半のプロまんが家は依然として、まったくひとりで作製しているか、家内工業的（まんが家と妻あるいは家族ぐるみで）作製作業をつづけているのである。また、その中間的なものとして、まだはっきり分業システムまでいっておらず、徒弟制度的な師弟関係を保っているまんが家もいる。

アシスタントの現状は……

アシスタントの人数・年令・キャリア・タイプ

現在活躍しているまんが家百人前後のアシスタント数は専属が約百二十人、製作協力者（友人まんが家・親族）が約七十人、フリーのアシスタント約三十人ぐらいで合計二百二十人ぐらいである。これらアシスタントの平均年令は二十三歳。プロまんが家生活にはいってからのキャリアは三年二か月と意外な結果がでた年令が高くなり、キャリアもかなりあるアシスタントが多くなったといえよう。

一般にアシスタントは、自分の選んだまんが家の先生について専属でやるのがふつうであるが、最近では劇画の若手四・五人で結成したアシスタントクラブ（現在は解散）や、虫プロなどにいる、一たんフリーになってから、多忙な時だけ契約して手伝うという、フリーのアシスタントが若干いる。彼らは、同じ傾向の絵柄のまんが家のあいだで、重宝がられている。フリーのアシスタントの場合は、専属アシスタントのような時間に拘束されることはないが、割に高い技術を要求されたり、収入が不安定であったりする。アシスタント不足の現在、これらフリーのアシスタントがさらに増加するのではないだろうか

アシスタントの報酬も月給制・日給制・時給制・原稿枚数制とまちまちであり、年令・まんがキャリア等によってもかなり異なってきて、平均のアシスタント料は算出しにくい

また絵の上達のペースが早い人と遅い人があったりして、報酬の査定は一定していないが、だいたい中・高卒の初心者で一か月一万二千円～一万八千円ぐらいが一般的である。

また分業システムが確立しつつある現在のアシスタントの姿勢も、大ざっぱに分類すると三つのタイプに分れる。第一に将来独立することを考えて、そのステップとして手伝っているタイプ。第二にアシスタントを一つの職業としてサラリーマンに徹しているタイプ。第三に、一度デビューしたまんが家が人気がなくなり、生活のためにアシスタントをしているタイプの三つに分類できる。

この三つのタイプのアシスタントには、〝独立〟ということに関していえば、まったく同等の可能性があたえられている。

即ち、第一のタイプは当然のこととして、第二のタイプの独立が考えられるのは、現在流行まんが家は、ほとんど目いっぱいの仕事をかかえこんで、飽和状態がつづいている上に、尚依頼が殺倒している。つまり出版社側では、どうしても人気まんが家の作品が欲しいのに、それができないのである。そこで、人気まんが家のアシスタントにお鉢がまわってくる。サラリーマンに徹しているタイプの人でも、編集側から依頼さえくれば独立するのは、当然なことであろう。この場合は、あくまでも先生の絵がらにそっくり描けることが必須の条件。いわゆる亜流まんがから出発したまんが家の中には、このタイプの人もいる。

第三のタイプのアシスタントは、みな一度は独立した経験者である。流動の激しい世界だけに、いつ休火山から活火山に復活するか、予断を許さない状態である。

アシスタントの日常と実態

アシスタントの生活は住みこみが多いせいか、多くの時間先生の原稿作製に追われてしまって、ほとんど個人的な勉強をする時間がとれないのが実状である。たまたま時間がとれたときは、疲れきってぼさーっとしているか寝るかして、過ごしてしまう。自分の時間を持つようになるのにずいぶん苦労した人も多いと思う。勉強の時間を持つために、フリーアシスタントが生まれてくる一つの原因にもなっている。

次に苦労するのが先生の絵がらと自分の絵がらの違いをなくすことで、これは、デッサンさえしっかりはいっておれば、なんとかそっくりになるものである。また、非常に不規則な生活がつづくので、寝不足や体調が悪くなったりする苦労がかさなるのである。

また現在のアシスタントは、交流が少なく、視野が狭くなりがちなので、まんが以外の世界に対しても幅広い視野を身につけることが必要だ。

独自なシステムを持つプロダクション

虫プロまんが部（手塚治虫）チーフアシスタントの下に専属のアシスタントが四人いる。さらに必要に応じて、虫プロ出身のフリーのアシスタントを招集することもある。人物以外の手伝いを、チーフの指示に従がって仕上げていく。

フジオプロ（赤塚不二夫）最も分業システムが進んでいるプロダクションで、アイデア部門を特別に設けており、数人がいろんなアイデアを持ち寄り、それをさらにみんなで検討して練りに練った一つのアイデアに結晶させている。これにより、従来まんが家が陥ちいりやすい〝アイデアの枯れ〟を未然に防ぐばかりか、より濃縮されたアイデアが多くなるのは当然のことである。さらに進めて、アイデアだけを受け持つ「ブレーン」にまで発展する可能性はじゅうぶんに考えられる。

赤目プロ（白土三平）アシスタント形式はとっておらず、それぞれ独立したガロ系のまんが家が、そのつど製作に協力している。かなり長期にわたってこの関係が保たれていることは、この業界ではめずらしいことである。

つのだじろうプロ（つのだじろう）合作システムをさらに発展させようと、石井いさみ・芳谷圭児の製作協力者と、それぞれの個性を生かした作品「ライバルの旗」（冒険王）を連載。今後こうした、異質のまんが家が家同志のドッキング形式が、どんどんできてもいいのではなかろうか。

佐藤プロ（佐藤まさあき）自分のプロで単行本を出版していることもあって、アシスタントになって半年から一年ぐらいのあいだに、単行本発表の場があたえられる。若いアシスタントにとって、これほど勉強になり、励みになるシステムはないだろう。

今村プロ（今村洋子）つとむ（父）ゆたか（兄）・洋子・康子（妹）の四人というまったく親兄妹だけでやっ

ているプロもめずらしい。最近は、兄弟・姉妹がプロダクションに加入している場合が多くなってはきたが、進行係やマネジャー的なことはやっても、肉親全員が絵を描くというのは他に例がないだろう。

さいとうプロ（さいとうたかを）ストーリーを主体とした作品において構成からペンいれまで、すべてひとりでやることは職業として重労働である。だからアニメーションのように背景なら背景を描くことだけで一つの職業として成りたつように、ここでは、それぞれ独立した一つの分野を研究している。彼等はアシスタントというより、ひとりひとりが職業人に徹している。

アニマルプロ（小島剛夕・南波健二）小島と南波の関係はお互いに忙がしくなったときにアシスタントを派遣。地理的条件（ふたりの家は百メートルと離れていない）が良いことなどから、絵柄やジャンルが違ってもこの関係がつづいている。また、小島自身はふたりの内弟子がおり、仕事を教えるという師弟関係を保っている。

地獄プロ（永島慎二）　住込みで自炊させており、公私共にはっきりと師と弟子といった関係にある。



⇧　分業システムがはっきりしているフジオプロのアシスタント。



⇧アシスタント制度を一番さきに採用した虫プロまんが部。（38年頃）

まんが家残酷物語

「アシスタントは、絵さえ描ければほかになんにも考えなくていいから楽でうらやましい職業だ」というまんが家も多い。たしかにその意見も一理あると思うが、はたしてほんとうに楽な職業だろうか……。

昭和二十八年から満十四年経過したアシスタント制度は、ますます分業化してきているが、この間、数百人のアシスタントがまんが製作に協力している。このうちのほぼ七十%の人々が、現在もまんが関係の職場にいると見ていいだろう。

この間、第一次まんがブーム・児童週刊誌の創刊・多数の動画会社の設立等、児童まんが界にとって画期的な事態が相ついで起こり、分業化に拍車がかけられ、師弟関係は変革を余儀なくさせられた。

人気まんが家は、激増したまんがファンのアイドルとなり、人気キャラクターは子どもたちのアイドルとなった。しかし、この輝かしいスター誕生の裏に無名のアシスタントの献身的な努力があり、いくつかのまんが家残酷物語やエピソードがある。また、変わったアシスタントも二・三いる。

■先にも述べたが福本一義は、編集者から手塚のアシスタントになり、その後「戦え!! オスパー」を描き現在は、智プロのスタッフとなっている。

■平田昭吾は手塚治虫のアシスタントを経て日活に入社。現在は智プロでアイデア部門と渉外部門だけを担当している。

■十年前後にわたり、多数の人気まんが家のあいだをジプシーのようにわたり歩いているアシスタントは意外に多い。（この間、ほとんど自分の作品を発表していない）わたり歩いているうちにアシスタントずれしてしまう傾向がある。

■アシスタントが考えだしたキャラクターをそのまま使ってしまうまんが家もおり、師弟間でいざこざが起こったりすることもある。

■アシスタント同志の必要以上のいさかいも多い。

■この十四年間にアシスタントに見切りをつけ、動画に転向していった者もかなりいる。

■このほか、なんといっても大きいのが、精神的な苦痛であろう。人気まんが家のアシスタント酷使がいきすぎるあまり、ノイローゼになり自殺したアシスタントもいるくらいである。これは、教える立場・教えられる立場という師弟関係が弱い上、量産しなければならぬことから生じてくる場合が多い。

■人気まんが家のアシスタントをして、すっかり自分が人気まんが家でもあるような錯覚をしてしまって、編集者やまんが愛好者におうへいな態度をとるバカもでている。

アシスタントになるには……

まんが家のアシスタントを経て独立するまんが家は、いままで多く輩出している。ここ数年、独立の数はかなり減少してきてはいるが、雑誌でデビュー・独立するケースは、依然としてアシスタント経験者が多い。

アシスタントになるためには、まずまんが家にじゃんじゃん原稿を送りつづけることである。あまり批評をあてにせず、長いあいだ送りつ

づけ、進歩がみとめられれば、欠員がでたときに採用されることがある。

『講談社』や「ガロ」「COM」の新人まんがが賞に応募するのも一つの手である。ここで新人まんがが賞を獲得すれば、どこへいっても優遇される。もちろん、ここの入賞者は独立を考えているだろうから、あまり多忙な先生につくのはひかえたほうがよいだろう。

出版社の編集者に原稿を持ちこんでもいい。何回か持ちこんでいるうちに親しくなり、自分の希望を伝えておけば、ピンチの時などは狩りだされることがある。それを機会にアシスタントになるケースも多い。この場合、東京に住んでいて、いつも外出できる状態でなければならない。

このほか、全国にまんがが同好会がかなりあるので、入会して文通したり、会合に出席したりする。会員の中には、たいてい編集者やまんがが家を知っている人がいるから、その人のツテでアシスタントになることも考えられる。

いずれにしても、アシスタントの絶対量が不足している現在、絵がうまく描けて、体力に自身のある人なら、根気よく絵を送りつづけていれば、たいていアシスタンドになれるだろう。

学校は、かならず高校ぐらいはでておくこと。できれば大学までいくのがよい。まんが以外の教養や知識が、けっきょくはものをいうときがくるものだ。

アシスタントになることもけっこうであるが、再々述べたように、へたをすると自分のオリジナルな才能が殺されてしまう可能性があるので、充分注意する必要がある。

分業化(ぶんぎょうか)はどこまで進むか

まんががブームにより、需要が激増し製作がそれに追いつかない現象が起ったとき、児童まんがは、零細ながらも企業にまで変わらざるをえなかった。

しかし、この企業は依然として、代表者であるひとりのまんがが家にオンブしているのが大半である。このまんがが家の衰退がプロダクションの衰退につながるという、はなはだ心細い零細企業なのである。

こうしたなかで、白土三平・赤塚不二夫・さいとうたかを等は、ひとりの個性に支えられている一代限りの零細業から一歩進んで、総合芸術としてのまんが――総合の個性をだしたまんがを打ちだし、より完全な企業化をはかりつつある。

いっぽう、マス・プロとはまったく無関係なところで、ひとりでアイデアからホワイトまでやってのけているまんがが家たちもいる。この一群のタイプはまちまちであるが、量産したくてもできないタイプ・現在の子どもたちに、うけいれられないまんがを描いているタイプ・量より質（ただし、まんがは個人芸術と考えている作家）に固執するタイプ等に大別することができよう。だが、これらのまんがが家たちの中には、たとえ目立たなくてもパイオニアとしてまんが界全体の進歩のために、良心的な作品活動をしている人たちがいることを知っておく必要があろう。

総合の個性によるまんがと、ひとりの個性によるまんがというふたつの極端なまんがが活動の賛否はともかくとして、少くとも前者に積極的に協力しているアシスタントの今後について触れてみよう。

どこのプロダクションでもそうであるが、先生の下にはたいていチーフ格のアシスタント（あるいはスタッフのチーフ）がいる。このチーフは、背景から人物のペンいれまでやっていることが多く、それだけにキャリアもあり収入も多い。ときには先生以上に絵が上達しているという珍現象もでてくる。この人たちは、デビューのチャンスさえあれば、いつでも独立してしまう。絵がうまくなれば独立するということは、アシスタントとして当然なことかもしれないが、このくりかえしによりプロダクションの企業そのものは、少しも発展しないという現象が起こってくる。

このことは、日本独特のものらしく、「総合の個性によるまんが」を量産しているアメリカのまんが界（ディズニープロ・ハンナバーバラに代表されるアニメ界。ボーイズライフやジャックアンドギルやゴールデンブックに代表される児童雑誌界）ではほとんど見られないことである。

産業化に賛成する側に立てば、アシスタント制度を大改革しなければならない。たとえば、アイデアにまで参加させたり協同経営者に昇格させなければ、企業の促進ははかれないだろう。

そうなるとアシスタントは、もう助手ではなく、共同製作者であり、共同経営者であり、強力なブレーンなのである。

アシスタント出身の有力新入が少なくなった現状を考えると、企業化が浸透してきてはいるのだろう。確かに、一時のアシスタントより待遇もよくなってきていることは事実である。

まんがが産業の細分化は、それぞれキャリア・実力の違うアシスタントをも細分化していくだろう。即ちいままでは、先生とアシスタントの関係だけであったのにくらべ、アシスタントの身分差がサラリーマン並みにでてくるのではないだろうか。極端な例ではあるが、先生は社長、チーフは部長、バックマンは課長、斜線は係長、ベタホワイトは平社員というふうに。とにかく、アシスタント制度のここ数年は、まんがのマス・プロ化がつづく限り、需要供給のバランスを保つためにも、大きく変貌するであろう……。

STORY OF THE WEST

おふくろさん,



ゲストまんが
シリーズNo.3

川崎(かわさき)のぼる

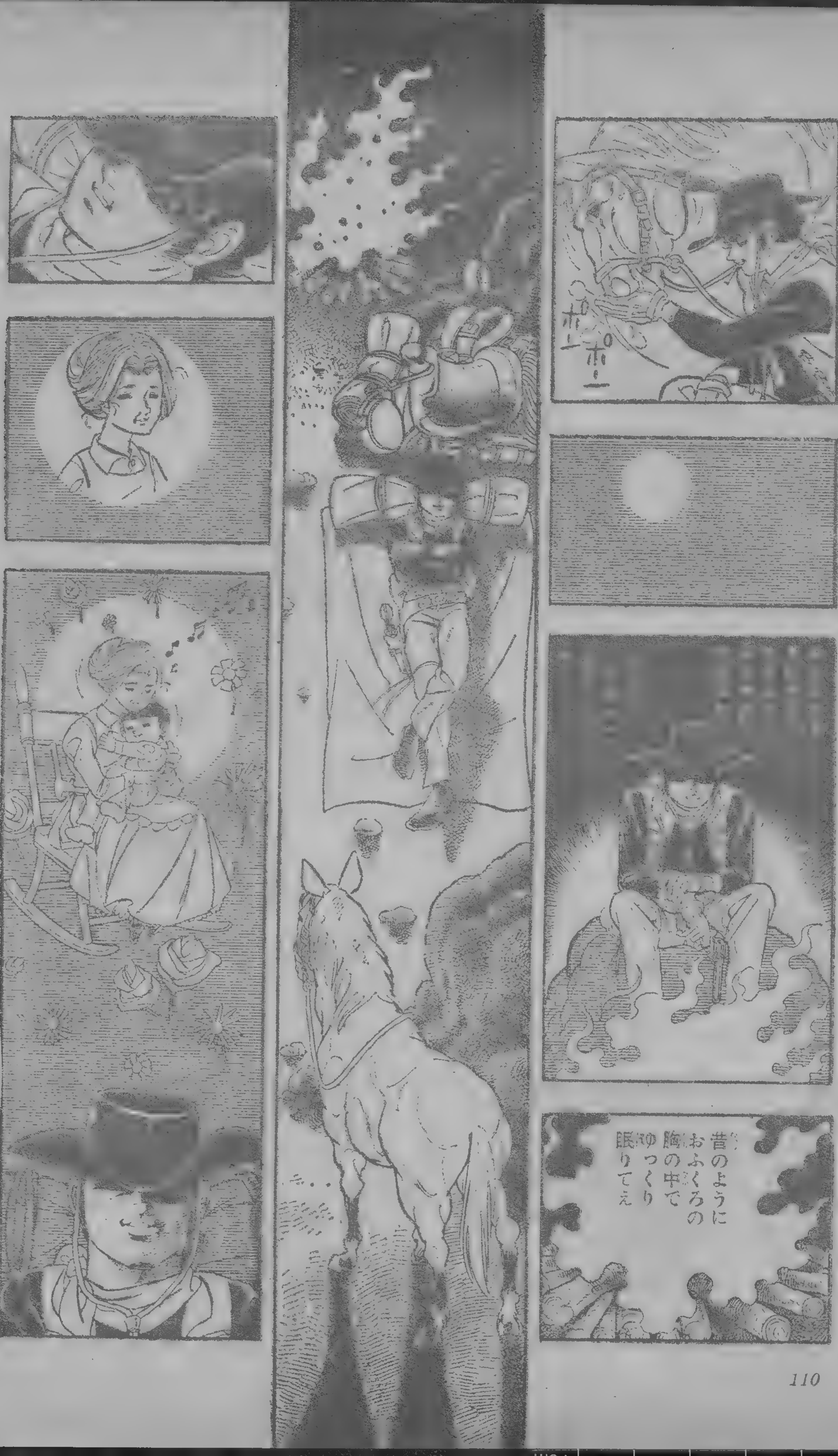


もう　ずいぶん長いあいだ
おれは旅をつづけている
あてのない旅を……
そしてまた、ずいぶん多く
の野郎たちも殺した

もういいかげんに
おれは疲れたぜ

ゆっくりやすみてえ!!
撃鉄をおこす音も
気にせずゆっくり眠りてえ……
そうだ……昔
おふくろの胸の中で
眠ったように……

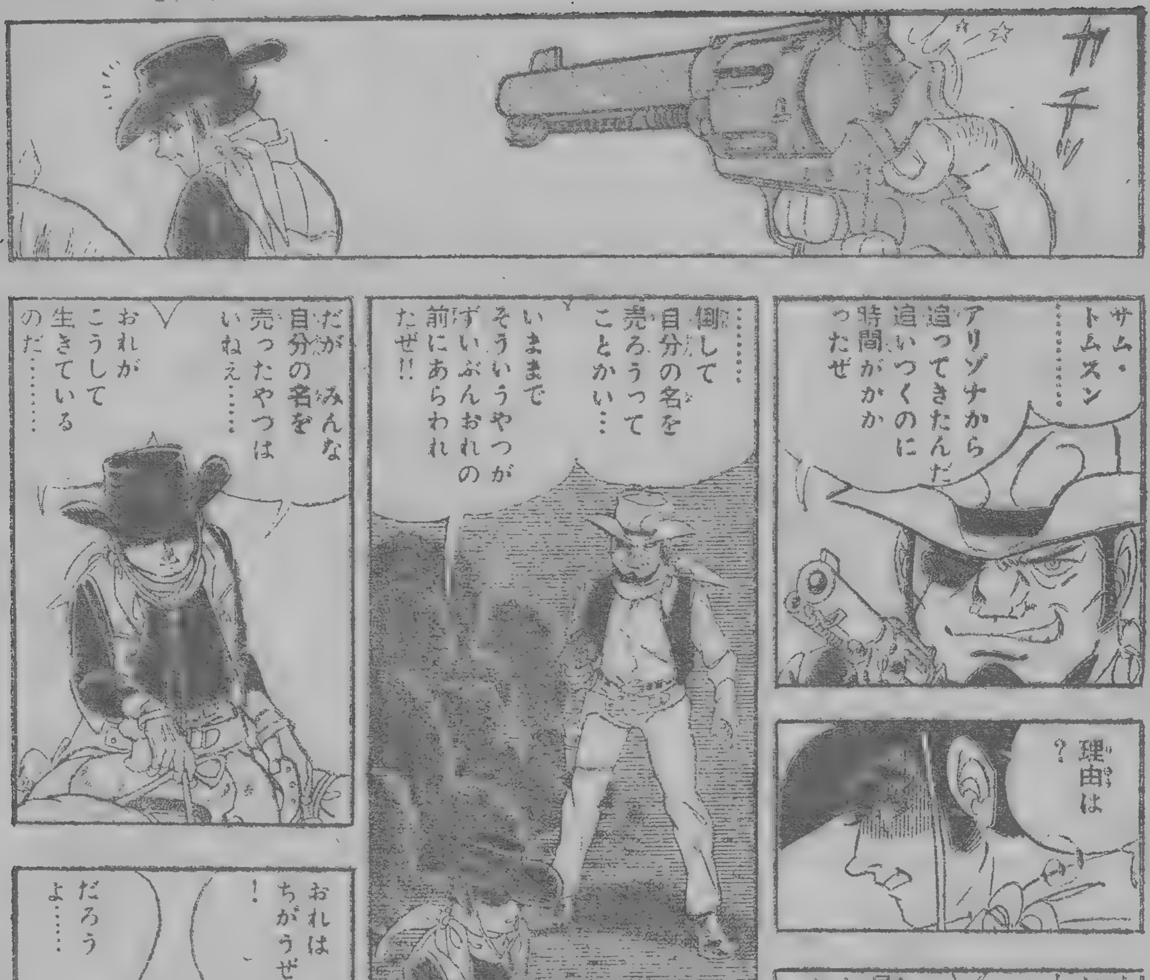

みんな
十六のとしで
おふくろひとりを
だが また
こいつのために
いまおれは
……
夜も
ゆっくり
やすむことも
できねえ……
疲れた
……
パチ パチ
ふふふ…
おまえも
おれ同様
旅から旅と
いいかげん
疲れたろう



川崎のぼる先生のご住所は、東京都三鷹市中原四の四の七です。


なんだ
おまえか
!!
ふうー
いままで
なんべんこいつと
別れようと
したか……
そのくせこいつと
ひとときも
はなれられ
なかった……
不安で
かえって
ゆっくり
眠れなかった
だが……

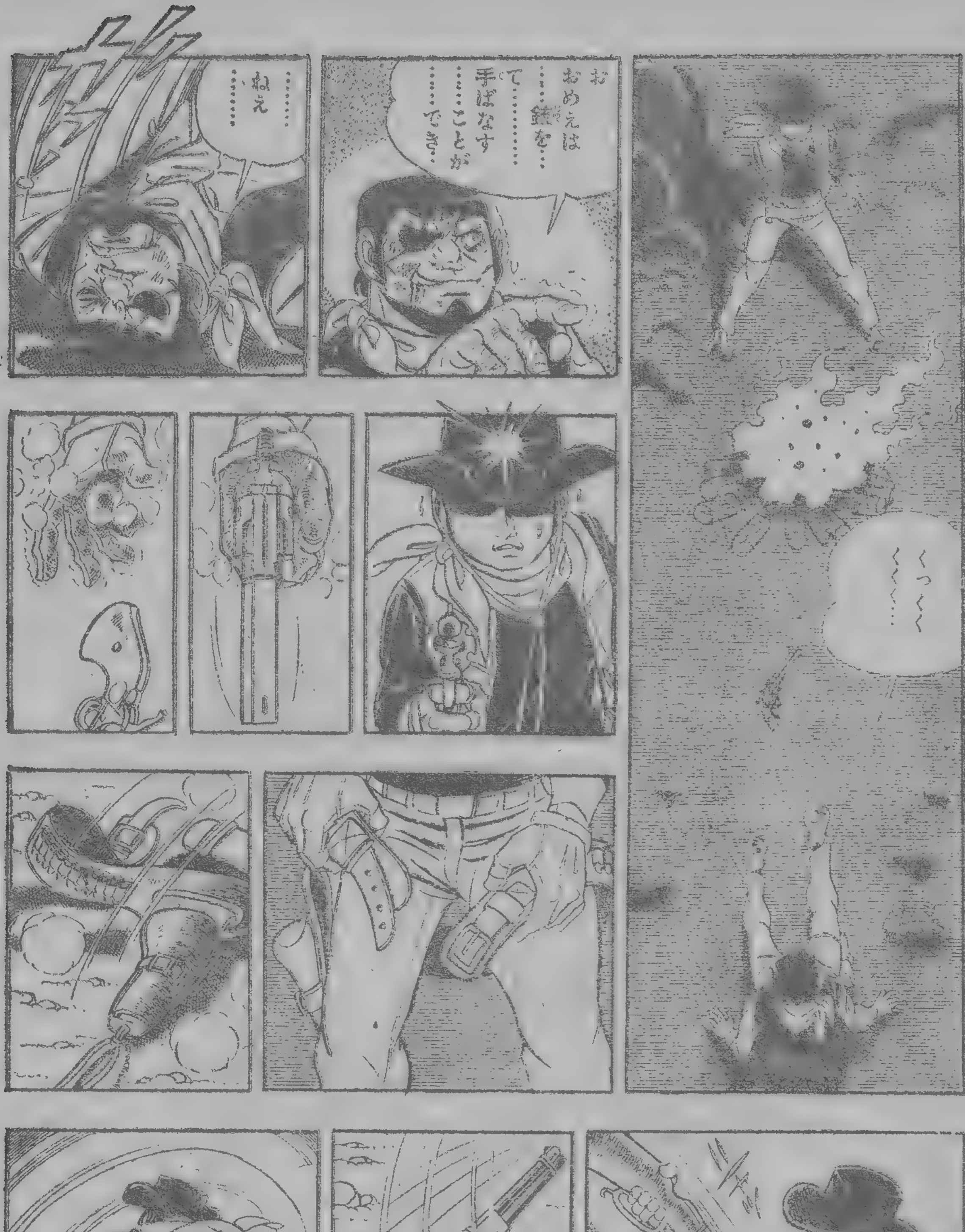

もう おまえとは 一生おさらばだ 二度とおれの 腰にぶら さげねえ
ポイ!!
おふくろの いるサレントの 町まで とばしゃあ 三日でいける!!
おまえも 疲れているだろうが ひとっぱしり たのむぜ!!
おれたちの 長い旅も そこで 終わりだ
ぐっ



カチッ
サム・トムスン……
アリゾナから追ってきたんだ
追いつくのに時間がかかったぜ
理由は？
ふふふ……いわずとしれてらあ……
早撃ちでしられているおめえを……
……倒して自分の名を売ろうってことかい…
いままでそういうやつがずいぶんおれの前にあらわれたぜ!!
だがみんな自分の名を売ったやつはいねえ……
おれがこうして生きているのだ……
おれはちがうぜ！
だろうよ……
おれはこのとおり銃は持っていねえ！
丸腰だ!!
にや！
そんなこたあかまわねえ とにかくおめえを倒しあとで銃をにぎらせておきゃあいい
だれも見てるわけでもねえしなふふふ……


さささまっ!!
あすからはサム・トムスンをたおしたセシル・グリーンが早撃ちの名手として西部の町々に名がしれわたる…


グ…ラ…


お
おめえは……銃を……
て……
手ばなすことが……でき……
……ねえ……
くっくく
くくく……


ドドドドド
ダッダッ


サ!
だいじょうぶかい?
ありがとう
メアリー
メアリーけがはなかったかい?
ケリイこのかたに助けていただいたの
メアリー……
おれのおふくろとおなじ名だ……


じゃあ おれは……
まって わたしの 家に よって いらして……
せめて お礼を……
お礼など いらねえ
その手は どうしたの
やけどさ……
じゃあ あたしの 家に いい お薬が あるわ 手当て など して……
すぐそこよ 牧場をやって いるの……
はい これで いいわ
ありがとう


…………
ついことばにあまえて長くおじゃましてしまった
よかったらいつまでもいらして………
えんりょはいらないわカウボーイの人数もたりないしいていただくと助かるわ
それにあたしもいてくださったほうが………


ケリイ
おれに用ってなんだ？
とれ！

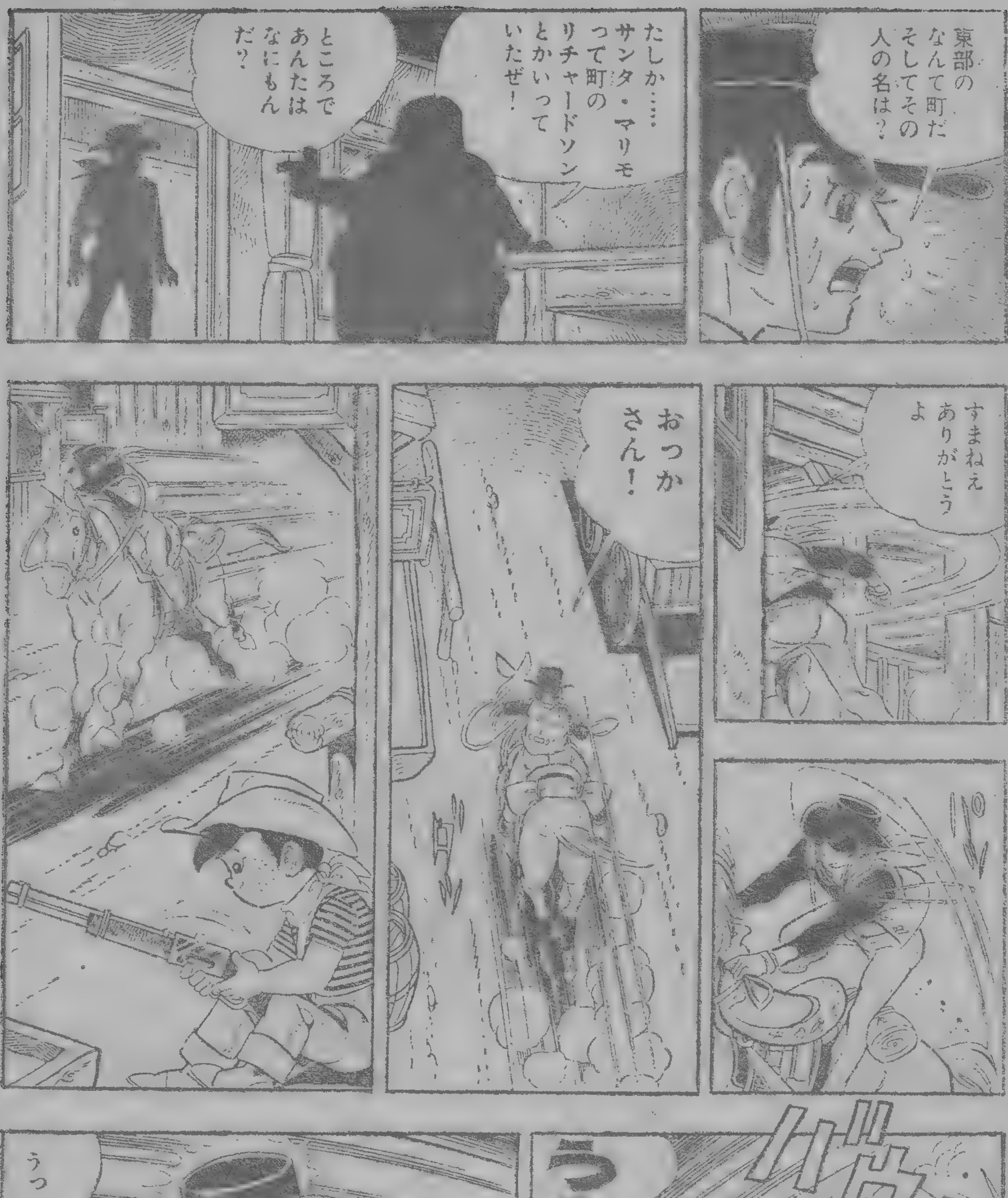

なんのために………
決闘だ!!
メアリーはおれの恋人だった……
おめえがくるまではな………
こうなりゃあ正々堂々男のやりかたで勝負をつけよう勝ったほうがメアリーをとる
銃をとれ!
…………
どうした銃をとれ!
…………
よし すこし時間をおこう決闘はあすの朝!
日の出とともに牧場の泉のそばで………

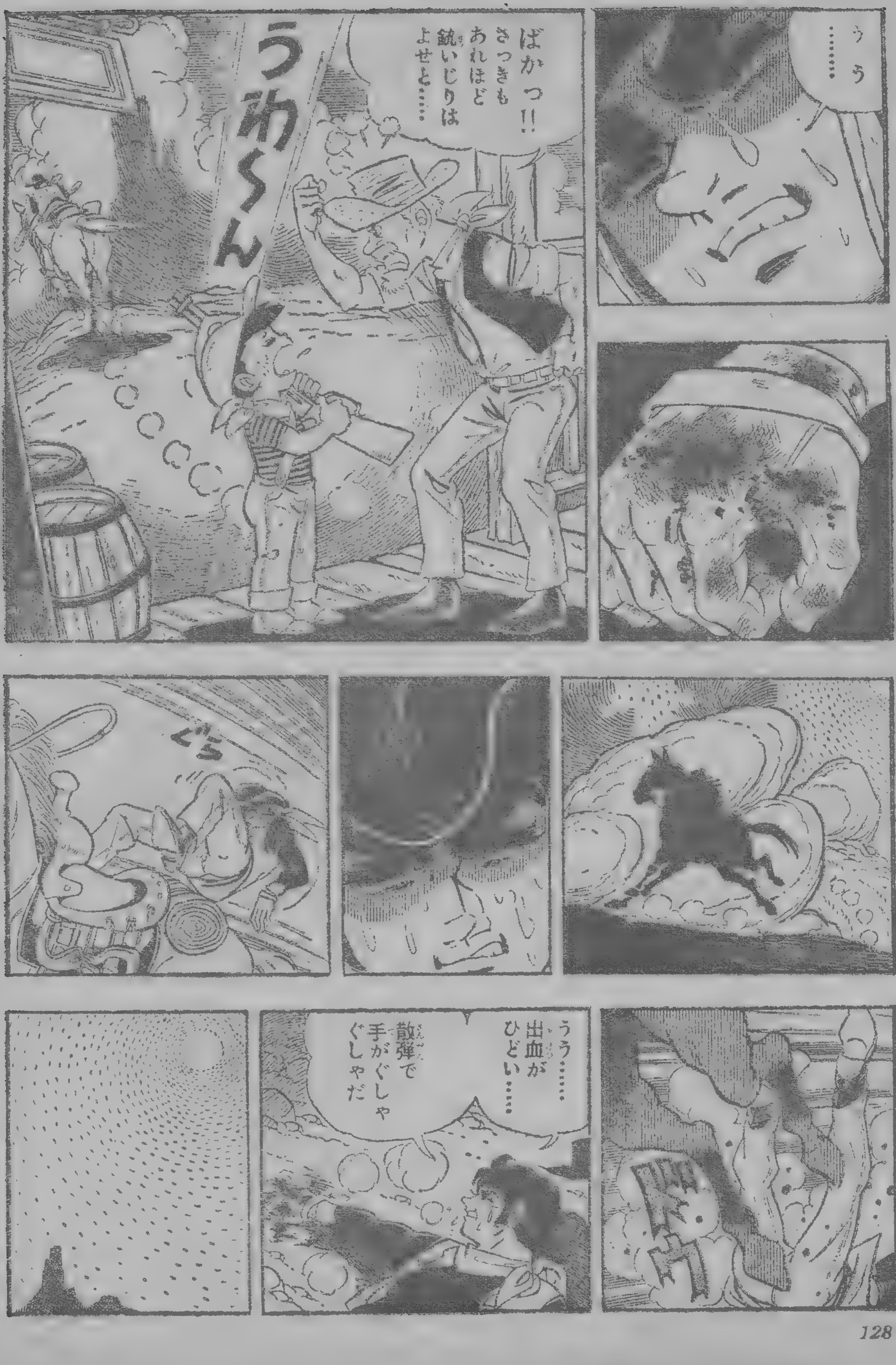

えっ
サムと
ケリイが
決闘を!?
へえ
まちがい
ございません
サム
ケリイ
なんて
ばかな
ことを…
はっ


じゃ……
じゃあサムは……
やつは姿をあらわさなかったよ!!
ケリー……
サム……
二度と銃をにぎらぬときめたおれだ……
もうすぐおふくろのいるサレントの町だ！


見えた！
サレントの町だ
音とかわらねえ
静かな
美しい町
だ……
おれも
この町で
あんなときが
あったんだ
こら
チャック
また銃を
いじってる
あぶないから
よせとあれ
ほどいった
ろう！
やだーい
なつかしい
わが家だ
おっかさん
いるかな


ゆりイスにゆったり腰でもかけて編み物でもしてるかもしれん……
いや 食事のしたくかな……
それとも……
きれいずきだからカーテンのししゅうでも……
ザク ザク ザク
ピタ!
グイ
おっかさん!
あ……
なんだね あんたは!?
こ ここにメアリーという年とった……
ああ メアリーばあさんなら三年前東部のあるなさけ深い金持ちのだんなに年とってひとりで生活してては大へんだといって引きとられていったよ……


東部のなんて町だ そしてその人の名は？
たしか……サンタ・マリモって町のリチャードソンとかいっていたぜ！
ところであんたはなにもんだ？
すまねえありがとうよ
パ
おっかさん！
バウ！
うわっ
うっ


ばかっ!!
さっきも
あれほど
銃いじりは
よせと……
うわ〜ん
う
う……
ぐら
うう……
出血が
ひどい……
散弾で
手がぐしゃ
ぐしゃだ


早射ち サム・トムスン……
おあいて ねがうぜ！
もう おれは 早射ち サム・トムスン じゃねえ
にげるのか！
て……手首から 先が……
いったい どうして……
これを 見ろ！
あっ
ふふふ…… おれよりも すご腕の やつはいる もんよ！


い……いったいどんな野郎だ
サレントの町で横じまの服を着た顔にそばかすのいっぱいある男だ名はしらねえ
サレントの町にそんなすご腕野郎がいるのか！
よし
うっ
くそっ出血のため目まいがしてきやがった
SALENT TOWN
横じまの服を着た顔にそばかすの男か……
BANR


おっかさん！
おっかさん！
トムスン
まあ　まあ
こんなに
やつれて……
いいから
おっかさんの
胸の中で
おやすみ
ああ
おっかさんの
胸は昔と
かわらねえ
やわらかくて
あったかいや……
やわらかくて……



★次号のゲストまんがシリーズは、おなじく川崎のぼる先生の時代劇「ある浪人の死」です。ご期待ください。

〈おわり〉

こがたタンクろう

まんがは、その時代時代によりある特定のものが、読者に受けるのは周知のとおりであるが、この古沢日出夫氏の柔道まんが「こがたタンクろう」が、『少年画報』で企画された当時（昭和二十八年）すでに、故福井英一氏の「イガグリくん」が異常なまんがブームを呼び起こしていた。

「イガグリくん」が現代の柔道少年を主人公としていたのに対して、「こがたタンクろう」は、明治初期における柔道に生きる少年を登場させた。

これは「姿三四郎」がそうであったように、柔道ものをやる場合、講道館柔道の黎明期に舞台をとったほうが、より劇的で効果的だと考えられたからだ。

古沢日出夫氏は、そのころ、児漫長屋（児童まんが家の団体）の幹部として各誌に連載ものを執筆し、大いに活躍されていた。氏のもっとも油ののりきっていたときであろう。



こうして、『少年画報』の昭和二十八年九月号に「こがたタンクろう」の第一回が発表され、たちまち大きな反響をまき起こした。

その後、昭和三十一年九月号まで、二年九カ月間、別冊ふろくをふくめて、総計二百数十ページにわたる連載となったのである。これは、現在のまんがとくらべ、ページ数だけで比較すると、けっして大作とはいえないが、その充実した内容は力作というにふさわしく、古沢日出夫氏の代表作の一つである。

内容をかんたんに説明すると、転心流柔術指南、串本巡斎の弟子こがたタンクろうは師のかたき荒木一斎を追って東京に出る。そこで講道館柔道の矢野四五郎と思いがけなく出合い、彼から感化を受ける。そしてタンクろうの以後はげしい心身の練磨がつづくのである。

この間、他流柔術家との試合、悪徳外人レスラーとの決戦、空手名人の竹心、木心兄弟との対決、悪漢征伐など……そのつど、タンクろうの必殺の妙技"[illegible]投げ"が火を吹く。そして、それを縫って美しい師弟愛、隣人愛、友情が、物語に花を添えてくり広げられていく……。



古沢作品の特長は、氏自身がひょうひょうとした大人的風格の持ち主であるように、その作品全編に、常にほのぼのとした庶民性と、巧みなユーモアが流れているところにあるといえよう。

氏に、長屋に住む善良な八っあん熊さん的人物を描かせたら、まさに天下一品であり、この「こがたタンクろう」においても、いろは長屋の大家さん、大工のトメさん、そして、タンクろうの真心によってスリから足をあらった欽次などが、重要な役割りを演じている。

主人公を中心とした、はりつめた激しい勝負魂の展開に、これらの愛すべきゆかいな人物の組み合わせが、豊かな起伏を作って、なんともいえぬストーリーのおもしろさを構成していったのが、この作品のうけた理由であろう。

しかしながら、その反面、ともすれば作品がおとな的感覚に走りやすいという難点も多少あったことは事実である。

ともあれ、古沢氏は、その作品においても、また、本人自身においても、個性のある得難いまんが家のひとりである。

元『少年画報』編集長　金子一雄

▶古沢日出夫メモ◀

★本名／古沢　秀雄

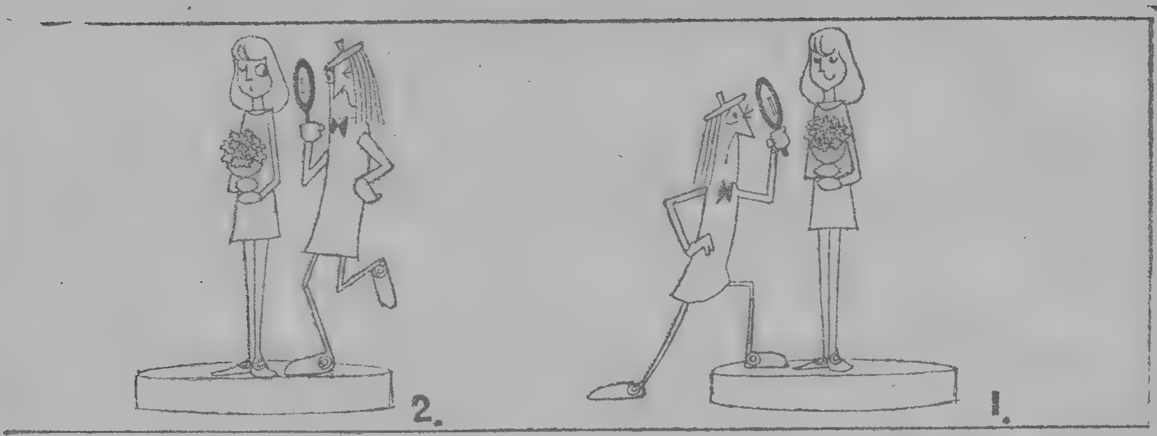
★生年月日／大正9年1月2日

★出身地／東京都港区芝

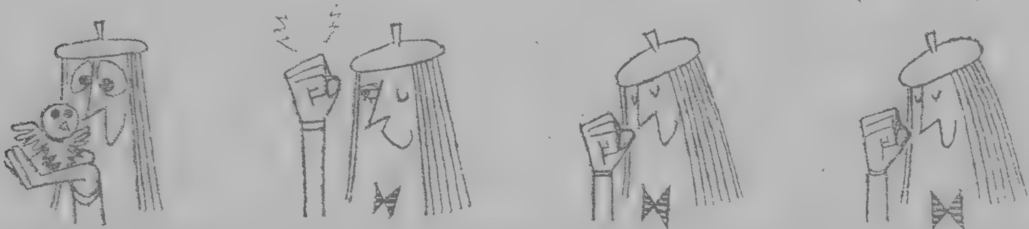
★デビュー作／「ギッタンバッタン」(漫画少年) 昭和24年、30歳ころの作品

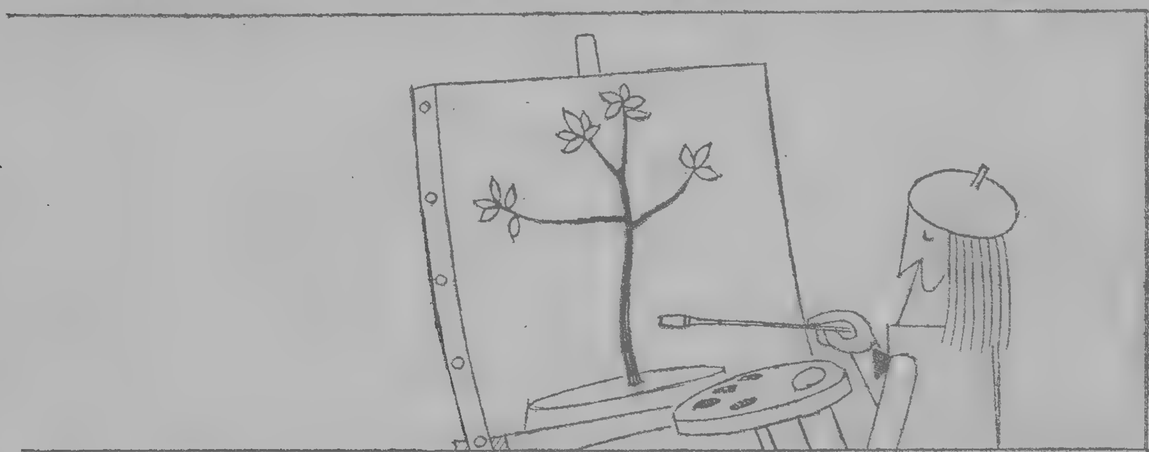
★代表作／「豆たん主将」（少年クラブ）「進め三太郎」（少年クラブ）「あばれ太閤記」（ぼくら）「宮本武蔵」（おもしろブック）など。

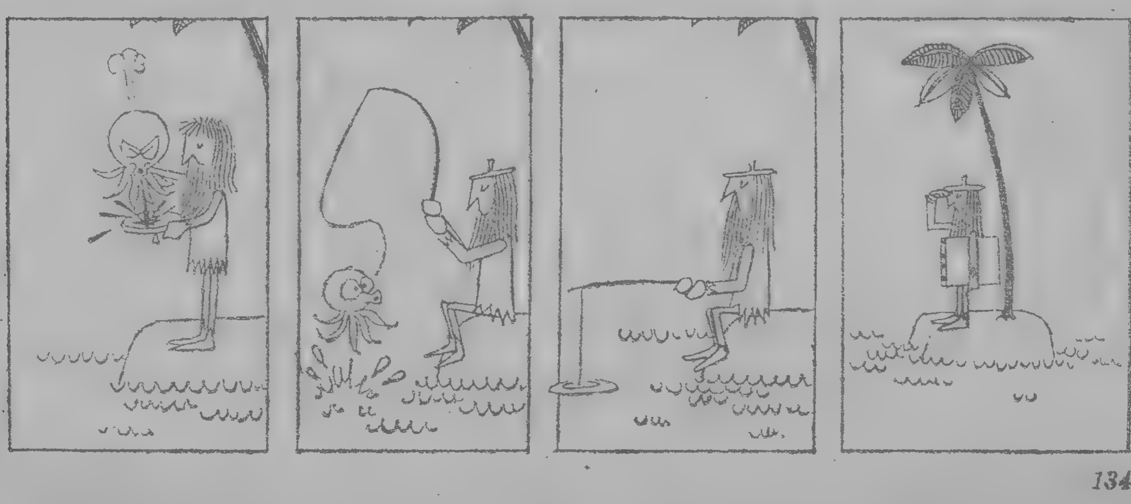
★その他／昭和22年ごろ"児童漫画長屋"に参加。山田啓二、馬場のぼる、手塚治虫らと活躍。



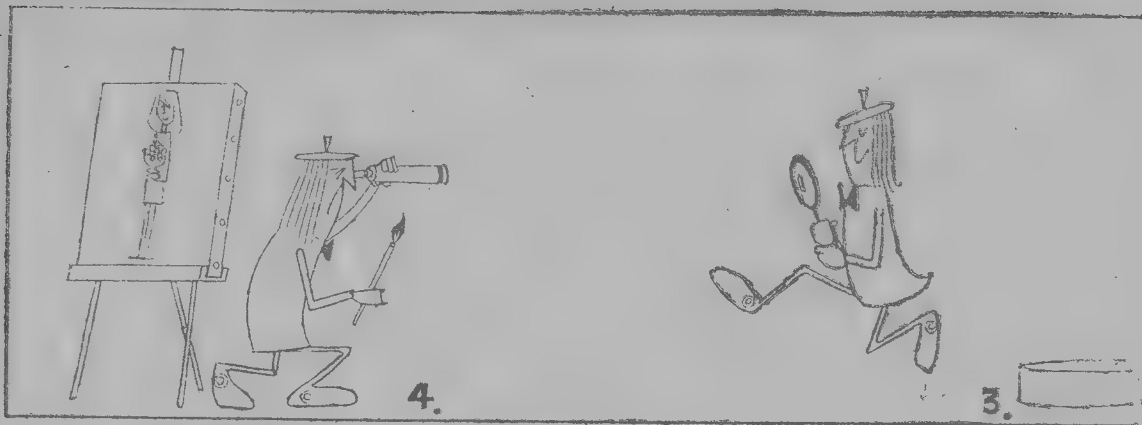
中島（なかじま） 宏治（こうじ）







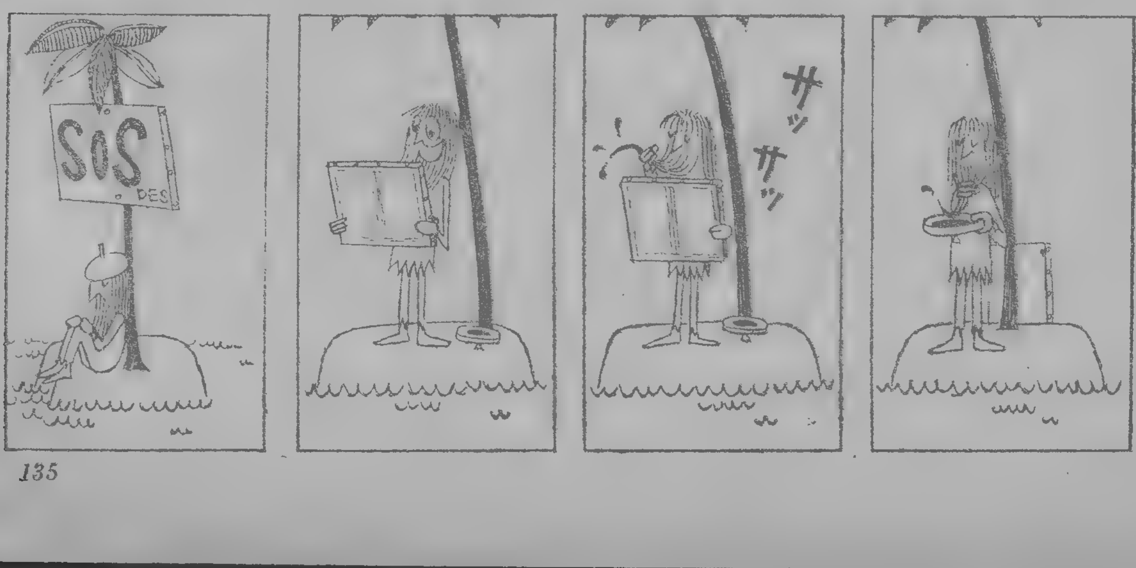
MAN画家・デス氏



MAN画家・デス氏 No. 2







今月のまんが エンマ帳

(7月25日～8月24日)

■漫画太郎■

■はじめに　まんがブームを迎えて、すでに数年が経過した現在、まんが業界は一段と活発な動きをみせている。児童まんが誌・テレビアニメの氾濫のみならず最近では、劇画を中心とした青年まんが誌も続々登場し、それぞれがかなりの伸びをみせているようである。まんが関係者にとっては喜ばしい現象であり、たいへんけっこうなことにはちがいないが、個々の作品を客観的に見た場合、現在の活況を手ばなしで喜ぶわけにはいかない。一部の流行まんが家に仕事が集中し余裕のある創作活動ができないまま、多作を余儀なくされている。この状況の下で発表された作品群には、とうぜんなんらかの問題点・不満が残される……。

だが、現在の少年ジャーナリズムは、作家への遠慮からか、過去の作品（まんがは読み捨ての消耗品に過ぎないの考え方）にケチをつけてもはじまらないためか、ほとんどほおかぶりして、問題点や不満は、まったく放置されたままの状態である。

まんが産業の確立・発展を考えたとき児童まんが・青年まんがを俎上にのせ批評することが、まんが専門誌「COM」の使命の一つと考え、あえて苦言を呈するしだいである。この「まんがエンマ帳」が、まんが関係者・まんがマニア・読者によい意味での刺激となれば幸いである。

■熱血感動まんががブームの導火線となった「ハリスの旋風」（ちばてつや）と「巨人の星」（川崎のぼる）は、この一か月はやや低調気味。ハリスは石田国松のやくざで乱暴な行動のみが、無暴とも思われるほど前面に押しだされてかえってイヤミになってしまっている。長期連載からくるアイデアの枯れはじゅうぶんわかるが、「一二三と四五ロク」でみせた氏の良心と意気ごみを、再び見せてもらいたいものだ。

甲子園球場で見せた星飛雄馬と、花形満この宿敵同志の厚い友情は圧巻だったが、それ以後「巨人の星」もやや感動が薄くなったのは残念だ。大型熱血まんがの担い手として、さらに、現在最高の人気まんがとして、いっそうの精進を望みたい。

■『少年サンデー』の35号よりはじまった手塚治虫の異色時代まんが「どろろ」は手塚作品としてはめずらしく怪奇性と残酷性を取りいれており、この作品にかけた作家の並々ならぬ意欲がうかがえ、さすがにぐいぐい読ませて、おもしろいが、尻つぼみにならぬよう、がんばってほしい。

■つのだじろうの「グリグリ」（少年サンデー）は、アイデアが斬新でおもしろく、コマ割りも一応は成功しているが、ことばにたよりすぎるギャグが多いようだ。

■『別冊少年キング』九月号の「ひみつ探偵JA」（望月三起也）は、小道具の使い方がうまいのには感心するが、全体のストーリーが一貫しておらず、メリハリがきいていない。絵がわかりやすくなればさらによい。

■水木しげるの「墓場の鬼太郎」は、怪奇性に力むりすぎ、「鬼太郎夜話」に見られた批判精神や、性格のおもしろさがなくなっている。そろそろ新作を見せてほしいところだ。

■楳図かずおの「赤ん坊少女」は一気に読ませる。人間の裏側にある醜い面をさらけだしている力強さは評価してよいが見せものに走らないでほしいものだ。

■わたなべまさこの「奥さまは魔女」はベテラン作家らしくそつなくまとめてはいるが、テレビのダイジェストにならぬよう注意。

■横山光輝の「グランプリ野郎」は、レースになるまでのエピソードがよく描けており、絵もわかりやすいが、迫力と自動車のメカニズムをもっとだしたほうがいいのでは……。

■小島剛夕の「おぼろ十忍帖」は、コマを細分化しながら、なお、ゆとりのあるカッティングと、絵を描きあげる技術には敬服。欲をいえばストーリーにゆとりがほしい。

■平田弘史の「武士道無惨伝」は、男の世界に終始する題材で佳作ではあるが、盛り上がりが少なく重量感に欠けた。

■佐藤まさあきの「Zと呼ばれる男」は、殺陣のうまさは抜群で、なかなかおもしろい。絵も魅力がでてきた。非情さの裏にある人間性をだしてほしいところ。

■園田光慶の「青春球場」は、なかなか迫力や葛藤があって読ませるが、氏の独特の構図や魅力的な絵が表現されていないのが残念。青年の登場する少年まんがに終わらぬよう注意。

■モンキー・パンチの「ルパン三世」は、ねらいもわかるし、意欲は高く評価するが、絵が雑然として見にくい。ペンの整理と構図の処理に、もう少し神経をくばってもいいだろう。独特なムードをかもしだしてはいるのだが……。

ノンビックリション劇場　芸術祭不参加作品

東南アジヤへの道

木崎しょうへい





海外旅行はウレチイナ おお田中くん 三木くん 福田くん 見送りすまん ババハーイ
Bちゃん バンザーイ
元気でいってくるぞー
帰ってくるなー
バッチリのされてこいよー
バカヤロー
遠くてよく聞こえないけどソくんありがとうありがとう
AIR LI
ふしぎだ ほかの乗客がひとりもいない おまけにシチワーデスもいないとはひどい飛行機だ！国会で決めたおぼえはないはず
こんなことでいいのかソくん！
パイドットに厳しくいっておこう
US AIR FORCE
パイドットさん
だーれだい！
やっ おたくは 以前見かけた顔
そういうきみは見なれた顔
そのおたくがどうして爆撃機に？
これは軍用機かいな！民間機とまちがえただーよ
ベトナムの東南アジアへいくそうだからまっいいや
ところで東南アジア国の首都はどこだっけな


機内には爆撃機だけにふしぎと爆弾がドッサリコンあるなー
ハイ用
ドホイ用
わーとめ金がはずれた
たしけて
いけねまた誤爆だ!!
DORONUMA
KIKENGA ABINAIDO
不発弾で運よくたすかった
アーアーあっどこか見おぼえのある顔
そういうチミは忘れようとしても思いだせない顔
そうだ味方だ
わしは東南アジア旅行にきただーよ
まず無理だね
どしてだべ
ひゃーダイオン
だいじょうビだよ野生のエルザどした?
ウーウウォウオ
またベトコンに襲われたか
という理由で常時危険なんだよ



やつらがきたな
じまった銃を落としたBちゃん銃あるけ
BANG BALM BANG
銃はあるけんどただじゃやだよハンン円ぐらいで売るよ
日本製は高いねー
BLAM! BLAM! BLAM!
BAM
BAM
BRATATAT
BANG
BANG
VIP
VIP
VIP
だミだかなわないひとまず撤退しよう
おいおれをおいてくのか
あとについてきなよ
VIP
VIP
くそ迷子になっちゃった
おまわりさーん迷子がひとりはぐれてますよー……
そこいくのは8作じゃないか
あの声は
わしゃー祖国をのがれてこんなところで生息しとるんじゃ
まったくシヤワセなんだ
ところでデブは元気でいるかニ……
しかし逃げながらも女をはべらせているとは　みならう点があるな
わ！おとし穴
ベトベトサンか！

東南アジアへの道


おーい またひとり犠牲者を捕まえたど
部落へしょっぴけ
お命だけはごかんべんを……ナンマイダ
毛沢東主義万才
ホーチミン万才
いいジョー
うれちい なったらうれちいな
こいつをどうしよう
軍事裁判にかけて見せしめにしよう
英帝の手先と同罪だ
007かどうして捕まってるんだ?
じつはホンコンで中国どもにつかまったんだ 二度死んだが死にきれず あっちゃこっちゃとひきずり回されているわけだよ
あれは味方だ! カッコイイ こっちだこっちだ
BRATATA
BRATATATT
ヒャー こっちじやだめだ
しめた ナワが切れた チャンス


おーいBちゃんこっちだ
ワーイヘリコプターに乗れるぞ
たすかったよきみたちは命の恩人だ
いやぼくはベトベト人だよ
ワシはアメリカ人だよ
たのむ安全を保障してチョウよ
わっ急にミサイル
うわっまた落ちるのか人気が落ちてるせいなのかなー
おーいたすけてくれーHELP
あっ人が泳いでおぼれてるぞ
フヒーこの潜水艦はどこへいく
ヨコスカだーよ
そりゃよこすかったたすかった
まったくひどい目にあったよ
どんな目に…
こんな目
あっ大きい目
こんどの旅行はたたり目だったさあ日本へ帰ろう
OHAYA MENI SOUGIYA
SAIGON
HANOI
JUNGLE WA KIKAN
SIN DA RA INO TI WA NA IDO!
END

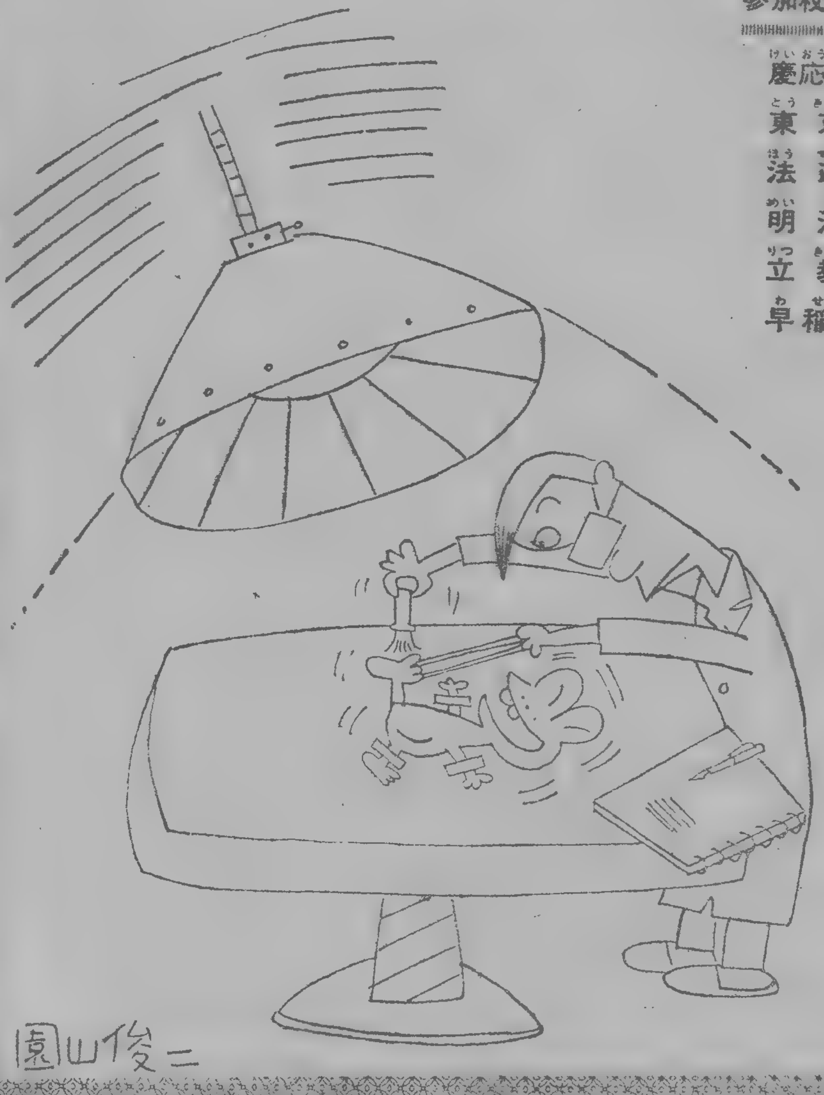
☆大学生もまんがを描く！　これは、東京六大学野球リーグ戦のむこうをはったまんが合戦。



特集2 東京六大学まんが合戦

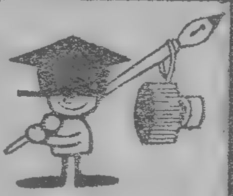
参加校

慶応義塾大学
東京大学
法政大学
明治大学
立教大学
早稲田大学



大学生のまんが研究
まず笑いの生理学的研究から
はじめるのだ

学漫の歴史と現状



学漫――全国学生漫画連盟が生まれて十二年。現在、参加校十二校、参加人員二百五十名になるまでのおいたちと、現在を紹介すると……。

学漫の歩み

昭和30年 敗戦の泥沼からはい上がり、日本人の心にもようやく平和がよみがえってきた。

雑誌の中のまんがも、ユーモアを忘れていた国民の中に広く浸透していった。学究の場である大学にも、まんがを描き、まんがを論ずる学生が登場してきた。

「明大漫画集団」（創立・29年、のち明大漫画研究会に改名）が、戦後最初に結成された大学のまんが研究グループである。

そして30年には、**「早大漫画研究会」**が作られた。

「なあ、おい、まんがだってりっぱな芸術だ。ひとつ、大学側にも存在価値を認めてもらって、大学漫画連盟を作ろうじゃないか」

明大四人と早大三人のささやかな**大学漫画連盟**の発足であった。

そして、「大学生がまんがを描く」というもの珍らしさも手伝って、『旬刊ラジオ東京』・『NHK新聞』・『時の窓』（旺文社）などで、ページを獲得した。

33年には**立大漫画研究会**（創立・31年）、**日大漫画研究会**（創立・31年）、**青山大漫画研究会**（創立・31年）、**学芸大漫画研究会**（創立・31年）、**国学院大漫画研究会**（創立・31年）のほか、**専大**、**学習院大**、**教育大**、**埼大**、**関大**、**愛知大**……と、連盟参加校も十四大学と多さを数えた。

作品発表の場は、前述のほか、東京の大丸、そごう、松屋の各デパートで開催した学生まんが展であった。

また、大学のサークル活動の域をはずれぬためにもと、保護児童施設や地方山間僻地の児童を対象に、まんが訪問の旅にもでた。

当時、『時の窓』で、「まんがリーグ戦」の審判をつとめていたのが小川哲夫であった。また、松下井知夫や島田啓三の家へ、徒党を組んで押しかけ、作品の批評を乞うたこともあった。

この連中の中で、現在プロまんが家として活動している人たちに、連盟創設者のひとり、**秋山賢一**、**園山俊二**、**飯塚よし照**（以上早大）**吉田豊**（学芸大）、**板井れんたろう**（日大）がいた。

彼らの最大の関心事は、

「大学にまできて、有利な就職をけとばし、あえて危険なまんが界へ飛びこむべきか……」

ということであった。事実、板井れんたろうや、しとうきねおは一時就職して、そのかたわら、まんがを描きつづけていた。

この七人は、秋山賢一を除けば、ほとんどが同期の桜である。そしてその二年後には、もう一度プロまんが家をこころざす大波がやってきた。

福地泡介、**東海林さだお**（早大）、**浅野りじ**（学芸大）、**中島利行**（日大）、一年後には、**中原幹生**（法大）などがその仲間である。

またこのころには、まんが論文がはやった。

斉藤トオル、**飯塚よし照**、**伊藤宗之**（早大）、**内山茂**（慶大）の四人は、すべてまんがをテーマにした卒業論文であった。

さて、こういった若者たちが、学窓を巣だっていったころ、OBの会の下準備が進められ、34年6月に、学漫OBの会「**新漫画会**」が発足した。

メンバーは、秋山賢一、十一（しとうきねお）園山俊二、斉藤トオル、飯塚よし照、伊藤宗之、吉田豊、浅野りじ、**鶴島良弘**、**脇田純**の十人があつまり、発会式の会場は、青山学院前のすし屋であった。

その後、多少のいれかえはあったが、現在でも親睦団体として存続している。

31年から40年のあいだは、淡々とした活動がつづいたが、その中で、38年10月に「慶大漫画クラブ」の会誌『わらえ』が発刊された。

一時、大学漫画連盟は消滅寸前に追いこまれたが、法大（創立・34年）などの加入で、ふたたび息を吹きかえした。名称も全国学生漫画連盟にかわり、高校生の

文・カット／飯塚よし照

加入も認められた。

そして、一時とだえていたプロまんが家への志願者も、ふたたび登場。41年には、学漫の復活期にはいった。

慶大の**ひさくにひこ**（41年卒）、週刊誌「バイタリー」などに作品を発表している**高瀬斉**（四年）などはその筆頭に上げられる。

改造された連盟の加入校は、慶大・法大・早大・立大・明大・国学院大・駒沢大・電通大・中大・学芸大・女子美大・同志社大の十二校。

そして、連盟の会誌まんが作品集「**がくまん67**」が、今秋に発刊される予定になっている。

ひさしくとだえていた学漫のまんが展もこの十月に開催される。

次に、東京六大学以外の大学別の漫画研究会の活動状況をを少し述べよう。

中大　会員二十二人。この夏、榛名湖に合宿。まんがの練習と討論会が中心。

駒大　週二回研究会を開いて、作品の合評。会誌「**ナンセンス**」（創刊40年）が年一回発行されている。

女子美大　会員二十六人。十月には会誌（年二回発行）を創刊する予定。

同志社大　会員十五人。40年10月創立。会誌「あくなむ」〇号（一号にあたる）を創刊した。

学漫が育てたプロまんが家

秋山貫一（早大31年卒）農協関係で発売される雑誌・パンフレットのまんがを一手に引きうけている。農業まんがを専門にする異色まんが家。まんが訪問も得意。

園山俊二（早大34年卒）スタートは児童もののギャグまんがだったが、「ギャートルズ」（漫画サンデー）の連載と同時に、おとなまんがの世界にも足をいれた。著書、「国境のふたり」ほか。

しとう　きねお（早大34年卒）横に細長い、絵巻物的まんがを得意とする。自費出版で意欲的な作品を発表し、文春漫画賞の候補にも上がった。著書「おお神さま」・「落城」。

斉藤トオル（早大34年卒）まんがよりも、イラストに特異な才能を持っている。似顔まんがが得意。

飯塚よし照（早大34年卒）学生時代より学習まんがを描きつづけている。得意はまんが訪問。著書「あこがれの大学漫歩」。



福地泡介（早大36年卒）おとなまんがの週刊誌を中心に活動中。ひょうひょうとして、とぼけた画風を持っている。

東海林さだお（早大36年卒）まんがに登場する人物は、まさに彼自身である。連載まんがの主人公も、「**ショージ君**」（漫画サンデー）である。

吉田豊（学芸大33年卒）「毎日小中学生新聞」からスタート。学芸大出身というだけあって、彼のまんがは健全で、画風もおだやか。

浅野りじ（学芸大35年卒）児童雑誌を中心に仕事をしている。科学に強く、構成力は抜群で絵も達者。動物がうまい。

板井れんたろう（日大34年卒）学生時代より少年もののギャグまんがを描いている。絵といい、構成力といい、すでに完成されたまとまりを持っている。熱血まんがに新境地を開きつつある。

中島利行（日大36年卒）少女まんがでは、すでに一家をなしている。やさしい人物で、作品にもその人間性がでている。

中原幹生（法大37年卒）一風変わったナンセンスまんがを描く。『メンズクラブ』などでは、しゃれた味のイラストを発表している。著書・「中原幹生漫画集」。

白石邦年（早大39年卒）東映動画にいたが、独立して、百人町スタジオを作る。動画のプロデューサー。

以上が、**フリーで活動しているメンバー**だが、そのほかにも、**プロとしてじゅうぶん**通用しうる人物がかなりいた。宣弘社で「月光仮面」の助監督をやっていた**川越武司**（早大）はタイで広告会社経営。東映動画には**富永つとむ**（日大）と**坂東亮一**（早大）がいる。愛知大の**加々美博**は、日本漫画家協会の会員。早大の**福田武**（広告会社）と**伊東宗之**（博報堂）は、ともにテレビのCMでその才能を発揮しているが、ぜひプロまんが家になってもらいたい人物だった。さらに、講談社勤務の**田中忠公**（早大）も、プロでじゅうぶん通用しうる力をそなえていた。

その他、**関野隆司**（明大）、**勝間田浩**（明大）、**深堀哲男**（日大）、**小泊重生**（立大）、**脇田純**（青山大）、**内山しげ児**（慶大）などの諸氏も学漫の中心的人物であった。



試験勉強

ますだ ひろし（4年）



のろし

遠藤 晋（4年）



漂着

ほしの あきら（2年）



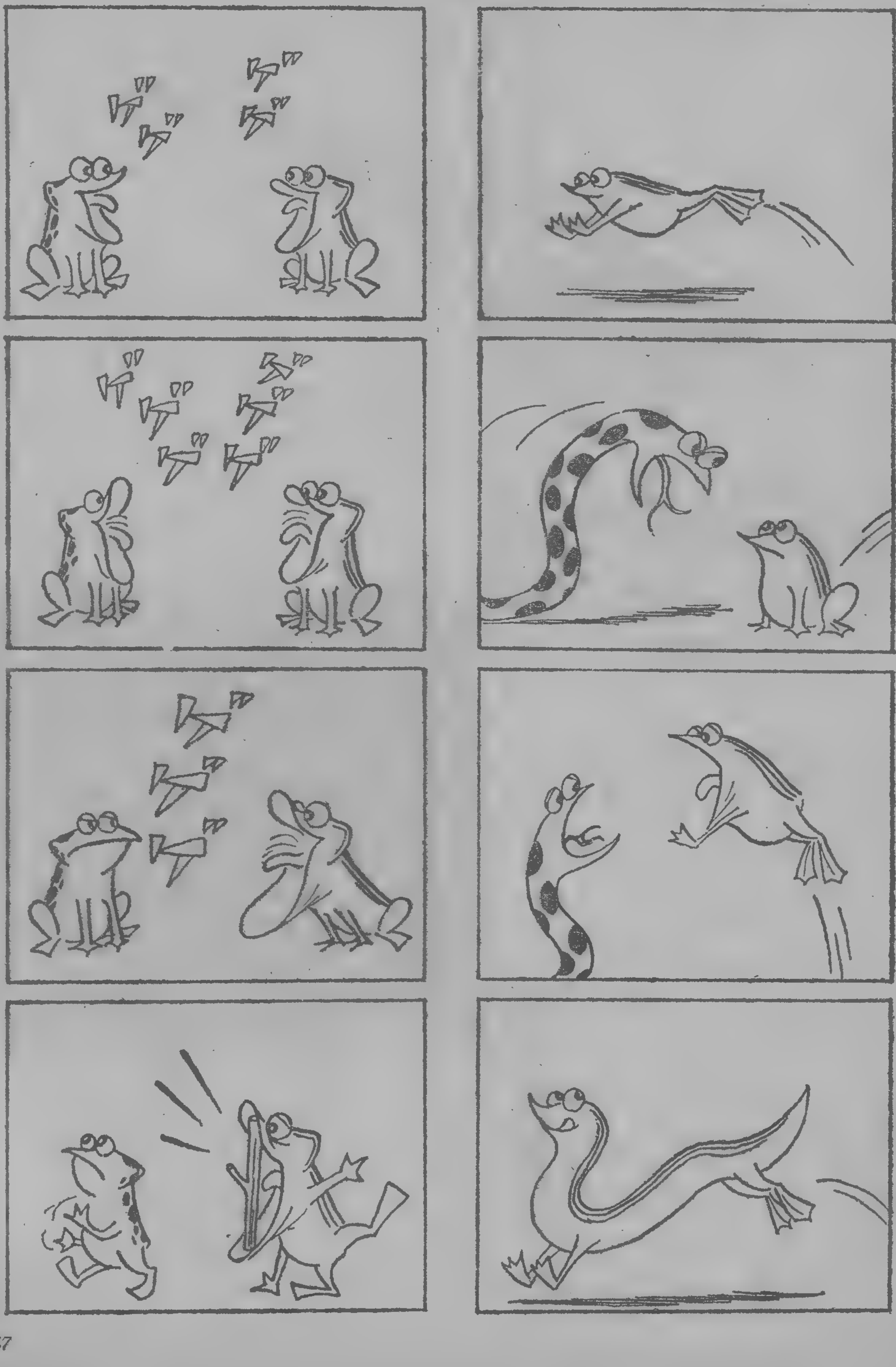
深夜帰宅

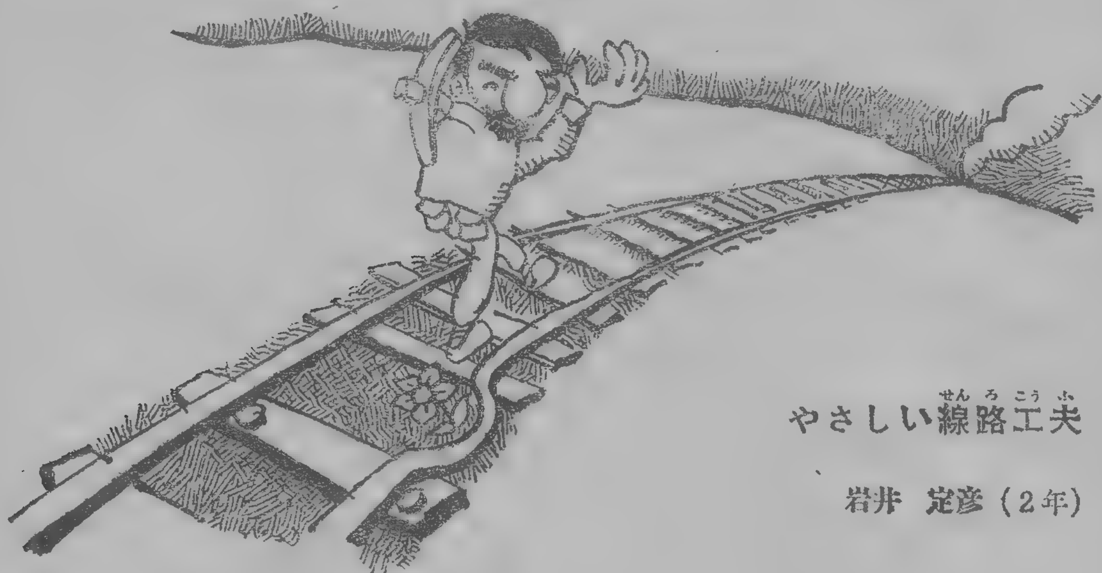
森口 哲秀（1年）

かえる

塩田　重勝（１年）

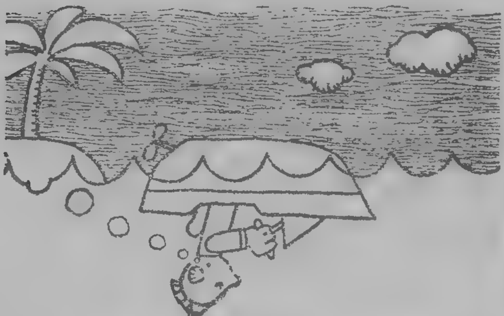
慶応義塾大学漫画クラブ＝むりやり笑ってもらおうと、題名「わらえ」とつけた会誌か四号（年一回発行）まで刊行されている。クラブの構成は、会長奥野信太郎（教授）・顧問井上洋介（まんが家）・草森紳一（評論家）と顔をそろえ、会員は奥田耕嗣（部長・三年）のほか四十人。





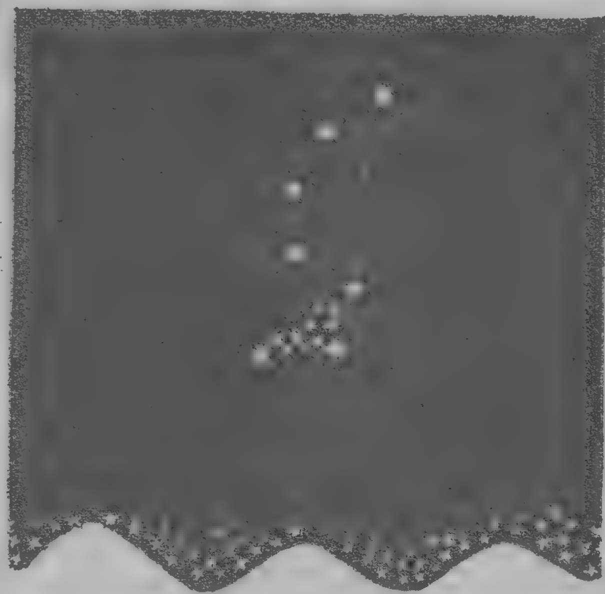
やさしい線路工夫(せんろこうふ)

岩井　定彦（2年）



水棲人(すいせいじん)　馬郡　貴司（2年）

無題(むだい)　馬郡　貴司（2年）

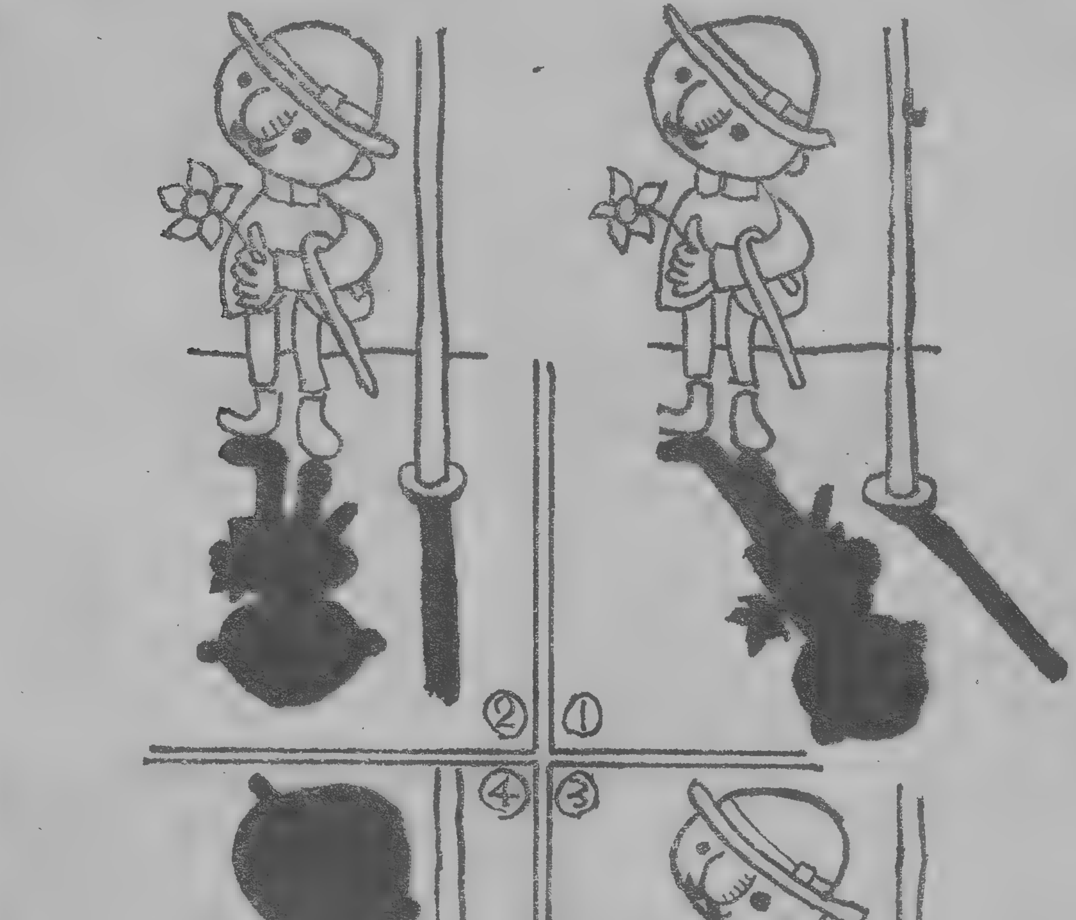




決闘(けっとう)　馬郡　貴司（2年）



東京大学漫画クラブ＝岩井定彦（二年）が中心になって、九月に創立されたばかり。まだ三人だがこれからの活動に期待しよう。「東京の空に、あかね雲が浮かばなくなったように、ぼくたちの心の中から、いつか消えていったものはないだろうか――」これは、岩井定彦の創立のことば。



デート　　岩井　定彦（2年）



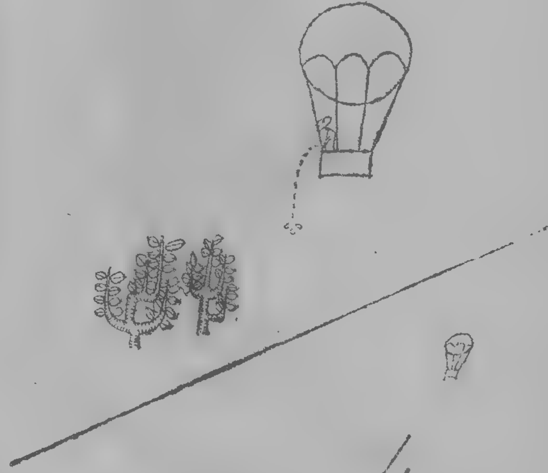
行水　森口 恵子（3年）



台風一過　馬場崎 茂雄（3年）



芸術の秋　添田 正義（2年）



無題　日沢 政治（1年）

法政大学漫画会＝会誌は、おとなまんがを中心とした「すうりいる」（創刊37年）が十号まで刊行されている。また、隔週に、校内で壁新聞式漫画展を開いて、好評を博している。会員は、高越良一（三年）幹事長のほか十七名。絵のうまさでは、学校の内外から注目されている。



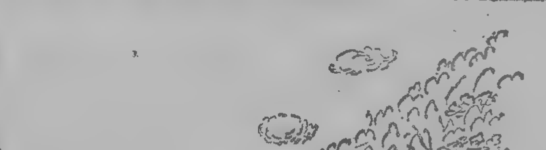
産業スパイ　石尾　朋子（4年）



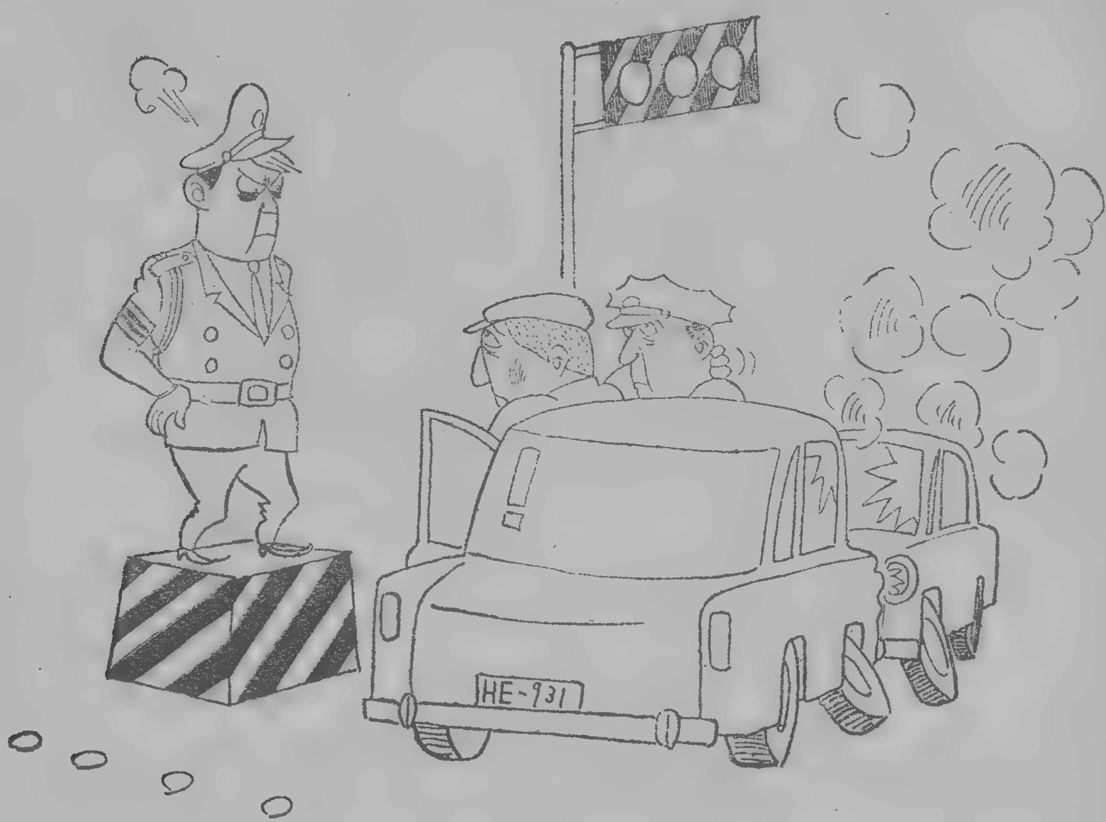
客員教授　高越　良平（3年）



傾聴　佐藤　道子（2年）



豊年　松本　みつを（3年）



「よりによって、おれの前で……」　　鈴木　茂（3年）



旅の終わり　　川口　開治（1年）

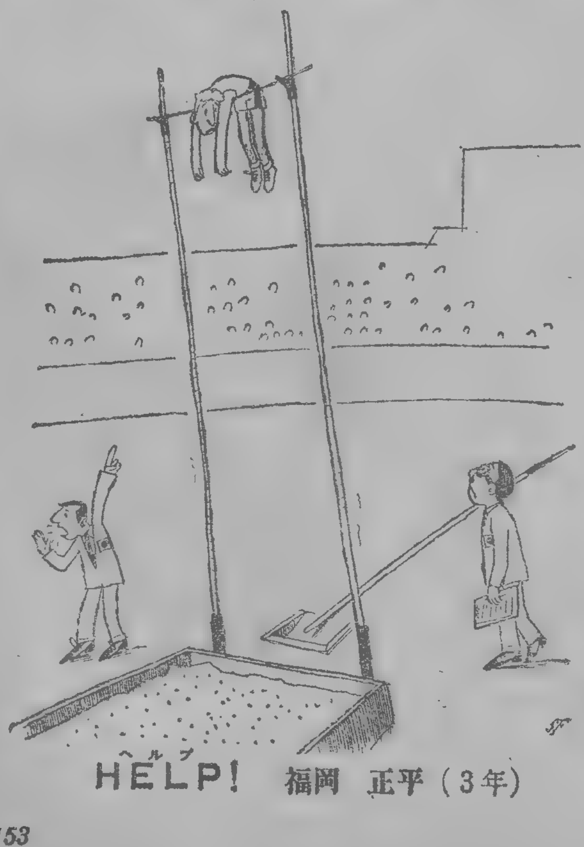
明治大学漫画研究会＝39年に、明大漫画集団が漫画研究会と落語研究会の二つにわかれた。漫研の会誌は「MORE」（創刊41年）で、現在二号を編集中。児童まんがのストーリーものが多く、立教とともに学漫の中で異彩を放っている。会員は、福岡正平会長（三年）以下三十三名。



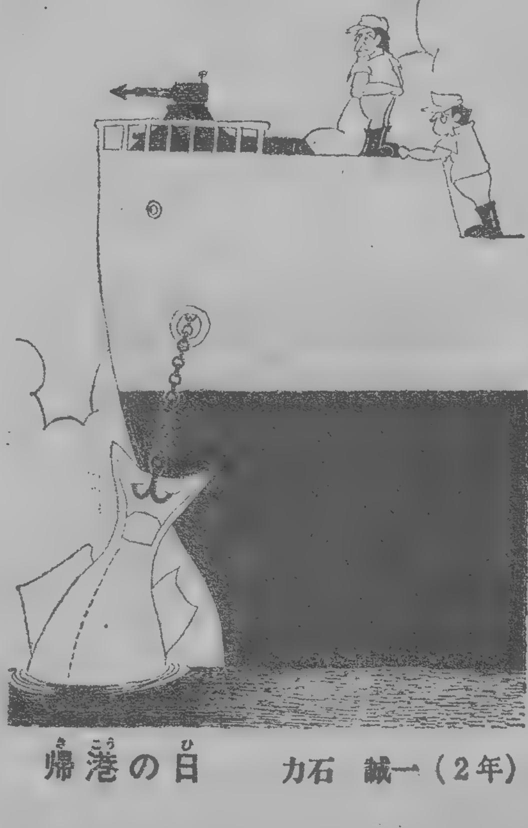
苦行　佐藤　敏勝（2年）



傑作　川口　開治（1年）



HELP!　福岡　正平（3年）

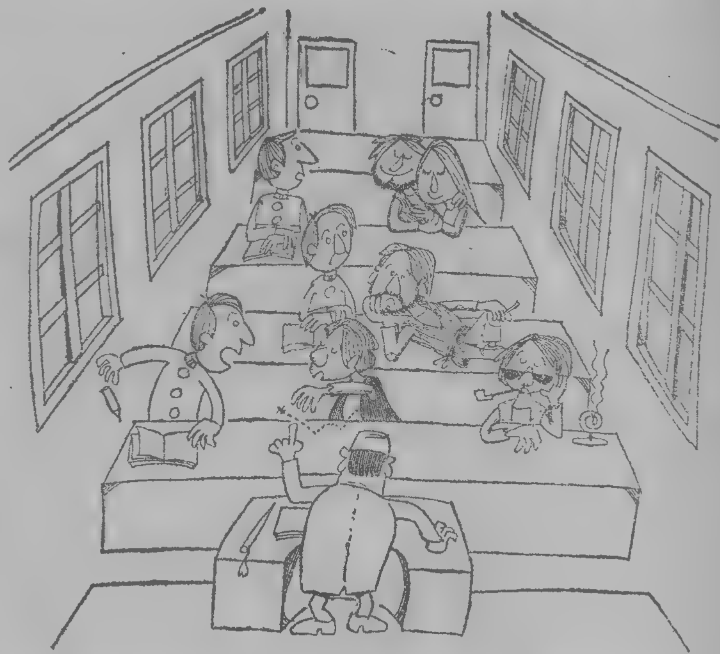


帰港の日　力石　誠一（2年）

今年度の卒業服

中根　利元（1年）

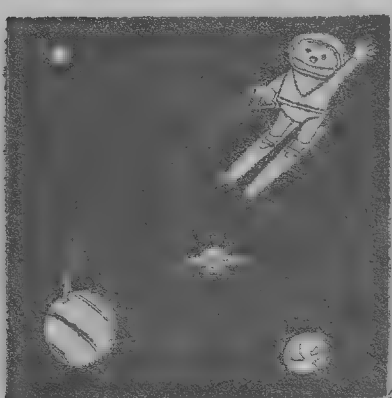




フーテン時代　　飯塚　コウ咲（2年）

日本を背負う人々　　森脇　耕治（1年）

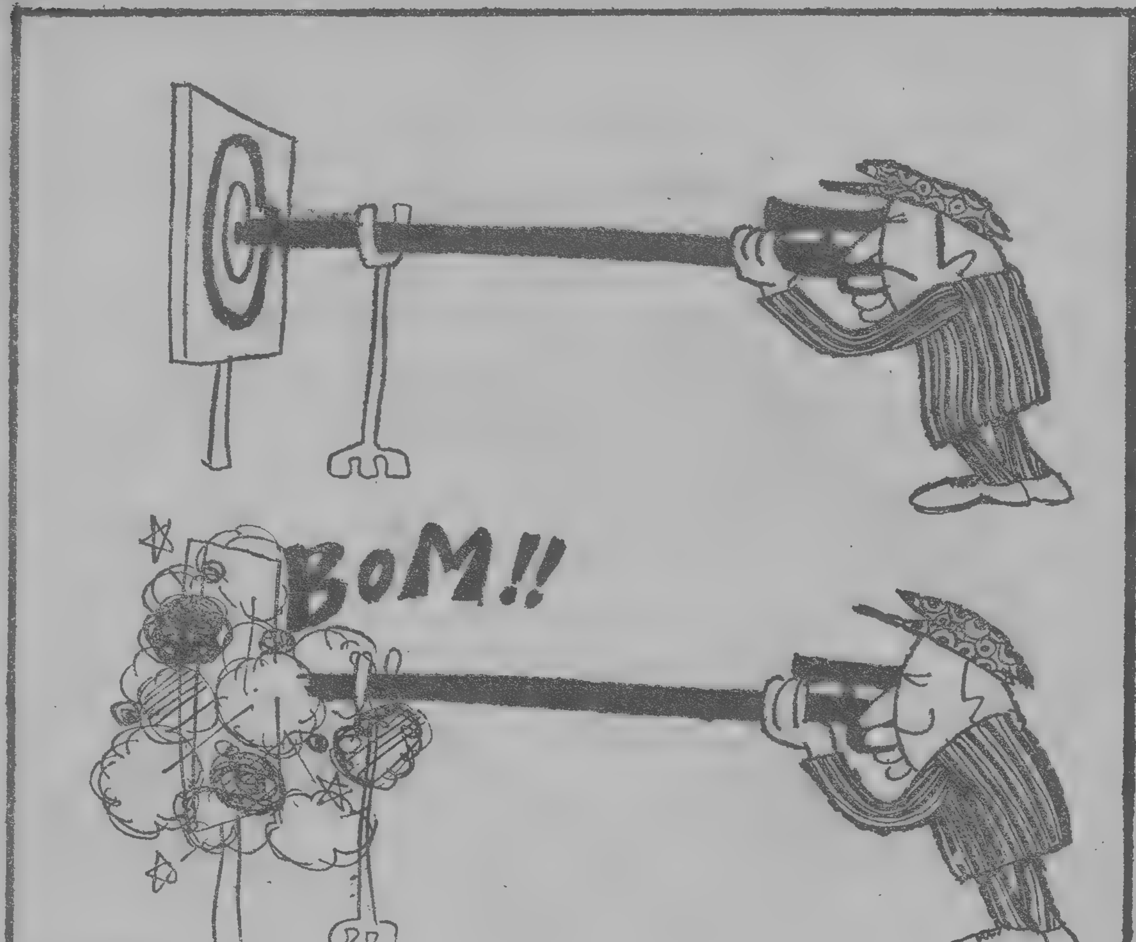




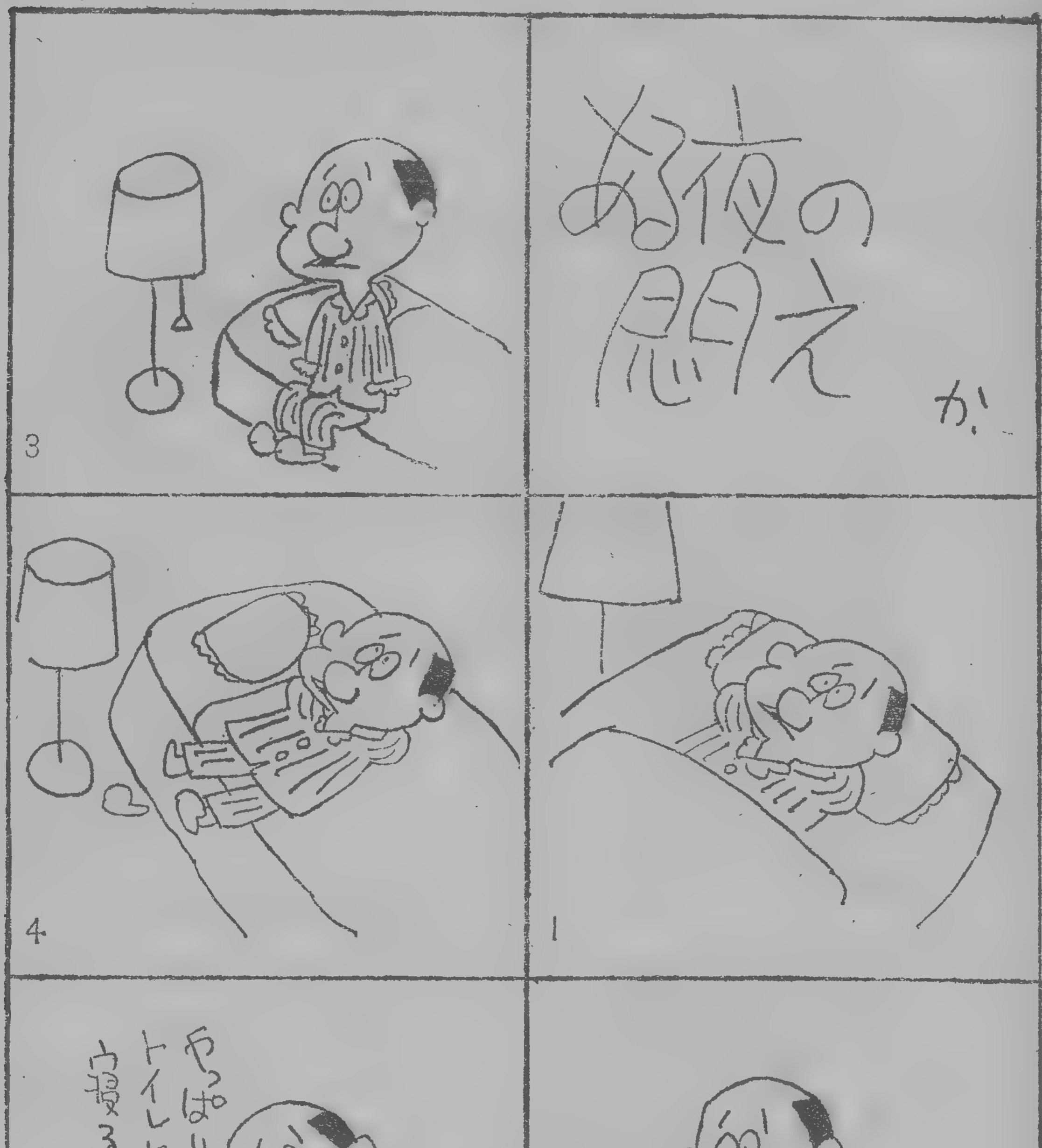
21世紀のレジャー

三浦　義治（1年）

立教大学漫画研究会＝児童まんが集「γフィールド」（創刊41年）が年一回刊行されている。今秋から、まんが評論の雑誌とまんが雑誌（月刊）を刊行し、作品は、児童・おとなものもあり、紙芝居の研究・制作にも力をいれている。会員は、飯塚こう咲（二年）のほか十二名。



運動神経0の男　　中根　利元（1年）



中野　和雄（3年）

早稲田大学漫画研究会＝会員四十三人（幹事長三木延義・四年）という大世帯。評論中心の会誌「早稲田漫」（創刊38年）は十号まででている。今秋には、作品集「あかさんかく」（60ページ）が発刊される。展覧会に、合宿にと活発に活動している。



裁かれる学生

三木　延義（3年）



「三尺さがって師の影をふまず」とか……

うえだ正明（1年）



フーテンをすすめるうた

まず　親をうらぎれ
つぎにきょうだいもあったら　うらぎれ
いまきみが　中学生だったら　勉強を投げだせ
高校生なら　学校をやめてしまえ
話はそれからなんだ
もしきみが
本を持っていたら　それをたたき売って旅にでよう
けっして働くな　勉強するな
努力なんかも　おさおさするな
そこで　きみは
自然が　すでにわれわれを
けっして　楽しませてくれるものでないことを　知るだろう
そとで　きみは
おのれが　自然の一部であることを　はじるだろう
そとで　きみは
いのることを知るだろう。
あそべ　あそべ　力のかぎりあそぶのだ
金を盗め　友情を盗め　女を盗め
元気のないやつは　ふんづけていけ
そして傷つけ　血を流せ
その血を　大地に吸わせることこそ
愛なのだ
ということを知ったとき
きみは　ひとりのフーテンに進化する
フーテンばんざい
なんにもするな　気にするな
あそべ　あそべ　ただあそべ
なまけずに……

永島　慎二

名作劇場

ハトよ天まで

第6回





手塚 治虫

ハト丸、タカ丸の育ての母で竜が淵の精、立田姫は、ハト丸が持っているくしの歯を折るとたちまち大蛇の姿からやさしい母親の姿に変わって現われます



前号までのあらすじ

久呂岳のふもとに、ハト丸とタカ丸というふたごの兄弟が住んでいました。

タカ丸は、村人を苦しめる久呂岳の主アビルを退治するため、武者修行にでかけました。

いっぽう、ハト丸は、アビルのライバル黒姫山のテング黒主に、ホウライ島にある子安貝があれば、アビルは退治できると教えられ、三百里もある道のりを旅にでました。

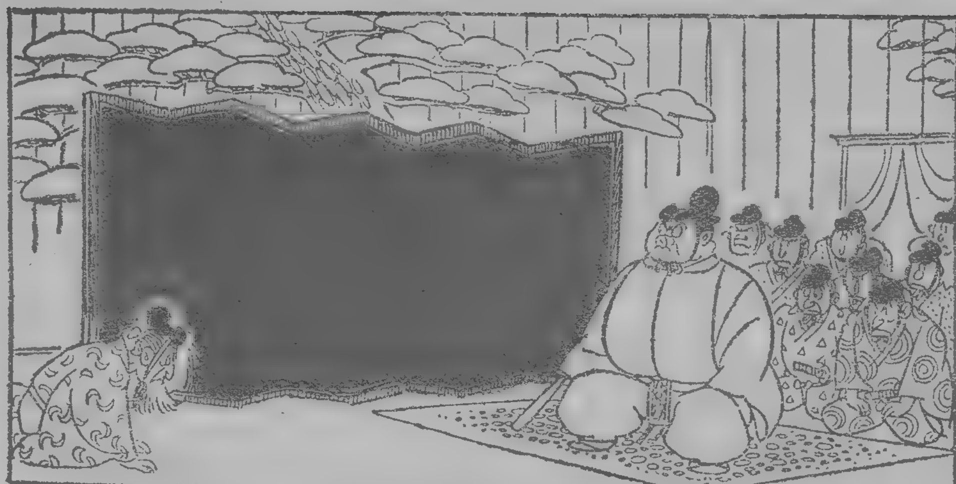
そして、恐ろしい山犬や怪人からのがれて、やっとの思いで子安貝を手にいれ、家路へと急ぎます。

また、タカ丸はおかしなさむらい佐々木大二郎と知り合い、京の都へ着きました。そこでふたりは、美しい星姫のいる屋敷で働くことになりました。

ここでは、一族の繁栄のために星姫の姉月姫が、星姫に権力のある北の殿と結婚させようとしますが、星姫は応じません。

ある日、北の殿がたずねてきました。だが、屋敷には星姫の姿が見あたりません。





大広間にブタのような鼻をした北の殿様が、家来をたくさんしたがえて、ふきげんそうにすわっています。

殿様の前にびょうぶが広げられ、老人が平伏しています。

そのびょうぶは、まっ黒でした。

「なんということを。これをまっ黒にぬったものは、だれなのじゃ」

「とんと見当がつきませぬので」

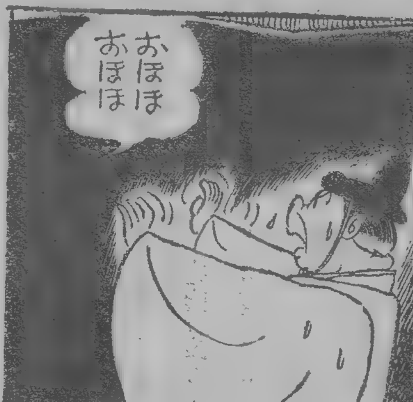
老人が、しどろもどろに答えました。

「なんとかならぬのか！ 星姫に会いにきたのに、これでは、話にならぬ。菊麻呂、このままでは、許さぬぞ」

「おほほほ」

と、黒いびょうぶの中から、星姫の笑い声がしました。

「おう星姫よ」北の殿様は、あわてて、びょうぶのほうへかけよりました。両手をびょうぶについたので、べっとりと墨がつきました。



「菊麻呂！ 星姫をひっぱりだせ」

「墨をのぞかねば、手をとることもできませぬ」

「ええい、墨を洗い流せ」

「びょうぶが破れてしまいます」

北の殿様は、かんしゃくを起こして鼻をぶうぶうならしました。





おい みろよ あのびょうぶ
うん ぼくが ぬったんだ
おまえが ぬったんだと？
じつは ゆうべ 星姫に たのまれて……
それは それとして
こりゃ おどろきだなあ！
星姫は あのびょうぶの中なんだって!!
でて こい
でてこんかっ!! ぶれいなっ
北のとののわしを なんとこころえとる うーん ひっかくぞっ
ガリ
とののおはなに スミが…
うるさいっ
おこってわるかった
きげんをなおして でてきてくれや 晴れ着もあるぞ
な、ほれ こんなに婚礼の金も もってきた わしの誠意 くんでおくれ
ふーん こいつは おもしろくなってきたぞ



「もうかんべんならん！」

ブタの鼻の、いや、北の殿様は、すっかりはらをたててしまって、

「よいか。一日だけゆうよをやる。必ず、星姫をわしの屋敷へつれてこい！　もしできなければ、お上の威光で菊麻呂、そちの屋敷を焼き、そちを島へ流し二どと絵を、描けなくしてやるぞ！」と激しくいいすてて、こしに乗って帰ってしまいました。



× × ×

菊麻呂は、ふしぎな絵師でありました。若いころから、菊麻呂の描く絵には、命がやどっているようなみずみずしさがありました。



だれもが「菊麻呂の絵は、まるで動きだしそうだ」とほめました。

そして、十年前、それがほんとうになったのです。

あるご殿のふすまの絵をたのまれて、鹿の群れの絵を描いているとき、とつぜん、一ぴきの絵の鹿が、ぴょーんと絵から飛びだしたのです。都は大さわぎになりました。いまでいうなら菊麻呂は一躍スターでした。みんな、ほめはやし、うらやみ、いろいろなうわさをしあいました。ところが……。



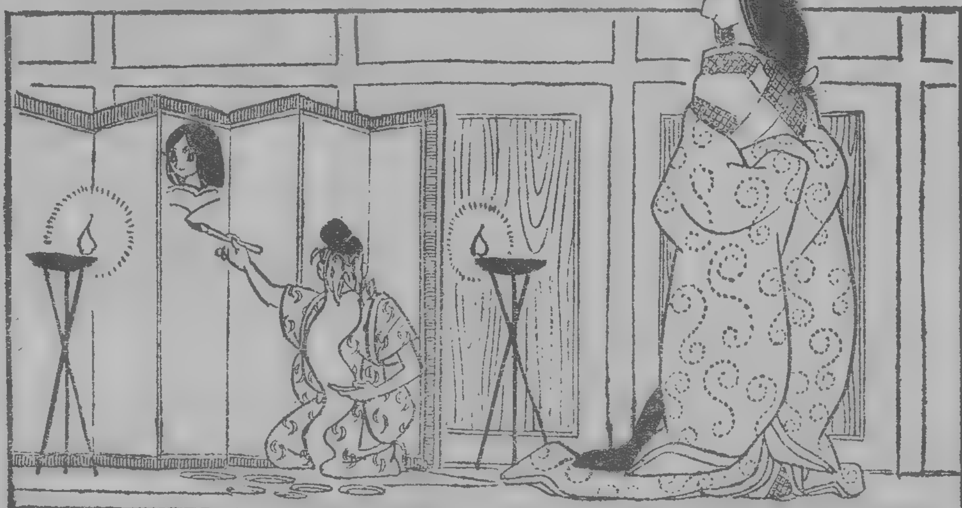
菊麻呂はこのふしぎなできごとが自分に与えられた仏さまのおぼしめしだと思いました。

そして、この力を世の中の困っている人たちのためにぜひ役にたてたいと決心したのです。

ところが、菊麻呂のところへたずねてくるお客は、みんなお役人や、殿様や金持ちばかりでした。

「金銀さんごの宝ものをどっさり描いてくれ」だとか、

「打ちでの小ヅチを描いてくれ金のなる木でもよい。ロールスロイスでもよい」などという絵の注文ばかり。菊麻呂はばかばかしくてみんなことわりました。菊麻呂は欲も野心もない老人でした。しかし菊麻呂の娘の月姫は父親とまるで違い、ぜいたくで、偉くなりたがっていました。



「わたし美しいでしょ。わたしをモデルにしてびょうぶに描いてみたら。ねうちがでるわ」ある夜、菊麻呂は娘の姿をびょうぶに写生しました。

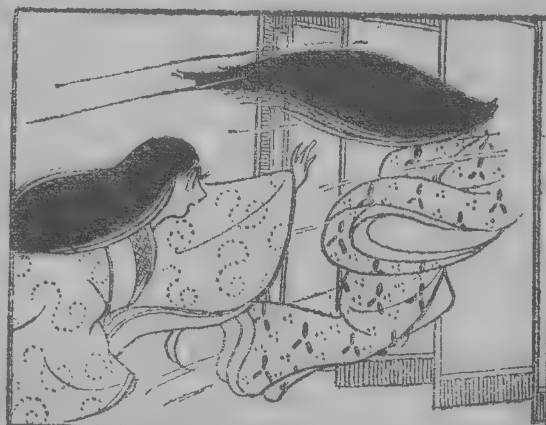
すると、びょうぶの娘が、すっとぬけだして「おとうさま」と菊麻呂に呼びかけたのです。



菊麻呂は、びっくりしました。絵から抜けだしてきた月姫は、ほんものの月姫より、もっと美しく、もっと愛らしく、そして、ほんとにやさしい心の持ち主なのでした。

——もともと、絵は清らかなものだ。わしの娘の心を、どんなに絵にうつしだそうとしても、絵は、けがれのないものしか生まれないのだろう。



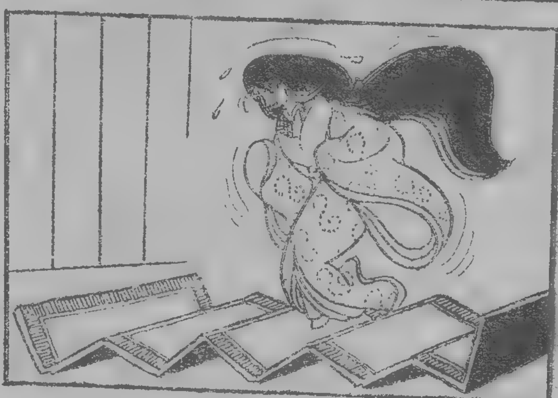


菊麻呂は、そう思いました。月姫とそっくりでありながら、まるで違うこの娘に、菊麻呂は星姫と名をつけて、月姫の妹にしました。

月姫と星姫は、気があいません。

ことに月姫は、ことごとに星姫をにくみ、そねみました。鏡のように、氷のようにむじゃきで、清らかな星姫をいつも、いじめようとしました。

そのたびに、星姫は、絵の中へ逃げこむのです。月姫はくやしくて、星姫のびょうぶを、ふんだり、けったりすることもありました。





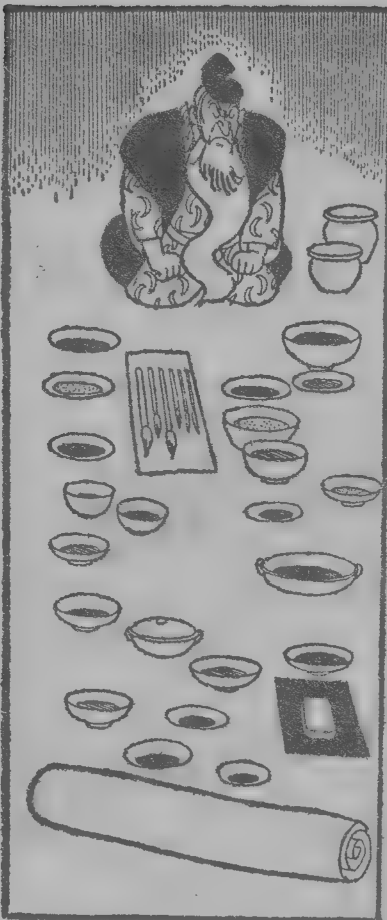
ある日、北の殿様が、このびょうぶを見つけて、星姫をぜひ自分の奥方にしたいと申しこみました。月姫は、しめたと思いました。

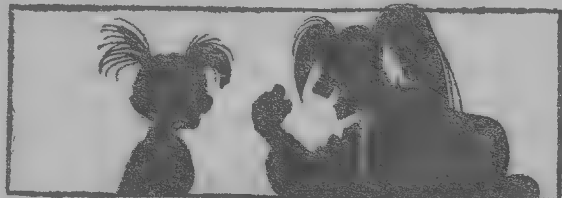
月姫と、その家来たちは、うまく北の殿様にとりなして、星姫をお嫁にやってしまおうとたくらみました。

日がたつにつれ、北の殿様は、星姫に婚礼の約束をせまるようになりました。

菊麻呂は、相手が相手だけに、ひどく悩みました。

星姫のびょうぶを北の殿様にとられることは、とてもいやでしたが、ことわると、どんなめにあうかわかりません。









そうだ…ぼくにはくにがまってたんだっけ…
おとうとのハト丸も
久呂岳のアビルも
村の人たちも ぼくはぜったいにわすれたことがない
ぼくさええらくなってくにへかえればいいんだ
あなたはいいかたね あたしをたすけてくださる?
ふん 星姫なんかどうだってんだ!
大三郎 ぼくは月姫がわにつくよ
わりきったか
「やっと、ときふせました。タカ丸は、星姫の信用がありますから、うまくだませると思います」
「ごくろう。これで、わたしの味方が、またふえることになるわね。おほほほほ……」
それでこそ現代っ子だ


あしたまでに北のとのさまへごへんじをしなければおとうさまにごめいわくがかかります
でも 星姫さまのおきもちにそむいてまでおこしいれをなさいますなんて
わたしによいかんがえがござる
星姫さまそっくりの絵を蒟麻呂さまにもういちどかいていただき
その絵からぬけだしたおかたに北のとのにおこしいれをねがうのでござる
そんなひどいこと… そのかたがおかわいそうですわ
あたしは北のとののところへまいります
えーっ
ただしこちらのほしいものを手にいれてくださるなら…
竜のうろこがほしいのです…
北のとのはみやこ一の実力のあるおかたもし竜のうろこが手にはいらなければ
あのかたの威信にきずがつきます
ですからあたしをあきらめられるでしょう



月姫さま
どうでした星姫のようすは
たいへんなニュースをつかみました
じつは星姫さまは北のとのさまにむり なんだいをふっかけて
北のとのさまにはじめからあきらめさせようというおつもりです
そのむりなんだいというのは？
はい竜のうろこがほしいというごちゅうもんです
竜のうろこ？
竜のうろことは
なんもんじゃ いくら 北のとののちからでも 手にいれることはできそうにない
月姫さま おまかせください！竜のうろこはきっと手にいれます！

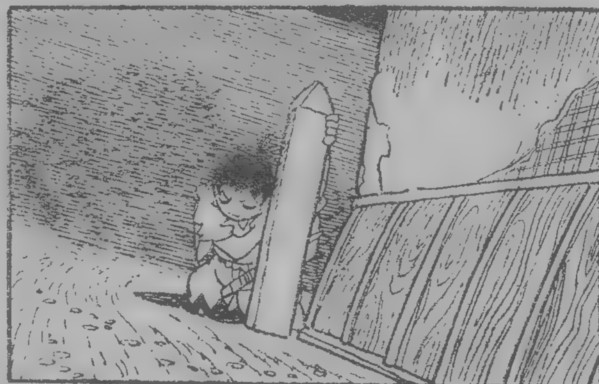


というわけだ
タカ丸 おまえ竜をよべるんだろう 月姫のために竜のうろこをとってくれよ
いやなこった!!
月姫にみかたするとはいったがそんなことまではひきうけないぞ
な タカ丸 このしごとには立身出世がかかっているんだぞ
ごめんこうむる
ぷい
だめだったか?
なあにまだ方法はあるさ
ハト丸 おれ はやく くにへ かえりたいよ
おまえにあいたいなあ…
うわっ!

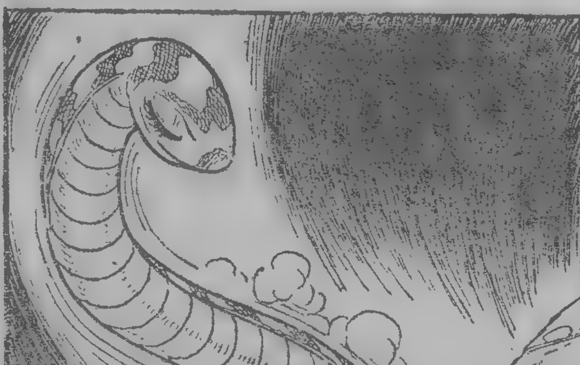

うん
えーっ!!
いまのふたりは
弓矢ももっていない
まだ ほかに
いるんだな
あの木に
夜タカが
とまろうと
して
にげてった
あの
木に
かくれ
てるな
やあーっ
うーん
だれに
たのまれたっ
なぜぼくを
おそったっ
さ…
佐佐木
……
なにっ
!

「大二郎だ……」
と、いったきり、くせものは、がくりと倒れてしまいました。
「大二郎だって？」
――あの、佐々木大二郎が？――
「そんな、ばかなことが！　大二郎が、なぜぼくを襲わせたんだ。





あいつとはずいぶんけんかもしたけれど、あいつは、ぼくを殺すのに、こんなひきょうなまねは、しないはずなのに……」
タカ丸は、傷の痛みに、まっさおになりながら、思案にくれました。
「とにかく、屋敷へ帰って、大二郎に問いただそう！」
しかし、痛みは、ますますひどく、三十メートルも歩かないうちに、タカ丸は、がっくりひざをつきました。
「お……おかあさん……」
おなじとき、村では、ハト丸とそっくりおなじところをおさえて、ころげまわっていました。
「にいさんに、またなにかあったな。こんどはひどい傷らしいぞ！」ハト丸はくしを折って叫びました。
「かあさん……、早く、にいさんのところへいって！」





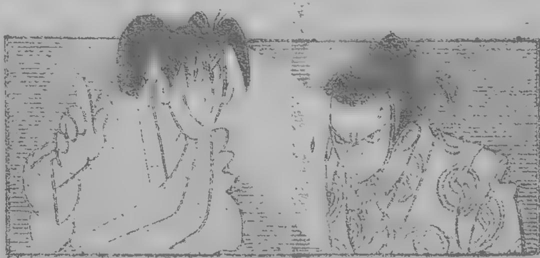
「……というわけで、へびの化身のタカ丸のおふくろは、わが子の身を案じて、とるものもとりあえず都へかけつけるというすじがきだ」

屋敷の中では、佐々木大二郎が、土佐衛門に得意そうに話しています。

「――やつの母親が、へびとは知らなかった……」

土佐衛門は、汗をぬぐいました。

「はは、それも、これも、前にタカ丸から聞いた話さ。星姫が、竜のうろこをほしがってる……と聞いたとき、ピンと思いついたんだ。タカ丸のおふくろの、へびのうろこでまにあわせたって、だいじょうぶだろうってな……」



「しかし、その母親を呼ぶために、わざと、タカ丸を襲わせて大けがをさせるなんて、おまえも、たいした悪者だな！」

土佐衛門は、ため息をつきます。



「なに、うろこをとるためにゃあ、しかたがないだろう。それに、どうせあのおふくろのこった。神通力があるから、タカ丸の傷口を、すぐ直してしまうだろうよ。なめるとか、どうとかして、な……」




おっ タカ丸が かえって きたぞ
きずぐちが なおってるぞ
やっぱり ははおやが なおしたんだ
なにか ふべんな ことはない? ほしいものは ない?
お正月に おかねがいるんでしょ?
いりません
おまえは よくがないのねえ なんでもしてあげるのに
ばかだなあいつ ボーナスを百万円 ほどくれとでも いえば いいものを
そんなら かあさんの おねがいが あるんだけど うろこくれない?
なんですって?
かあさんの うろこなの
なぜ そんなもの ほしがるんです
やっぱり だめでしょうね
あげますよ あげますけど いったい なんにつかう気なの
竜のっ なんか どうでもいい うまいぞっ

ハトよ天まで



タカ丸は、ほんとうは、そんなことはしたくなかったのですが……。
これはおかあさんのうろこ？
ええそうよ
タカ丸や おまえの目は ひどく かなしそうね
な なんでもありゃしません
いいえ かあさんにはわかります 女のこのトラブルでしょ
そんなかんたんなことじゃない！かあさんにぼくのきもちわかるもんか！
わかります
おまえはみやこへ出てノイローゼになっているのよ
お正月ぐらいいなかへおかえり
いやですっ！


そう…
でも おまえの まわりの人間は みんな わるそうな 人ばかり
たとえば この ふすまの むこうの 男！
きみたち のぞき見 してたんか!?
おお 竜の うろこだな ちょっと みせろ
きみと いう やつは っ
なんと いう…
まあ まてよ
いまに おれに おれいを いう ように なる
いう もんかっ

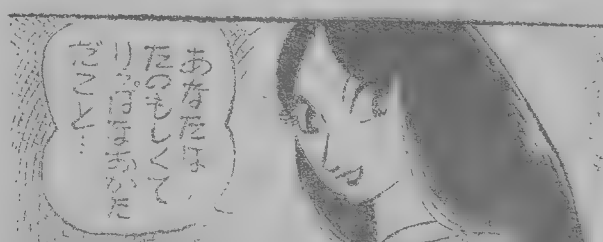


さすがに、タカ丸はがまんができなくなって、
「大二郎、おまえとは絶交だ！いや、これからは敵同志だ。決闘するから、おもてへでろ！」
と、声をふるわせました。
「お待ちなさい」
うしろから月姫の声がしました。



「タカ丸殿、あなた、さむらい大将になりたくはないのですか？」
「えっ？」
「そのかなこをあたしにくだされば、わたしから北の殿に、あなたのことを申し上げます。北の殿は、ことのほかお喜びだろうから、きっとあなたを仕官させ、よい地位においてくださるでしょう。早速あたしお約束してもよろしいのよ」
タカ丸は、ぐ



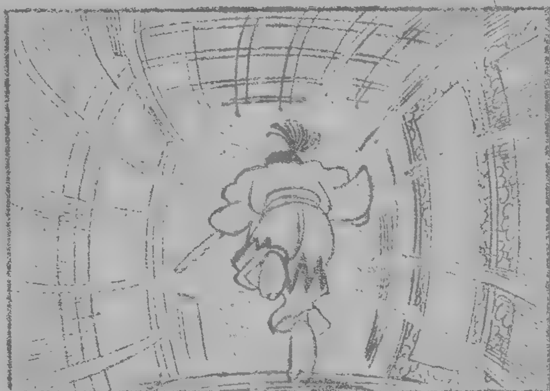




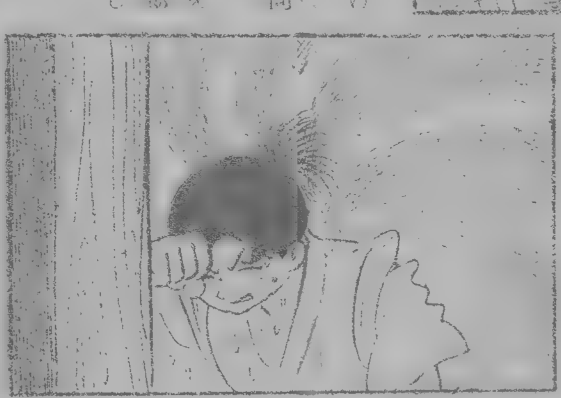
っと誓いました。
「さむらい大将！りっぱな武士になってくに、帰ると誓ったことだ、いま、かなえられようとしている。
タカ丸は、あるこぶしで、うろこをさしだしたのです。

月姫は早く、いか[illegible]とると、
「いずれ、あなたが北の殿へご紹介します。楽しみに待っていてください。ほほほ……」
と、笑って、すいと戸の影へはいっていってしまいました。
「ない、タカ丸……」

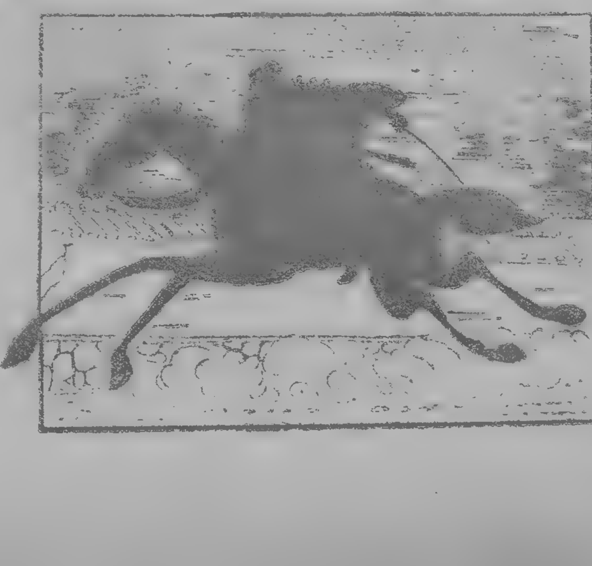




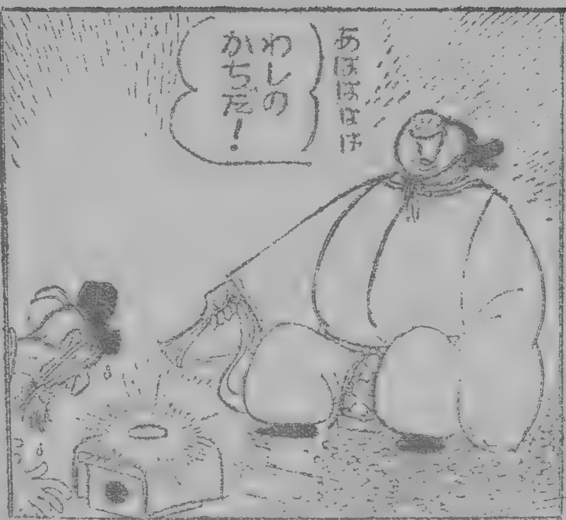
と、佐々木大、姫が呼びかけました。
タカ丸は、いきなり、奥へ向かって逃げだしました。
タカ丸は、頭をかかえ、顔をくしゃくしゃにさせながら、廊下をどたばたと走っていきました。
そして、柱に寄りかかって、



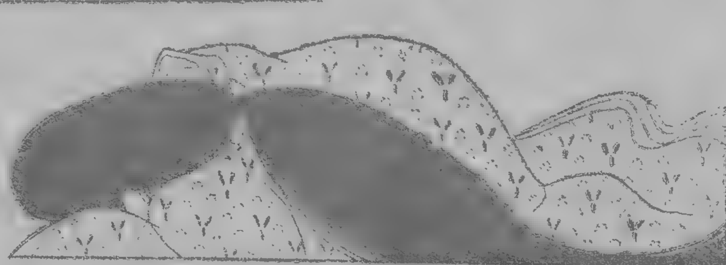
うめき、身もだえして、自分をのろいました。
「あんなに約束をした月姫をうらぎって、敵についてしまうなんて……それもぼくのおかあさんまで、だまして……ぼくは、なんてひきょうなおろかな、ろくでなしなんだ！ぼくみたいなやつは、いっそ死んじまうほうがいいんだ！」
タカ丸は、これほど自分を、みじめに思ったことはありませんでした。
その夜おそく、屋敷を一頭の馬が使者を乗せて、大いそぎででていくのが見えました。いく先は、北の殿のご殿でした。

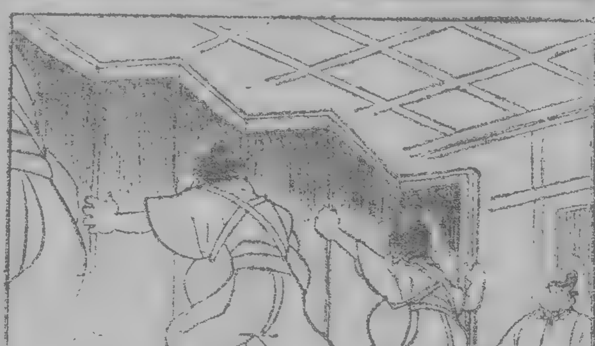



いよいよ
さいごの
へんじを
はっ
ただし
ほんとっ
オーケーなの
とってきて
わしを
こまらせよう
という手だな
は
ならず
わしは
なくても
手にいれる
ことができ
るぞ!!
あっ
ああっ



北の殿様は、かちほこったように、わははははと笑いました。
「どうじゃ、わしが勝った。約束どおり草姫をもらって帰るぞ」
「お約束でございます。どうぞお気にめしますように……」
剣獣右は、そう答えるよりほかありません。
草姫は、わっと泣きふしました。





「草姫は、どこへいった」
「このびょうぶの中へかくれたようでございます」
「よし、かまわぬ。そのびょうぶごとトランクの中へつみこめ！」
北の殿が命令しました。
意気ようようと引き上げていく北の殿の行列を、タ



カ丸は、じっと見送っていました。そこへ、北の殿の家来がやってきて、いいました。
「殿様が、あなたにお会いたいとのおおせでございますが……」





あの少年が竜のうろこを とのへ献上したんだと
いや たいしたもんだよ
出世はまちがいないぞ
うらやましいかぎりでござる
こちらもあやかりたいよ
タカ丸どのをおつれいたしました
これへ
どうぞごぜんへ
いや そちがタカ丸か ちこうよれっ
このたびはたすかったぞ まったくはじをかかずにすんだ
このほうびはぞんぶんにとらせたい
なにがよい?
それとものぞみでもあるのか?
あの…くらいがほしいんです
あは…役職がほしいか よしよし わしにつかえるのなら さむらい大将にしてやろう
ええっ ほんとですかっ
ああ だれかおるか タカ丸と佐佐木太二郎をサムライ大将にしてやれ
ええっ 佐佐木太二郎もっ!?


「佐々木大二郎!!」
「タカ丸、よになかんなみたいに
こわい顔をしておるのだ。大
二郎とすこし、さむらい大将
に専ずる。わしのもとで、し
っかり働いてくれよ」
ふたりは、おスミへさきをも
あって、にらみあいました。
大二郎っ！おまえはこのぼくを利用して……
べつだん利用なとしてやせんよ
ただおれはおまえのマネージャーだからほうしゅうをもらっただけだ
これだけの
いつ、マネージャーになった！
す、はははは
そうおこるな おたがいうまくいったのだからな
大二郎がさらにわらいとばそうとしたとき
なんだかキーンというような音がどこからかきこえてきました
なぜか大二郎はそれをさいごとビクッとなってとび上がったのです
こいつ！かんべんならんゆるさんぞっ

キーン……

音は、ますます大きく、身近になり、すぐ耳の前で、大きな鼓が羽音高く、飛んでいるように聞こえました。

おかしなことに、大二郎は、からだをふるわせ、油汗をじっとりにじませて、逃げ腰になっているのです。

ほんとにふしぎな大二郎の変わり方です。

そのうちに、キーンが遠くなっていき、

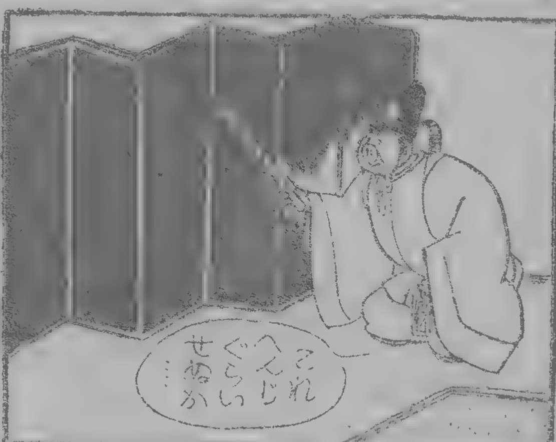


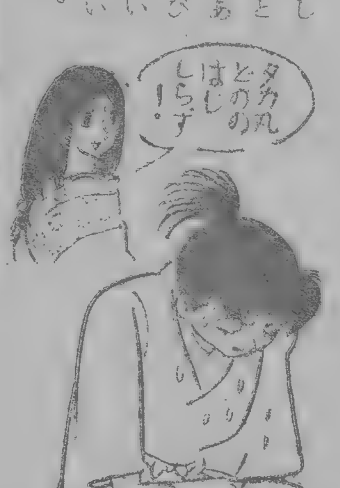


ぷっつりと聞こえなくなりました。大二郎ははーっとため息をつきました。

「いまの音はなんだ!」

タカ丸が、しゃべりかけたとき、ふすまがあいて、星姫のびょうぶをかついで、家来がはいってきました。

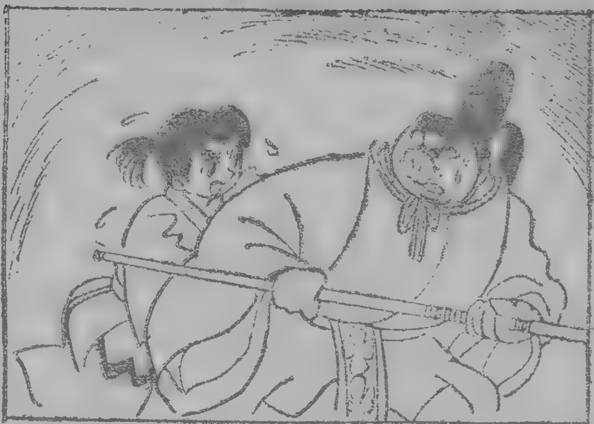




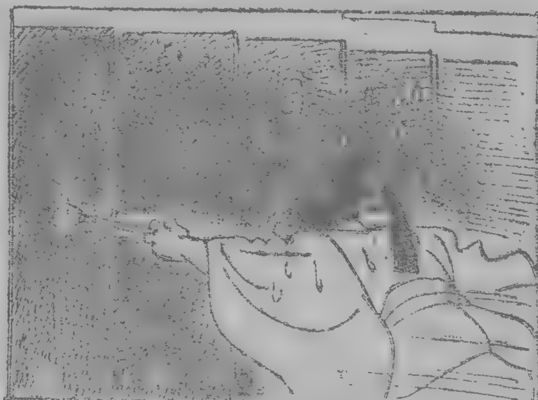
びょうぶを広げさせて北の殿様は、つかつかと近づき、「星姫殿よ、もうあきらめてでてきやれ」と、ねこなで声で、話しかけました。

タカ丸は、星姫をうらぎった自分がはずかしくて、まっ赤になって、うつむいてしまいました。


おとのさまの…
わたしはおのぞみどおりおそばへはまいりましたが外へでるとはもうしあげますせんでした
うぬぬぬなにを申すっ
いつまでもそんなにないてることもできまいさあ出よ
いやです
いやだと？たわけたことを申すなっ
わしをなんだとおもっとる。わしの威光にかけてもそちをびょうぶからひき出してやるぞ
びょうぶのうしろからひっぱたけ
水をあびせかけろっ
うんとくすぐってやろう
こちょこちょ
おのれっこの上はぜひもなしっ
出てこなければびょうぶはいもざしじゃ
とのっ



「殿様、それは、あんまり残酷です。おやめください！」
「はなせ、無礼者」
「いくらなんでも、びょうぶにやりを突きたてるなんて……」
「ええい、はなせというに」



「それ、いくぞっ」
ぶすり。
「星姫、けがをしたくなければ、でてまいれ！」
ぶすり。
「なぜ、返事をせん！　こしゃくな！」
ぶすり。



とうとう、びょうぶは、穴だらけ。
北の殿は、オオカミのように舌をだし、はあはあ息をついています。
星姫は、突きぬかれて、死んでしまったのでしょうか？

とつぜん、びょうぶのすみに黄色い煙がたちました。
あっというまに、めらめらと燃えだしました。火は、びょうぶ一面に燃えひろがって、まっ黒な煙がたちのぼったのです。



炎が、びょうぶから天井へ燃えうつり、へやじゅうが、まっ赤になりました。

その反対に、北の殿様の顔が、まっさおになりました。

どこからか、

「はほほほ……ほほほ……」

と、かすかに法師の笑い声がした

ように思いましたが、それも、炎の音に、消されてしまいました。

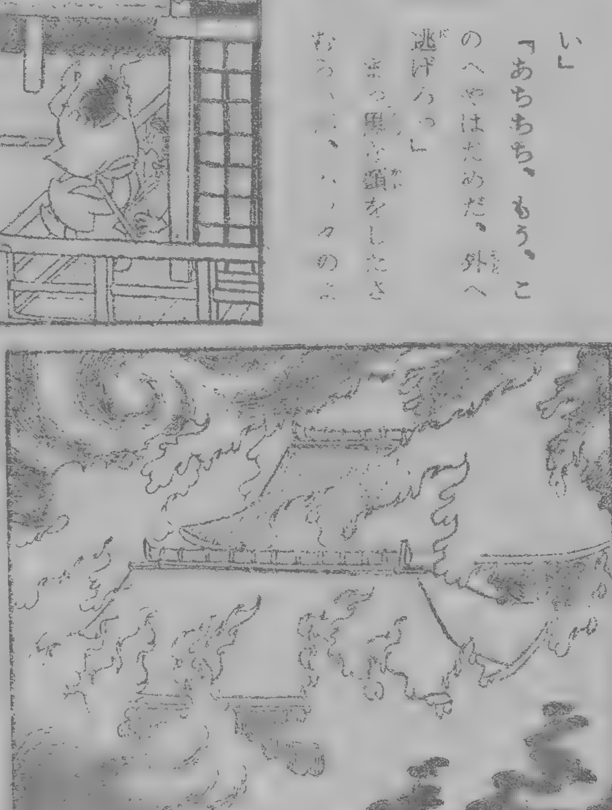
「助けてくれ！ 火事だ」

「水、水を持ってこい」

「あちち、もう、このへやはだめだ。外へ逃げろっ」

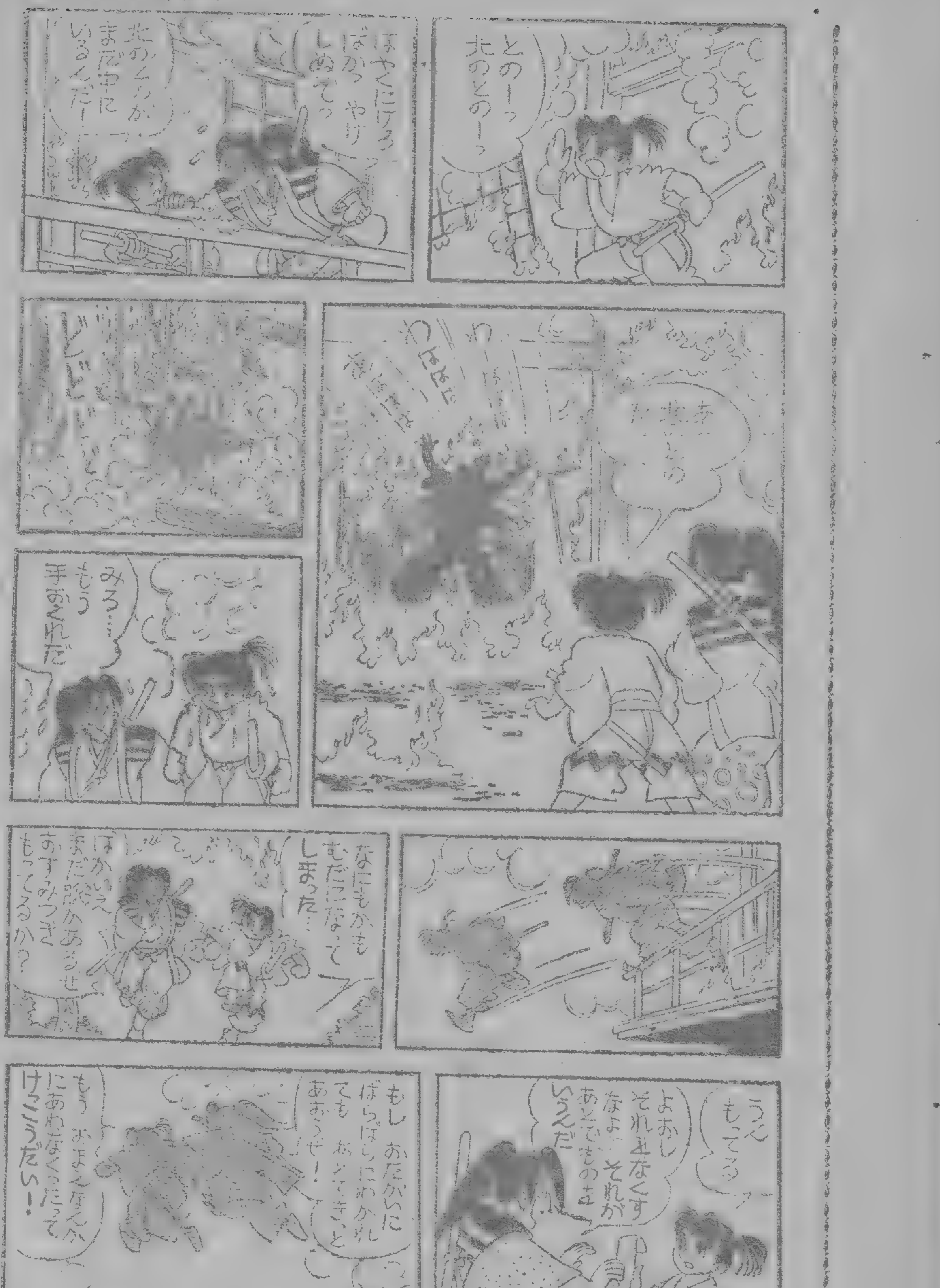
まっ黒な顔をしたさむらいが、バッタのよ





うに飛びだしたあと、ごうという音とともに火の粉と炎が、四方へ吹きだしました。

あっというまに、隣の建物へ燃えうつり、すぐその隣へ……。北の殿の屋敷は火の海になってしまったのです。


とのーっ 北のとのーっ
はやくにげろーっ ばかっやり しぬぞっ
北のとのが まだ中に いるんだ
みろ… もう 手おくれだ
なにもかも むだになって しまった…
ばかいえ まだ脈かあるぜ おすみつき もってるか？
うん もってる
よおし それをなくすなよ それが あとでものをいうんだ
もし おたがいに ばらばらにわかれても きっと あおうぜ！
もう おまえなんかに あわなくったって けっこうだい！

(つづく)

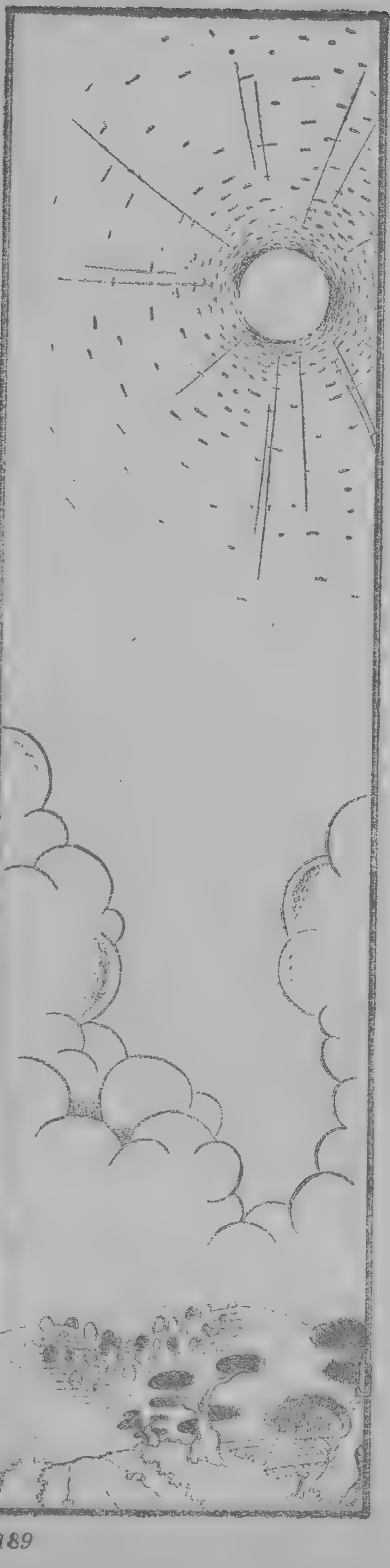
手塚治虫 作品リスト

No. 10

THE SYNOPSIS OF THE REPERTORY

昭和	OP（作品番号）	題名（内容）
31	150	**ディズニー・ランド（口絵）** 「五年の学習」
	151	**ぼくは忍術つかい** 「こども朝日」 三ちゃんは忍術の魅力にとりつかれる。おおえさんの計略で、三ちゃんがほんとうに忍術を使えるように信じこみ、けっきょく、忍術なんか使えるとバカをみると知らされるという内容の話。
	152	**嵐の前の物語** 「おもしろブック」ふろくの一部 争いをさけて、安全な場所へ動物たちを逃がしにいくと、そこで敵とバッタリ会う。すると、敵も動物をつれていた。
	153	**珍さるかに合戦の真相** 「おもしろブック」ふろくの一部 暗い問題をあつかったもので、指人形形式のまんが。
	154	**かりゅうどばちの話** 「三年の学習」ふろく 「ファーブルの昆虫記」の中から取材してまんが化したもの。
	155	**来るべき人類** 「おもしろブック」ふろく 何年よりかで宇宙から地球へもどってみると、地球は破壊され危険な放射能でおおわれていた。金星へもどろうという意見の者、地球復興をとなえる者、この機会に地球を征服しようと野心をいだく者たちのかっとうを描く。
	156	**くろい宇宙線** 「おもしろブック」ふろく 火星から引き揚げてきたトリアン博士の講演会のある日、町の中で急にひとりの男が死んだ。死因は「くろい放射能」によるものだった。それにつづいて、また人が殺されていく。なぞを解くために[illegible]少年や[illegible]が活躍。生命の研究者、宇宙博士によって事件の真相がわかった。犯人はトリアン博士だったのだ。
	157 a	**宇宙空港** 「おもしろブック」ふろく 土星人と地球人のアイノコ「宇宙トカゲ」は、地球の子どもをさらって、遠い星の国へ売っている奴隷商人。宇宙警察の警部さんたちによって、ついに、カゲが滅してしまう。宇宙ステーションが舞台のSFまんが。
	157 b	**オリオン137星** 「おもしろブック」ふろく 「宇宙空港」の続編。
32	158	**緑の猫** 「おもしろブック」ふろく その猫は、宇宙からきた生物でふしぎな力を持っていたから、普通のペットとはちがっている。また飼い主に必ず幸福がもたらされるというので、ギャングたちが利用しようとする。
		ムシャンが猫のなぞを追い、最後に、猫は宇宙[illegible]物のために、自滅するという内容のもの。
	159	**恐怖山脈** 「おもしろブック」ふろく へんぴな山奥には、まだまだ迷信があとをたたない。ある山奥に[illegible]、[illegible]地震を、[illegible]の少年が科学的に[illegible]ようと試みたのだが、[illegible]人、ことに占いの老婆はことごとく少年を妨害するの話。
	160	**双生児殺人事件** 「おもしろブック」ふろく シャムの双生児（からだが二つくっついている奇形児）を、むりに手術で切り離したため、かえって双生児のひとりひとりは独立できなくなり、ふたりは、手術した医者に復讐する。ライオン・ブックス中ただ一つのミステリーで、上田警部がふたたび登場する。
	161	**くるった国境** 「おもしろブック」ふろく レッドニア国の国境はつねに移動するので、隣国と[illegible]。日本の少年科学者に[illegible]要請する。原因は、レッド国全体が大きな氷山の上にあることがわかり、[illegible]の必要にせまられるが、隊長ロコスは[illegible]殺すことになった。「恐怖山脈」以下の三作は、大[illegible]という名の少年が活躍する三部作。

注 「ライオンブックス」は「おもしろブック」に、昭和31年から33年にかけてつけられた[illegible]ページ前後のふろく。「来るべき世界」から「荒野の[illegible]」までに[illegible]された。



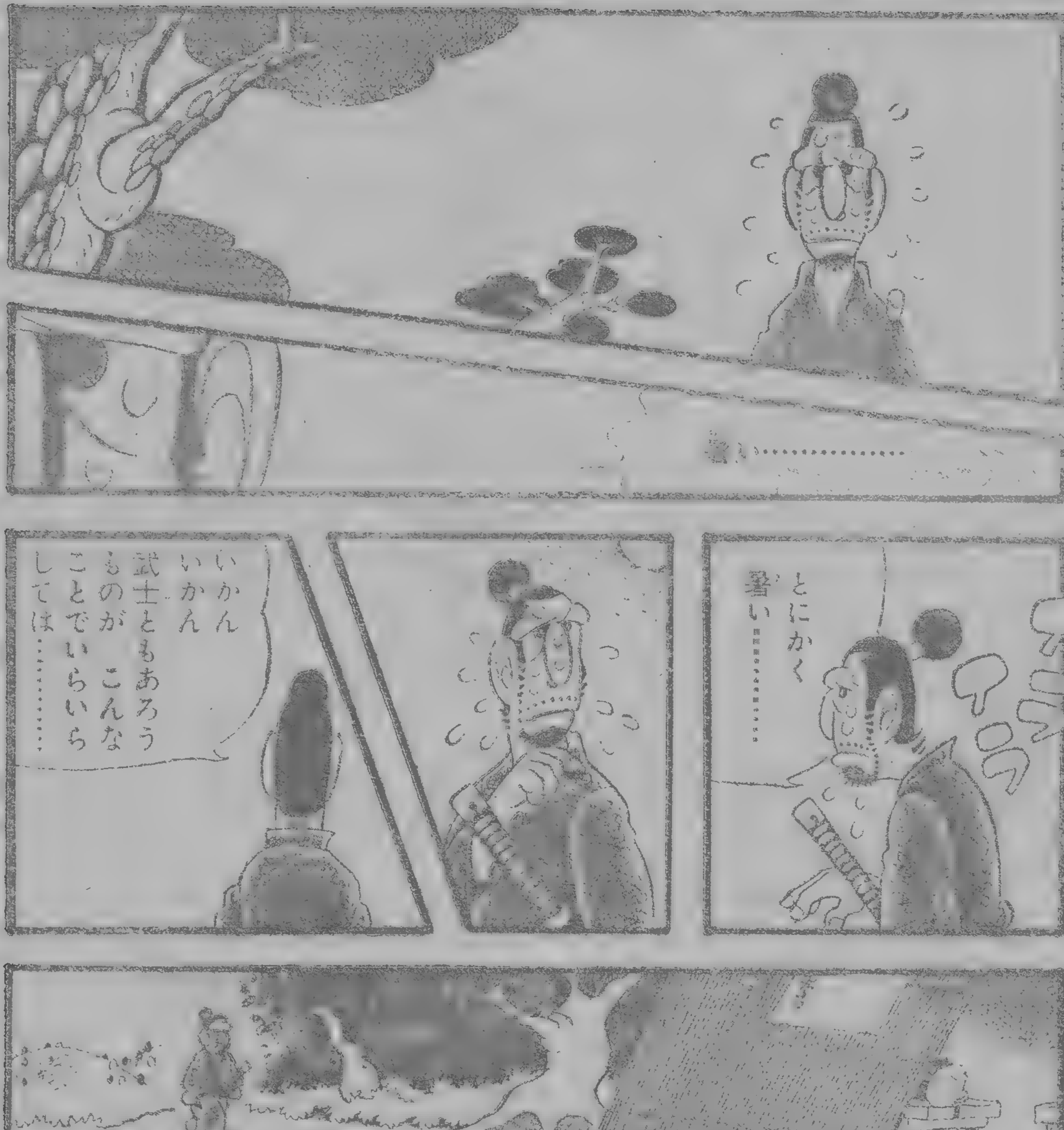
●第5回 月例新人入選作●

つめたい汗

暑い とにかく暑い
浪人は先刻からいらいらしていた……

作・構成／星野安司




暑い……………
とにかく暑い…………
いかん いかん 武士ともあろうものが こんなことでいらいらしては……
ひと休み するか
冷えた 西瓜 あります
スイカだ…… はやいとこたのむぞ

つめたい汗




ド
ド
ド
ジ
ジ
浪人はすこしジリジリしてきた……
またせるなあ……
うう
む……
ガッガッ

つめたい汁



ガツガツ
ペチャペチャ
ガツガツ
ペチャペチャ
おい！なにをぐずぐずしておるスイカはまだかっ！
へえ ただいまお持ちいたしますです
キャッ キャッ
おまちどうさまです……
ごくり
待ちに待ったその一瞬！



あ！
むう！
浪人の期待は　はかなくもわびしく消え去った
かんべんしてくんろ……
ぐすん
わざとだないもん！
むこうへいけ！このガキ！
ジリジリ
ぬ
気持ちよさそうにねる男の顔を見て　浪人はさらにいらいらした……
く
く
く


すずしいところをひとりじめしおって！起きろ！
こやつ強情な！おきんか おい
と はげしくゆすったのがまちがいのもとであった………
ボワ
ぷわあ！
プッ プッ
プッ
おおにょれえ！武士に対して！
くっ
くっ
ジリジリ


おきろおぉ！
お おれが いったい なにをしたんだ
きさま 武士にむかって 放屁して おきながら とぼけるつもりか！
わな わな
それやどうも さぞかしくさかったべえ なんせ おれの屁は 天下一品だで ………ヒヒヒヒ
プッ
うむ ふざけおって



うわあ 刀をぬいたぞ
あぶない にげろっ!
バラバラバラ
わあ きちがい侍だあ!
ガヤガヤ
どうした どうした
いったい どうしただ!
きちがい侍が あばれてるだヨ
茶屋の ばあさん だいじょうぶかえ!
こ こりゃ たいへん おらも いくべ!


…………
…………
…………
峠の茶屋で酒さにくるったお侍があばれてるぞ！
あやまれといっておるのにあやまらんかぁ
そんなこといったってだれだって屁こくべえ！
ぐっ
ぐっ
ぐっ
うわ！たたすけてくれえ
ウワ！


ひやあ
ひ……
ひで……や
え………!



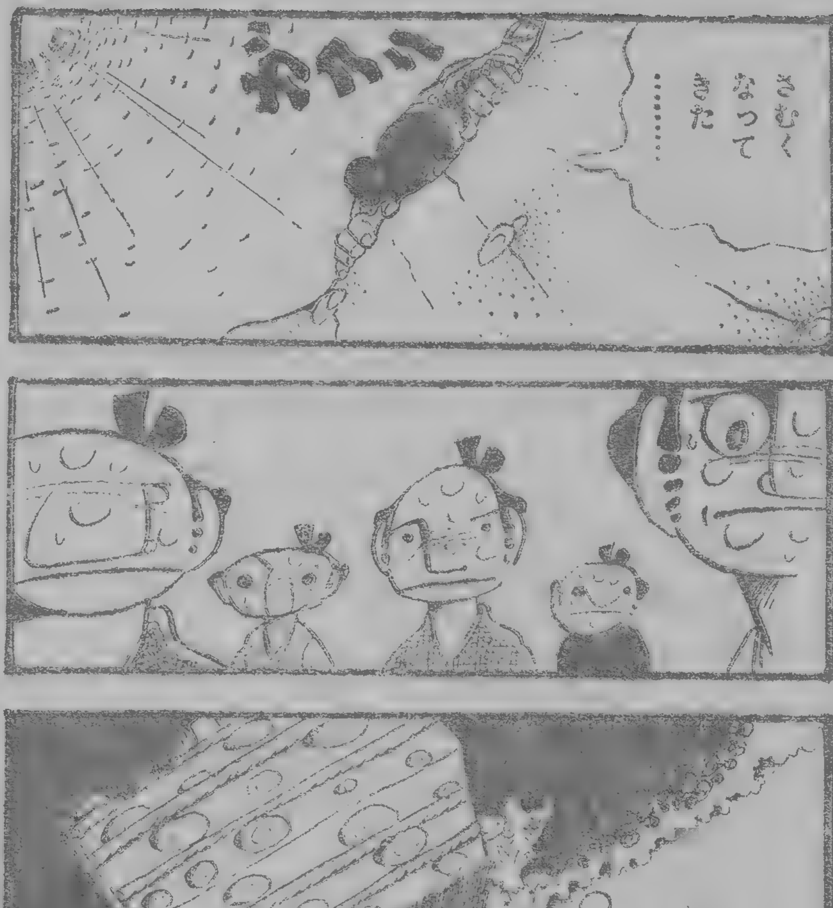
ばかめ！すなおにあやまればよいものを……
!!……
チャリ
うわっ！
コーン
このきちがい！
侍がなんだってんだ
ひと殺しぃぃ
ううむ！もうどいつもこいつもかんべんならん
たたた助けてくれえっ！
たたっきってやる！

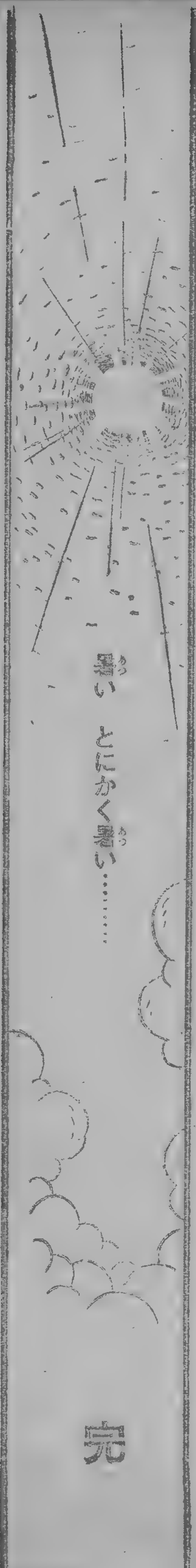

まて！
ジ
ジ
ジ
おぬし それでも 武士か！ 暑さでいらいらして人をきるとは
おなじ武士として きさまのようなやつはゆるせん！
…………
きるっ
……


どウ


ドサ!
ばかなやつ……
ばかにうす暗いな……でもやっとすずしくなってきた……
うう……
こ こんどはまっ暗になってきた……
や やっとすずしくなったと思ったら……
な なんだか……えらく……

★月例新人入選作「つめたい汗」のご意見、ご感想をお寄せください。
東京都豊島区南池袋一の二〇の一 虫プロ商事出版部 石井文男





第5回 月例新人入選作（COM新人賞候補）発表

選考経過

応募総数百八十二編の作品を対象に、編集部が主体となって選考に当り、下記の候補作を選出し、さらに慎重に審査した結果、星野安司君の「つめたい汗」を第五回月例新人入選作に決定致しました。したがって、この作品は、新人賞（年間最優秀作品）候補としての資格を獲得したことになります。

「つめたい汗」について

入選作で、はじめての時代まんがである。

まず、絵の達者さを買った。けっして新しい線とはいえないが、とにかく描きなれていて、候補作の中では群を抜いていた。

ただし、その器用さにも若干の疑問がないわけではない。

この作品は、暑さのためにいらだった武士が、心ならずもひき起こした残酷な事件を、逆にギャグタッチでユーモラスに表現しようとしたものである。だが、もし完全にそれをねらうなら、この絵はさらに工夫が必要で、このままでは消化不良の感じをまぬがれない。と、同時に、構図やコマはこびにおいても、こうしたストーリーまんがの技法とはちがった方法を用うべきではなかったか。

こうした中途半端さ、あるいはちぐはぐさが、この作品の味わいである笑いの底の悲哀感をいちじるしく殺しているように思える。そして、次第に立腹し、ついに抜刀せざるを得なくなるまでの武士の心理の計算が適確でなく、事件がやや並列的に並べられ、盛り上がりが少ない点、キャラクター作りの根本に必要な客観的条件――時代・武士と町人の階級差等の把握がふじゅうぶんな点など、不満は相当ある。

しかし、夏の暑さと武士の最後のつぶやき〝寒くなってきた〟を対比させ、そこにユーモアを感じ、それをもとにドラマを展開させようとした作者の感覚と批評性は、絵のうまさとあいまって、将来性を感じさせるにはじゅうぶんである。今回の入選はそうした意味による。

なお、作者星野安司君は「ぐら・こん」東京支部長であることを付記したい。（山崎）

〈月例新人入選作〉

「つめたい汗」（星野安司）東京都板橋区

●佳作●

「ポーブレト」（岡田史子）北海道静内郡
「吹雪」（サトノ勝すけ）仙台市
「すいかどろぼう」（福田浩子）名古屋市
「おんぼろとりでの隊長さん」（じんぼあつし）新潟県燕市

●もうひとふんばり●

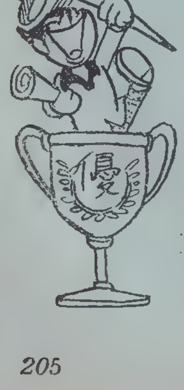
「そして散りゆく花」（本山裕）東京都台東区
「ある雨の日」（若月好和）埼玉県入間郡
「剣雲記」（奥田竜介）大阪府豊中市

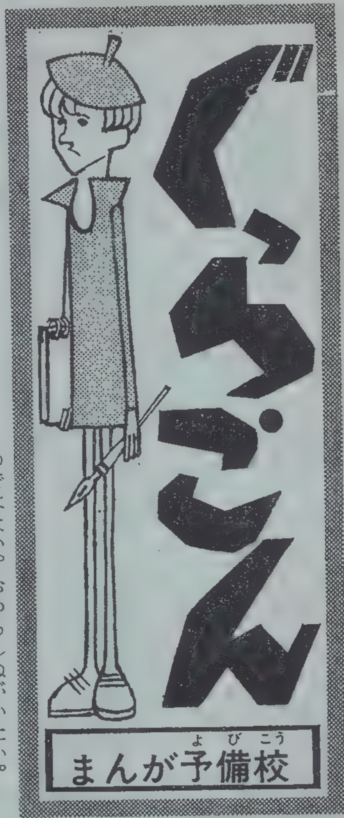
●もっと勉強を●

「首」（手塚弘保）神奈川県相模原市
「どうにもならないせいと達」（三谷まり）神奈川県厚木市
「小さな人生」（神江里美）北九州市
「つくしんぼの墓」（浅野敏夫）兵庫県川西市

▼「ステップ」入選者（竹下啓子）埼玉県

▼「ホップ」入選者（福原照夫）広島県





●総評●

一億総まんが家時代。COMまんが予備校生たちが、その事実をまざまざと示してくれた。夏休みであったという時期的に有利な条件も加わって、応募総数がついに百八十二点に達した。全作品に目を通すだけで一週間たっぷりかかり、選考も力作が多いため時間を費やした。

特筆すべきは、全体に平均レベルがぐっと上昇していること。入選のための第一関門、アベレージ三百点の突破者がふえ、もうひとふんばりの最低点ですら、二百五十点の壁をゆうゆう突破。ページのつごうで小さく扱かったが、手塚弘保三谷まり、神江里美、浅野敏夫、おくさきはるき、石井辰男、谷野晴美、赤佐忍、熊条純一、森実男、その他の諸氏も百五十点は越えている。これだけの力作ぞろいでは、少々ページをふやしてもたるものではない。おゆるしねがいたい。

総合的にみれば、プロ作家よりもおとるかもしれない作品群ではあるが、個々の面ではプロに肉迫し、あるいはそれにまさっているといっても過言ではないものがふえた。たとえば絵のていねいさ、うまさ。また意表をつくアイデア等々。

なによりも、感受性のもっとも強い世代であることの特権を生かし、全力で創作していく若いエネルギー。ここに、既成の流れの中で創作をつづけているプロ作家がドキリとするような斬新なイメージが熱気をこめてほとばしっている。

数年後の日本のまんが界を背負ってたっていく期待にそぐわぬ力を内蔵させて着実に成長しているのはたのもしい。

なお、常連は目標を定めて、まっしぐらに、初心者は常連をけおとすほどのファイトをもって進んでもらいたい。

（峠）

漫画界への最短コース

COM新人賞募集！



◀まんが専門誌「COM」では、最近マンネリ化気味のまんが界に、新しい方向をひらくべく、新人のユニークな作品を下記の要領で公募します。 編集部

●応募規定●

★資　格＝無名の新人に限る。

★作品種目＝自作未発表のストーリーまんが。テーマは自由。B5判（二二一ミリ×一五〇ミリ）拡大率1.2倍。24ページ以内

★締　切＝毎月15日。（当日消印有効）

★発　表＝『COM』誌上。

★選　者＝石森章太郎、尾崎秀樹手塚治虫、永島慎二、峠あかね及び編集部。

★賞　＝月例入選作（一編）『COM』誌上に掲載当社規定の原稿料を支払う。なお佳作は「まんが予備校」に発表。年間最優秀作（一編）月例入選作の中から優秀な作品一編を選び、新人賞として賞状及び記念品を贈る。

★宛　先＝東京都豊島区南池袋一の二〇の一　横田ビル虫プロ商事KK出版部『COM』新人賞係。

★その他＝①原稿返却希望者は、返信用封筒に返送用切手を同封すること。②入選作の著作権、出版権は当社に帰属する。③別紙に住所・氏名・年齢・職業・略歴を明記し添付のこと。

星と夜と少女の詩をうたった岡田さん得意のアンソロジーの世界であるが、これまでの岡田作品には見られなかった、新しさを感じさせる。彼女の作品を過去四回掲載するが、そのつど成長していく姿がありありと表われている。

その成長を認めたうえで、いくつかの技術的な苦言を述べておこう。

まず、キャラクターの表情の少なさ。特に主人公の感情の変化が絵で表現されず文字で語られているところに問題を感じるのだが……。

つぎにストーリーの説得方法でいちばん気になるのが回想シーンの処理。一コマずつ見いるように追わなければ話がわからないコマわり。また、主人公の考え方の変化していく話のすすめ方に疑問がある。ネコと姉の死んだ事件で、少年はいままでの生き方に疑問を持ちはじめる。か、それが友人を刺殺したという形で具体性をともなって少年の心を圧迫していく。この三大事件が単なる事件の羅列に終わっているのが最大の弱点といえよう。

せっかくめぐまれたセンスを持っている岡田さんが、今後この二点をどのような形で作品に表現できるかが大きな課題だ。また極度な抽象的表現法の乱用をさけてほしい。作品は作者と読者の壁を除くところからはじまるのだから……。

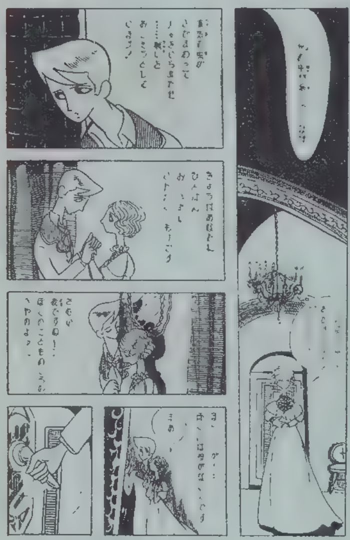
ポーブレト 岡田　史子（24ページ）	ストーリー	テーマ	85	計 195	絵	キャラクター	55	計 190	総合 385
		ストーリー	60			構図	70		
		コマはこび	50			絵	65		



①



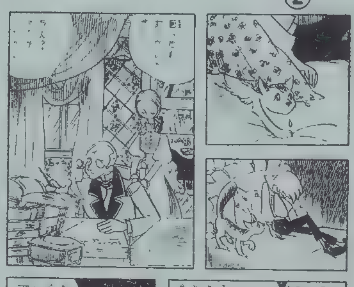
②



③



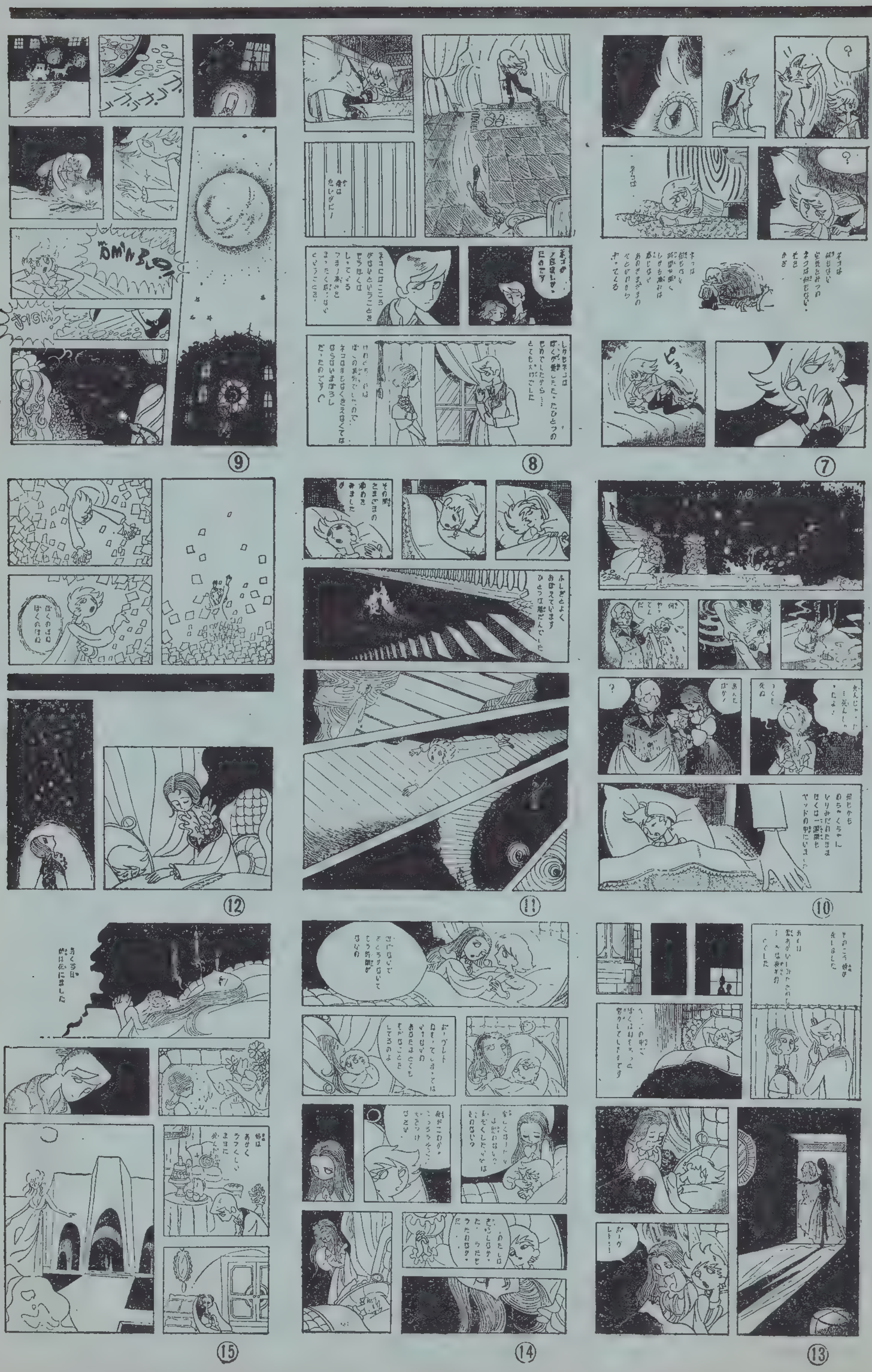
④



⑤

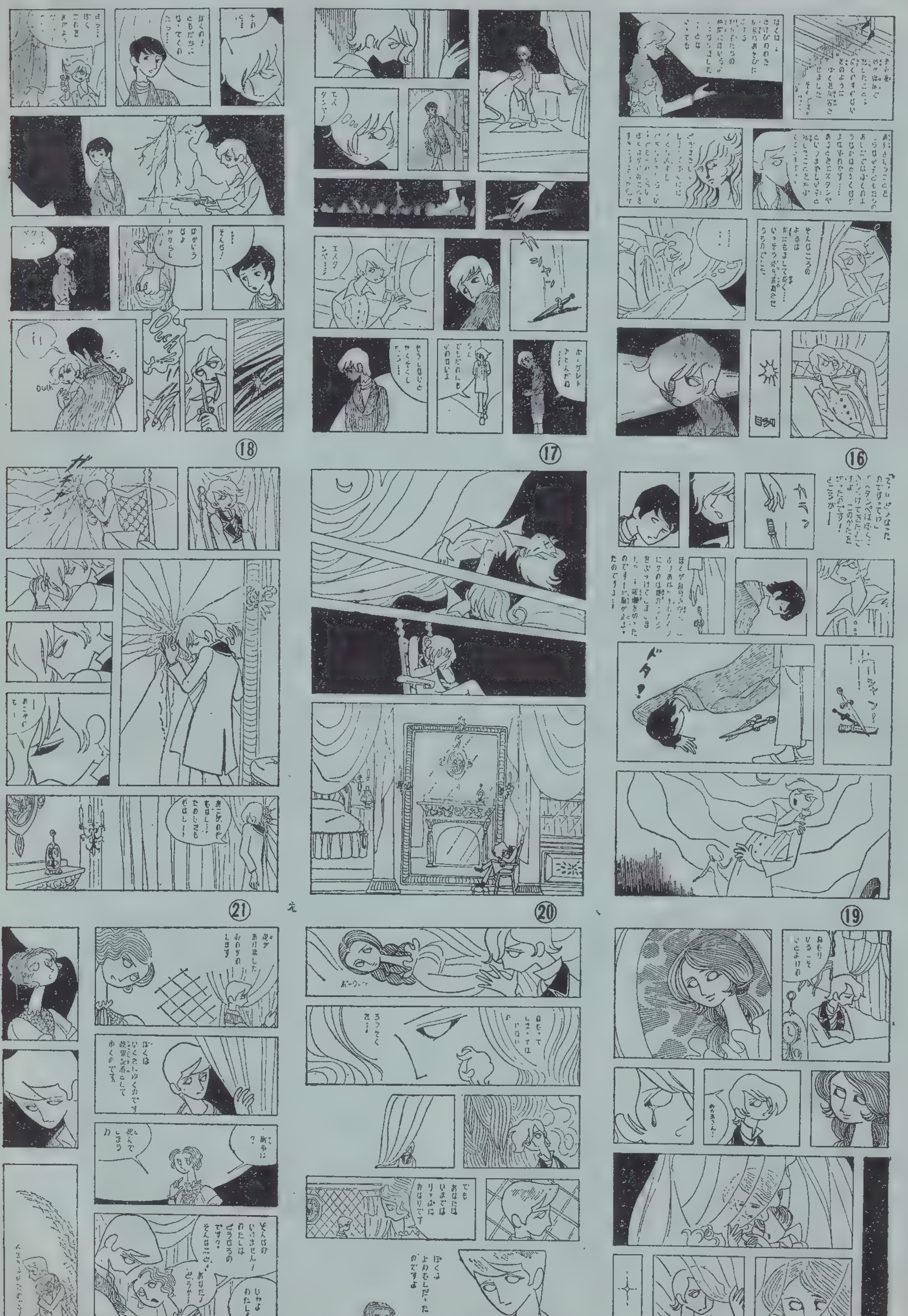


⑥



⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

ぐら・こん





吹雪（ふぶき）　（8ページ）



総合	360	サトノ勝すけ（25歳）		
ストーリー	テーマ	70	キャラクター	45
	ストーリー	65	構図	55
	コマはこび	70	絵	55
		205		155

（右側の3項目は「絵」の内訳）

猛ふぶきの山をひとりの少年が山小屋を求めて進むが、風と雪は少年の進路をはばむ。下半身はこおりつき、からだじゅうの血がとまりそうだ。少年の頭の中に過去の思い出が旋回する。昨年の夏この白神岳に登ったときの思い出。やさしかった母の死。その後、家に迎えた義母と自分の仲がうまくいかず、家庭から遠のくようになったこと……。

「くだらん、ぼくは甘ったれガキにすぎなかった」自然のきびしさと戦いながら少年は回想する。そして、過去のできごとが自然の中では、いかに小さなことにすぎなかったかに気づく。やがて少年を睡魔がおそう……。

病院で目をさます少年。そこには父と義母の笑顔があった。そのとき少年は、いままでの空白をとりもどすことがまじかいことを知った。

ふぶきの山の実感。回想シーンのコマの処理など、それぞれよく描けている。また、眠ってしまう少年を炭焼き小屋へ案内する男が、ふり返るとガイコツであったという遭難者の幻惑を、ショッキングに演出したコマはこびも、ドラマをよく盛り上げている。

ただ、キャラクターがかたい。絵をもっと描きこなしてほしい。また最後の両親の心理状態をもっと描いてほしかった

●もうひとふんばり

そして散りゆく花（18ページ）

本山　裕（17歳）

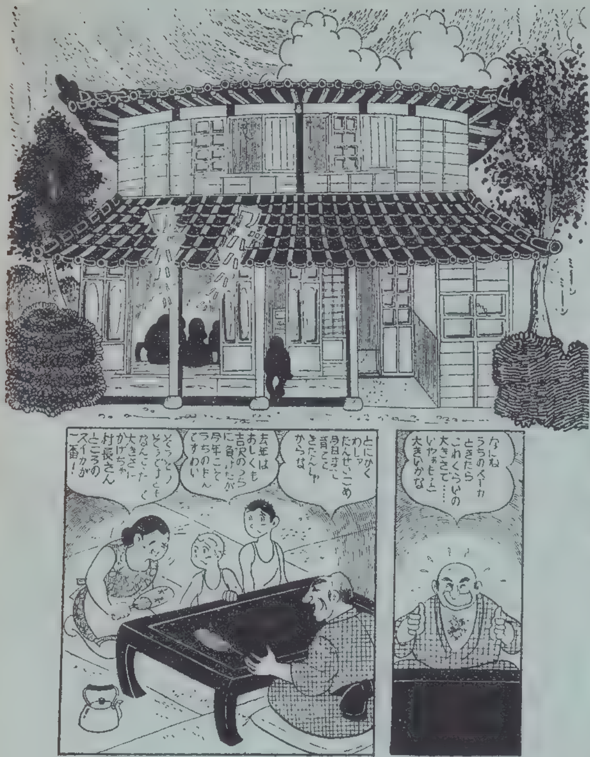
	絵	145
	ストーリー	150
総合		295



8号につづく本山君「若者の詩」三太郎シリーズ第2弾。

太平洋戦争末期。出陣をあすに控えた特攻隊員三太郎は、死にたくないと叫び友人の剣といいあらそう。しかし翌日、剣も三太郎も帰らぬ0戦に乗って飛びたっていく……という話が一転し、喫茶店の中。こういう作品はどうだと話している三太郎。うなずいている友人。が、三太郎の耳には踊りくるう若者たちの騒音だけがはいってくる。考えこむ三太郎。

前作より話の深味が増した。そのかわりコマはこびに遊びが目立つのがおしい。絵は上出来とはいえないが、熱のこもったていねいさがある。第三弾を待つ。



すいかどろぼー （22ページ）



総合	335	福田 浩子（18歳）			
ストーリー	テーマ	70	絵	キャラクター	45
	ストーリー	50		構図	55
	コマはこび	55		絵	60
		175			160

7号「母」につづく福田さんの第二作。両親を失い、いなかの親類にひきとられたジロ。そこには、ジロとおなじ年ごろの竹男と健二の兄弟がいた。ふたりの孫がかわいいために、なにかとジロにあたるおばあちゃんもいる。

三人で遊んでいたとき、ジロをのけものにし、孫たちだけをこっそりよんで、スイカを食べさすおばあちゃん。それを知ってだまって反抗するジロ。シロに気を使い、自分の友情をわかってもらおうとする竹男。その夜、ジロはスイカ畑へはいって品評会出品用のいちばん大きいスイカをパクつきはじめる。発見して大声でどなる畑の持ち主。竹男がとんできて、スイカを食ったのは自分だと叫ぶ。ニセモノの友情なんかはまっぴらだと、むしゃぶりついていくジロ。ふたりの主張のはげしさにけっきょく、畑の持ち主はおれ、ジロと竹男は手をにぎりあう。

おばあちゃんがジロは他人だからスイカを食わすと損だ、というエピ、ードもいかにもありそうな話でうなずけるし、少年の日の友情を、いいあいでしか表現できないくだりも、ともによく描きこなされている。なによりも作者の、子どもたちを見つめる愛情の深さを買いたい。一作より格段の進歩。ただし、少年三人の絵が区別しにくいのは大欠点。



ある雨の日 （24ページ）

若月 好和 （17歳）

ストーリー	絵
155	125
総合	
280	

数か月前、カットを数点送ってくれた若月君。一コマの中に詩と明るさをもっていたので作品を期待していたが、やはりいい味をもっている。

学生の忠は、数人の友人と、授業をサボリ、裏の原っぱでタバコを吸い、畑から盗んだスイカを　クつく。雨の日、校門で困っていると同級のカスミ(女の子)がかさにいれてくれる。わたしあなたが好きといって帰っていくが、忠も指とばでボクもキミがスキ……という。

不良がかった主人公をいやみなく描きこなして好調。忠の性格、友人の性格など、それぞれが生き生きとしている。絵に個性が強すぎて、おしまれるが……。

おんぼろとりでの隊長さん （25ページ）





総合	305	じんぼあつし（17歳）			
ストーリー	テーマ	65	絵	キャラクター	70
	ストーリー	50		構図	45
	コマはこび	40		絵	35
		155			150

ユーモラスなギャグもの時代劇。

辺地のとりで。それを守るのは一見カッコいい隊長さんと、調子のいい足軽。ある日とりでに敵がせめてくる。逃げ腰の足軽をラーメンでいいくるめ、敢然と立ち向かう隊長。そして激戦に突入。この戦いぶりがなかなかおもしろくできている。八方破れのナンセンスな味がとてもよい。一度は追っぱらうが、二度目の襲撃にそなえて、城へ救援のノロシを上げる隊長。城で町を見おろしている殿様が子どもがダンゴを食っているのを発見し、あれを食いたいとダダをこねる。そのとき、とりでのノロシをみつけ、城はてんやわんや。ダンゴを買ってきた家来を見て「ダンゴどころではないっ」とどなりながら、戦いに出発するくだりは、人間の性格の片りんをチラッとのぞかせながら、ギャグにする手なみもあざやか。

城の援軍がまにあわず、困りはてた隊長と足軽は、戦車をみつけ孤軍奮闘する。けっきょく、敵に大勝するが、秘密兵器の戦車を失ったことで隊長さんは、殿様に大目玉をくらう。

一事件に三つも四つもギャグをしつこくいれてもっていく熱意はりっぱ。話のバカバカしさもいい。

絵をもっとていねいに描くこと、ギャグのテンポを勉強することが注文。

もうひとふんばり

剣雲記 （24ページ）

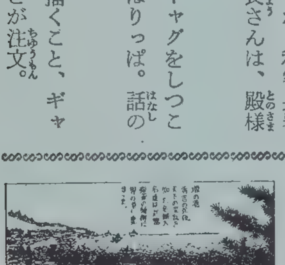
奥田竜介 （27歳）

ストーリー	絵
150	115
総合	
265	

絵をチラッと見て、読みづらいなと感じながら、ついつい読んでしまった。なかなかこった時代ものだ。

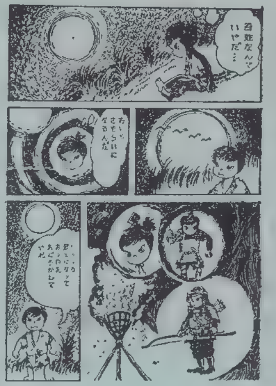
無月はある日、仇うちと称する夫婦を返り討ちにするが、そのそばで赤ん坊が泣いていた。そして十数年。りっぱな若者に成長した赤ん坊は、無月の指導により、剣の腕もたち、はなばなしく戦場へいく。そして敗戦。おちのびる若者をかばって無月は敵の中へきりこんでいった

五度ある殺陣シーンもそれぞれタテが工夫されており、それをささえる中心の剣客と若者の心のふれあいもデリケートに表現されている。コマわりに勉強を要するし、絵もまだまだ。



首

手塚 弘保



戦国時代――。農家のタッ平少年は、武士にあこがれ、家をでて領主の家来にしてもらう。だが、戦いには参加させてもらえず留守居役。ある日タッ平は夢をみる。それは、残酷でおそろしい戦争の夢だった。8号で佳作にはいった手塚君だが、今回の作品はやや落ちる。タッ平が武士をあきらめる動機の単純さが目だつ。もっとつっこんだストーリー構成を。

どうにもならない せいと達

三谷 まり



ある女子高校生たちの学校での行動をおもしろくまとめた少女もの。先生の質問にトボケた答えをしたり、いたずらしたり、いろいろと反発をくりかえす手のつけられない生徒たちも、小使いのおじさんだけには親切だった。

おもしろい作品だが、主人公が複数なので物語自体に一本の強い線を欠く。絵では男性をうまく描いてほしい

もっと勉強を

小さな人生

神江 里美



飛ぶ鳥を見て、自分も空を飛んでみたいと希望を持ちはじめた少年は、ある日、ガケの上から鳥に負けず飛ぶ。

飛べた! 少年は"望みがはたせたので死んでもいい"と思ったとたん死の世界へはいる。小作品だが話のまとめ方のうまさと、読者を主人公に感情移入できる魅力をもっている。絵の明るさを生かした明るいストーリーを望む。

つくしんぼの墓

浅野 敏夫



都会の舗道のまん中に一つの墓がある。そこへ毎年一回ひとりの老人が墓参にやってくる。それは、つくしんぼがすきだった老人の娘の墓だったのだ。老人は若いころこの辺の地主だったが、建設のため売ることになった。だが、住民たちはおこり、老人の娘を殺してしまったのだ。ねらいはおもしろいが、キャラクターの個性の表現を。

▲基礎をがっちり

先生と私	桑原 礼子	おばけ野郎	遠山 実
ゆめ	中谷己代松	心の病	中村 知久
チビチビちゃん	川口 栄夫	海の色	鈴木 義文
いたずら	広川 紀雄	おばけやしき	阿部 幸子
その結果	渡辺 彰則	狂った愛	董 正時
赤い怪鳥	佐藤 昭信	ねがいぼし	鈴木 竜平
悪魔	橘和田政男	夜明け	池田 清志
えぞの王	小野 和男	ただ一人のために	鶴崎 寛二
女必と親バカちゃんりん	美山 文江	大木の下に……	梶尾 義博
いちばん長い夜	堀部 修	夏	西条 修
ビルの谷間	熊田 和男	俺のせいじゃない	善茂砂清司
悪魔を恋した少女	浦辺恵美子	異端者の歌	関本 敏和
仇	岸 孝彦	戦	山田 努
泣いたはんにゃ	吉見 治郎	雨日	山崎 和子
すてきな流れ者	清水 マリ	第三の地球	長沢 昌平
対決	高口 裕	アンドロイド	安松 真一
猫	佐藤 和男	ペンギン・ジョン・レノン	森香 昭
世界の国々	小柳 昌和	ひとつのいのち	近藤 泰年
罪	田久保俊夫	ジャック	村上 達朗
オレドロボウヨ	永井 広行	野望	上屋 清
市街戦	八木 三郎	ろくさん	田淵 正祝
博士と真実	山田 孝	再会	小松 清幸
にげるが勝ち	大橋 実	ちちとこ	西田 保
みじかいはなし	岡本 好雄	ねことめなしのダルマ	滝川 健市
少年と支配者	渋辺 浩行	笛を吹く少年	中川 文江
遅刻	小見野秀夫	黒い瞳の少年	大下 信
トリック狂	水越 芳雄	鬼少女	竹下 幸子
人間再生	内田 正美	ギロとリュウ	宮川 公一
オッス日本	有信 済慈	小さな抵抗	加藤 隆則
流れ者の物語	橘和田正治	友情	木内 俊彦
少女エリオノーラ	吉田 典子	灯のない町	大内 敏男
白いバラ	伊丹 淳子	狂犬	浮田 隆昭
箱の中	萩田 幸男	お山のおサル	皆川 和江
ディメンション	島崎 利則	東京午前0時	大山はじめ
野いちご	高橋 一江	南極の星	滝川 洋平
平和はいつ	齊木 守	神への贈りもの	砂川よしこ
忘れ去る事	赤堀 悦子	ロンドンの名探偵	及川 京一
青春の夢	鈴木 誠	スパイ大戦	時田 勇
ブドウの精	松本 俊夫	あの車を追え!	高橋 満晴

ステップ入選作発表 第8号募集

★応募総数七十五編。竹下啓子さんが入選と決定！抜群の絵のできがかちとった勝利だ

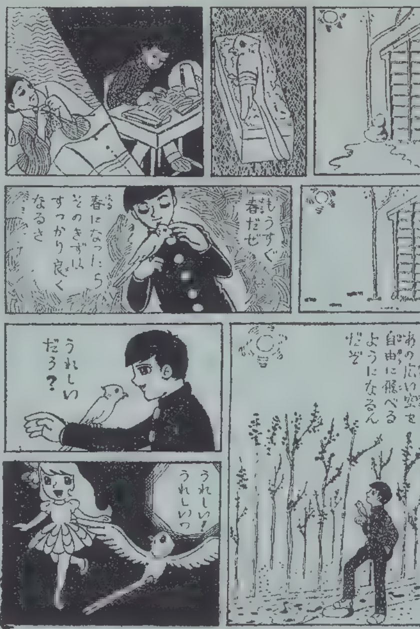
〈入選〉

〈浦和市・竹下啓子〉

竹下さんの作品は女性らしく、とかく前半暗くなりがちなプロットを明るくまとめている。

傷ついた小鳥を手あてしてやる時男は、その日小鳥がかわいい小女の姿で現われ、時男にお礼をいった夢をみる……という少女もの的アイデアがはいってくる。イヤミのない味がでている。が、やまばにとぼしい

この作品で特に賞賛したいのは絵のうまさで他の作品を寄せつけない



〈佳作〉

〈東京・中尾光孝〉

中尾君は、プロローグで小鳥をいじめる子どもに、老人が自分の若いときの小鳥についての思い出話をする場面からはじめている。老人は小鳥は神様の使いだという。アレンジのよさを買う。もっと絵の勉強を。



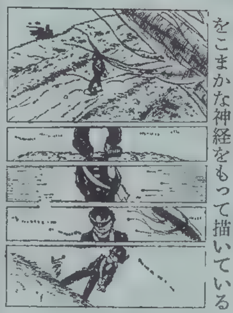
〈北海道・村尾　洋〉

8号の「ステップ」で入選した村尾君の今回の作品は、ストーリーはプロットのままだが、前半で友だちが空気銃で撃った小鳥を持ちだしている。絵はいいが、八ページにしたためストーリーに余裕がなかった。



〈福島・加藤幸子〉

加藤さんの作品は、女性に似合わず男の子がうまく描けている。プロットをそのまま絵で追っているところはまだ未熟だが、女性らしく家庭内でのキャラクターの行動や小道具をこまかな神経をもって描いている



●今月の問題●

「チコちゃん日記」

その日もチコちゃん（五歳）は洋服店の前でママの帰りを待っていた。チコのママは一年前夫に死なれ働きにでている。家には、おばあちゃんがいるが、チコはつまらない。

チコの待っている洋服店のショーウインドウには、美しい洋服がいっぱい。

チコはふと思った。「チコもマネキン人形だったらいつもきれいな洋服が着られるのに……」。チコにはわからなかった。ママがなぜきれいな洋服を買ってくれないのか。待ちくたびれたチコは眠りこんでしまう。……チコはきれいな洋服を着てウインドウから町を見ていると、向こうからママがやってくる。ウインドウから飛びだし「ママーこの洋服きれいでしょー」とかけよるが、ママは無表情に去っていった……。

"チコちゃん"という声に目をさますとそこにはやさしいママの顔があった。

寸法／22・1cm×15cm。

締切り／十月十日。

●「ステップ」応募者●

〈北海道〉佐藤敬一〈宮城〉大西芳二〈秋田〉大西良一〈福島〉泰野江美〈埼玉〉戸沢保雄・神田英雄〈千葉〉海路よしえ〈東京〉望月良江・間野亨・早川雅也・鎌田和美・葉山亨・富川二郎・斉藤洋一〈神奈川〉高倉信幸・早坂美代〈新潟〉加藤和江〈長野〉三部京一〈静岡〉杉崎美恵子〈愛知〉桑原典子・市川幹了・筒井敬子〈京都〉梶川洋平・永井康二〈大阪〉作晴奐・田辺太一・川上秀人・遠藤和彦〈兵庫〉小坂邦半〈広島〉進藤健一〈山口〉佐々木喜久男〈香川〉下山敬一〈愛媛〉河田光枝〈福岡〉服部幸夫・遠藤守〈長崎〉佐藤峰子〈熊本〉相沢美樹・鈴木年和〈宮崎〉難波進

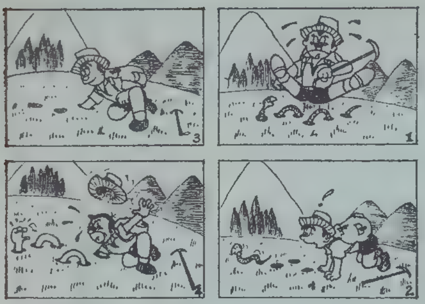
第8号募集

ホップ入選作発表

★応募総数二百四十二点の力作の中から、福原照夫君が入選と決定した。佳作もいずれ劣らぬ秀作ぞろいだった。

〈入選〉

広島県佐伯郡　**福原　照夫**



四コマまんがは起承転結がよくきいているかいないかで作品のよしあしがきまる。この問題の絵はそれでいくと転（事件が起ごる）の部分にあたるので扱いにくいと思ったが、福原君は最後のコマで意表をつくアイデアを用いおもしろくまとめている。

絵もいいし、少年の動作で片ひざをたてているところなど、人間の動きの観察のこまかさをほめたい。

＜佳　作＞



〈東京・大沢洋子〉１コマ
発想法，ネーム，絵ともに力強いものはないが，女性らしい夢を感じさせる。



〈北海道・小下恵子〉４コマ
場所の設定はでたらめだが，女の子のおてんばふりがいい。絵をきれいに。



〈東京・笠井りえ子〉一コマ
ヘビのきらいな人は気味わるがるかもしれない。案もいいし絵もいいが、入選するにはもう一つなにか…



〈神奈川・桜井政幸〉一コマ
すっとぼけたネームがいい。案もまずまずだが、絵が問題。ヘビの頭がさかなのしっぽに見える。



〈愛知・高橋孝三郎〉４コマ
４コマめのおちが意外ときいている。絵がざつなことと，コマわりがわるい。

●「ホップ」応募者●

〈北海道〉横山義弘・戸出雅子〈青森〉高橋良雄〈岩手〉及川光男〈秋田〉木沢篤〈山形〉斉藤裕太〈宮城〉阿部兼幸・高橋是清・鈴木弘〈福島〉山田アイ子〈埼玉〉新井道久・玉野弘文〈茨城〉早川泰平・桜井勉〈東京〉秋山富美子・平田恵子・古川求・鶴田容子・半沢節子・手島和彦・湯山邦彦・斉藤千賀子・浜津守・金子正人・林隆裕・伊東潔・小沼博〈群馬〉滝川富志夫〈千葉〉本円誠司・久保木新司〈神奈川〉中村たか・松本普・高橋晃・伊藤勇〈新潟〉川上重夫・土田朗〈富山〉柳沢健二〈岐阜〉竹中幸栄・神谷仁〈長野〉吉江裕・西谷茂文〈静岡〉杉本富子・菅沢正美〈愛知〉森政義・赤堀孝幸・村瀬素文・森島正勝・山口隆〈石川〉西野学〈福井〉川西和美〈滋賀〉須川茂子〈三重〉宮田雅之〈京都〉安達啓子〈奈良〉宮崎千代子・野村正和〈和歌山〉玉橋雅美〈大阪〉山野武夫・山根逸子・石之博和・東元庸泰・阪口正敏・渋谷晶三・柴田宏・重田仁・宇野徹・山野清〈兵庫〉大宮竜市・土肥賢司・中村真一郎・山川輝幸・大胡房雄・井本洋介〈島根〉松前富夫〈広島〉友井裕司・好川和良〈山口〉大戸道〈香川〉塩崎将晴〈徳島〉一宮慎晋〈高知〉岩井壮〈愛媛〉宇都宮辰範・高田美枝〈福岡〉内藤久子・前保正顔・古賀真知子・城石栄〈長崎〉西原博樹〈熊本〉高橋鐵夫・植薄秀一〈大分〉神林伸行〈宮崎〉竹田正彦

●今月の問題●

まんがの基本は、四コマ一コマまんがから。

四コマをしっかり身につけて、ストーリーまんがの構成のしかたを身につけよう。現在送られてくる「ホップ」作品を見て思うに、ヒネリのたりなさを感じる。

表面的な現象の笑いだけにとどまらず、案をもう一度ひっくり返してみよではないか……。

●寸法／はがきまたははがき大。●締切り／十月十五日。●発表／十一号誌上



マンガニカ



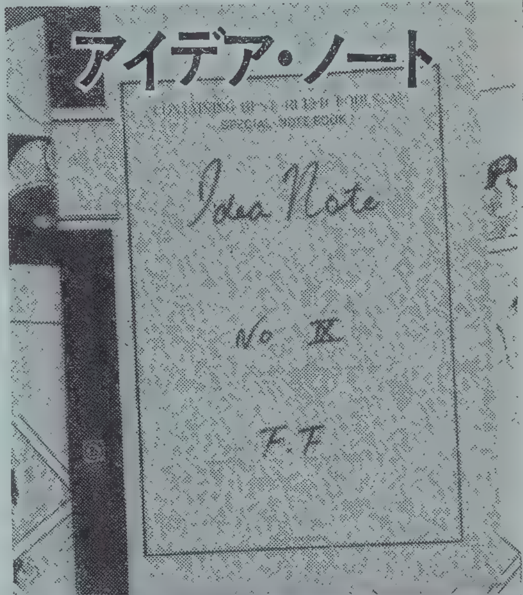
❤この教室にはいったみなさん、まず、すぐ新しいノートを一冊買ってください。なるべく大判で、罫のない厚いやつを。そしてこのノートを、きみのアイデアの貯金箱にするのです。アイデアといっても、まとまったものでなくっていい。きみの頭の中にうかんだ断片的なイメージでも、まんがや映画の感想でも、スケッチでも、落書きでも、こずかいの使い道でも、なんでもかんでも、ドンドン書きこんでおくことです。こうすることによって、きみはしだいに、自分のイメージを整理するクセがついていくだろう。

人間の頭には、やはり一定の容積があ◆

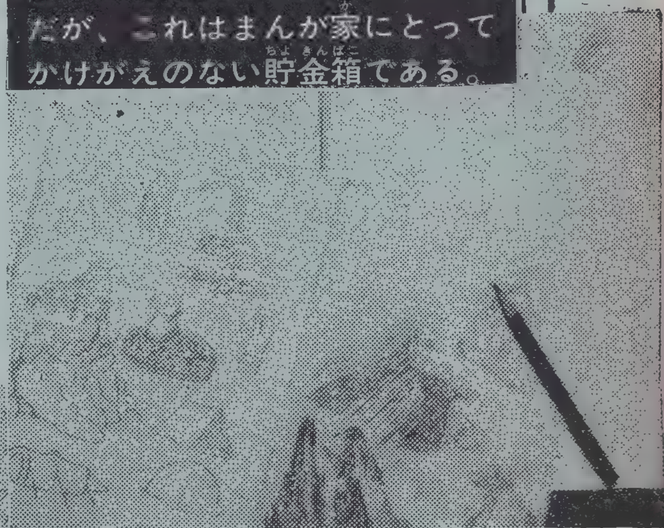
♠るから、新しいイメージがうかぶと、前のイメージは追いだされてしまう。逃がしてしまったイメージは、なかなかとりもどせない。その消えた一つのイメージは、もしかしたら、きみにとって十のすばらしいアイデアを生む核だったかもしれない。そんなクヤミをのこさないために、このノートへみんなプールしておこう。

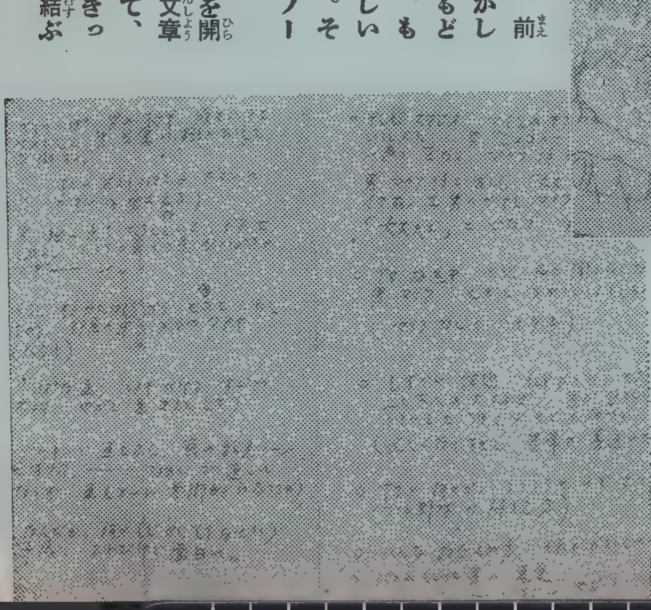
そして、イザというときに、ノートを開くのだ。このノートに書かれた一行の文章やなにげなく描いた落書きに触発されて、きみのイメージはどんどんふくらみ、きっとそれが、ケッサクなアイデアに実を結ぶにちがいない♣

アイデア・ノート



ありふれた大学ノート…………だが、これはまんが家にとってかけがえのない貯金箱である。



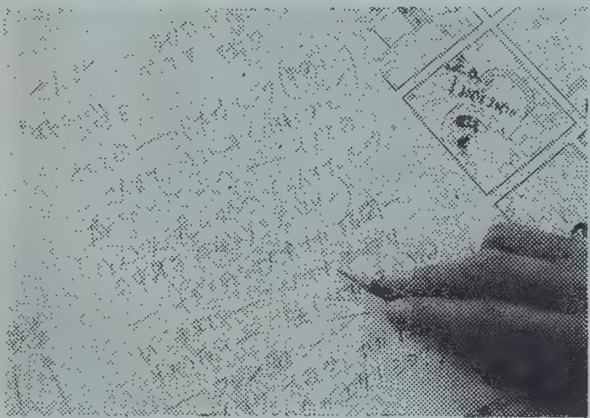


★興味をひいた写真や図版を写したり、思いつくまま落書きしたり、映画の魅力的なシーンをメモしたり……とにかくていさいにとらわれないノートにする



FUZIO　FUZIKO' S

〈まんがエリートのためのまんが教室〉 第 2 回





★右の写真の左上の図は、蒸気機関車の逆転器である。これは必要あってノートにうつしておいたのだが、この図がよび水となって、一見まるで関係のなさそうなアイデアを連想し、下のまんががができた。



どうじん

コミックA(エース)（4）

●紹　介●
〈発行〉東京都葛飾区白鳥一の三の一〇五　野辺千恵子
〈型式〉A5判。コピー十(プラス)孔版。24ページ。

●短　評●
女性リーダーが、がんばって好感のもてる機関誌。

うすい中にも作品が三編はいっているが、いずれもつづきもの。

野辺千恵子さんの「死の町」（10ページ）は、少年と少女がふとしたことから無人の町へはいりこむが、ふたりは冒険心と恐怖心のいりまじった気持ちで人々をさがしまわる。だが、ネコ一ぴき見あたらない。そのとき人の乗った車が走っているのを発見……、長くなるのでつづきものにしているのだろうが、10ページの中に見せ場がないのはおしい。野辺裕子さんの「人形」はSFものだが、これも同じことがいえる。三次陽一郎君の「トンカチ君」は、ギャグもの。トンカチ君は発声の練習をするが、女の子にもっと高い声を要求される。が無理。ついにイスを重ねて、その上で練習をする。笑えない。ヒネリが弱い！　作品はともかく一応本の構成をなしているので期待できる。ここに描いている人たちの将来の成長がたのしみだ。







ビッキ（3，4号）

●紹　介●
〈発行〉桐一葉マン研会　村上彰司
〈型式〉A4判。コピー十(プラス)孔版。84ページ。

●短　評●
まんがのページをコピー印刷、文章ページを孔版印刷を用いた変わった機関誌だが、製本がザツなためページ数をとったわりには見劣りする。

巻頭の作品は、リーダー格、村上彰司君の「てつちゃん」。姉と弟の愛情を描いたつづきものだが、ネームと絵の勉強をもっとやってもらいたい。斉藤茂君の「自然の芸術」は、詩の形態で自然がかもしだす歌を描こうとしているが、むずかしすぎる。もっと読者を考えてほしい作品。おなじ斉藤君の作品で「鬼神」は、秀才青年と探検ずきのおじさんが、地球内部をさぐる乗り物で地球の中心へ向かうもの。今回は一回めだがおもしろくなりそうな作品である。

これらのまんがのほかに、村上君のSF小説が一本はいっている。とにかく中心になる作者がふたりしかいないのはさびしい。

作品だけを見ると未熟だが、誌面からはなにかやろうとする熱気を感じる。機関誌は力作を描く以上にきれいな本作りをしてもらいたい。

COMガイド

★昭和四十二年の『少年画報』二、三月号本誌を一冊五十円でゆずってください。ただし、送料は当方が負担
千葉県東金市東金一二八七　相川江太郎

★石森章太郎著「赤いトナカイ」「幽霊船」をゆずってください。お礼をいたします。くわしくは、はがきで。
広島県大竹市本町一の八の一二　中村志津枝

★秋田書店から昭和三十五年ごろ発行された『少年・少女まんが文庫』「ジャジャ馬くん」3～13、「魔神ガロン」1～6をお持ちの方ゆずってください。条件などを往復はがきで連絡ください。
北海道美唄市西沼の内　西尾　覚

★手塚治虫著「ファウスト」「漫画大学」「来るべき世界」をお持ちの方、石森章太郎著「サイボーグ009」1～3と引きかえか適当な金額でおゆずりください。
岡山市藤原二四〇　遠藤　幸夫

グループ紹介

『漫画の巣クラブ』和歌山県橋本市清水七〇〈玉橋　雅春〉
『ハニイコウムマンガ研究会』東京都府中市若松町四の一七の一〈松井　主税〉
『北日本漫画研究会』北海道苫小牧市王子町一三〈脇本　光幸〉
『西日本アマチュア漫画研究会』高知県安芸市矢の丸三の一〇の三二〈西岡　建雄〉
『虹・漫画クラブ』大阪市生野区猪飼野東一の一四　武藤方〈藤　真吾〉
『男女マンガ親友会』石川県小松市西粟津町三六号〈松田　忠明〉
『エムの天使』秋田市楢山南中町九の一〇　佐々木米店内〈小川つかさ〉

ぐら・こん支部長募集

「ぐら・こん」本部では、全国のまんがマニアが、よりスムーズにまんがの勉強をしていくため、「ぐら・こん」支部を全国に設け、各支部に一名の支部長（任期二年）を置きます。支部長に立候補するには、①作品一点（まんがまたはイラスト）。②最近作制した同人誌（肉筆回覧誌を含む）。③まんがに関するレポート（四百字づめ原稿用紙三枚以上）。④住所、氏名、生年月日職業、略歴、写真。⑤いままではいっていたまんがグループ名。⑥支部長立候補としての抱負動機などを百字以内にまとめる。

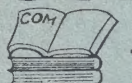
以上を「ぐら・こん」本部宛に送ってください。「ぐら・こん」本部では、厳重な選考をおこない、最適と思われる方を各支部から一名選出し、支部長に任命いたします。

全国支部は左記の通り10ブロックからなります。(1)北海道支部。(2)東北支部（東北地方）。(3)関東支部（東京を除く関東地方）。(4)東京支部。(5)中部支部（中部地方）。(6)近畿支部（大阪を除く近畿地方）。(7)大阪支部。(8)中国支部（中国地方）。(9)四国支部（四国地方）。(10)九州支部（九州地方）。なお、東京、関東、北海道の各支部は決定しています。

●宛先／東京都豊島区南池袋1の20の1横田ビル「ぐら・こん」本部

★まんがエリートのためのまんが専門誌★

COMのバックナンバーをそろえよう！



■フレッシュなまんが専門誌『COM』のバックナンバーをそろえて通読しよう。一号〜九号までをお買いもらしの方は、近くの書店へ申しこみ、とり寄せてもらってください。



●手塚治虫、石森章太郎、永島慎二の三大まんが家による異色大作をはじめ、話題のまと特集記事、一流作家の快心作を掲載する**ゲストまんがシリーズ**、座談会形式によるユニークな**まんが月評**、人気まんが家を分析する**まんが家論**、まんが界の動きを即座にキャッチする**まんがジャーナル**、まんがマニア必読のページ**ぐら・こん**等のほかに豊富な記事が満載！　それが『COM』の特長です

★その他の作品内容★

〈一号〉表紙（手塚治虫）。名作劇場「冒険狂時代」（手塚治虫）。「悟空の大冒険」（出崎統）ほか。

〈二号〉表紙（永島慎二）。名作劇場「ドースン一家の記録」「よろめき動物記」（手塚治虫）。ゲストコーナー「ピエロと星」（沼田清）。「鉄線のはてに」（山崎享）ほか。

〈三号〉表紙（石森章太郎）。名作劇場「フィルムは生きている・前編」（手塚治虫）。ゲストコーナー「つくしんぼ」（みやわき心太郎）ほか。

〈四号〉表紙（永島慎二）。名作劇場「フィルムは生きている・後編」（手塚治虫）。第一回月例新人入選作「さかなの涙」（しみず清志）ほか。

〈五号〉表紙（石森章太郎）。名作劇場「ハトよ天まで・1」（手塚治虫）。第二回月例新人入選作「ねむりにつくとき」（宮谷一彦）ほか。

〈六号〉表紙（永島慎二）。名作劇場「ハトよ天まで・2」（手塚治虫）。特集「まんが火山連峰」（峠あかね）ほか。

〈七号〉表紙（長谷川京平）。名作劇場「ハトよ天まで・3」（手塚治虫）。特集「児童まんが家のデビュー地点をさぐる」。第三回月例新人入選作「殺し屋だ・DO」（中島宏治）ほか

〈八号〉表紙（長谷川京平）。名作劇場「ハトよ天まで・4」「人間牧場」（手塚治虫）。特集1「まんがベストテン」。特集2新人まんが家競作集「夏」。ゲストまんがシリーズ「猫・前編」（佐藤まさあき）ほか。

〈九号〉表紙（長谷川京平）。特集「キャラクターは生きている」。ゲストまんがシリーズ「旅」（水野英子）。「猫・後編」（佐藤まさあき）。「天地想像」（木崎しょうへい）。第四回月例新人入選作「いきぬき」（青柳裕介）ほか。

COM　話題をよぶまんが専門誌！

11月号



●ゲストまんがシリーズ●
ある浪人の死
一川崎のぼる

●まんが史に新しく一ページを飾る超大作「火の鳥」「ジュン」「フーテン」をはじめ

★特集「アニメーション」★まんが月評　ギャグまんがの方向」★第六回新人入選作発表など、まんがマニア必読の内容！

10月20日発売

★お知らせ＝さる八月六日に開かれた「ぐら・こん東京支部会」の記念写真ができましたので、ご希望の方は15円切手同封の上ご連絡ください。

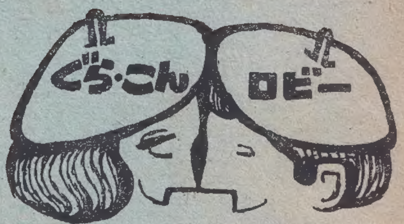
東京都葛飾区東金町二の三〇の七　青柳　誠



〈表紙の言葉〉

大きなサッカーボールに
魂を奪われた若者たちは、懸命に地を駆ける。
彼等のエネルギーと闘志は、
いつか見た真夏の太陽のように燃えつづけ、
力をぶっつけ合う。
人間の闘争本能をスポーツという方法で表わしたはじめての人に、私は拍手したい。

長谷川京平



ぐら・こんロビー

▼「いきぬき」にひとこと▲

★人間だれもうしろ暗さというものを持っている。底辺に流れる彼独自の暗くさびしいムードが、いまのぼくにぴったりであった。なにか自分を見られたようではずかしい気もしたくらいである。

ぼくは、拍手を送るとともに、今後の作品に期待する。

埼玉県大宮市　**渡辺　真**

★一コマ一コマから青柳裕介氏の個性がにじみでていた。

そして、彼のバイタリティーが描く青春への叫びが感じられる。

今後に期待する。

埼玉県入間郡福岡町　**岡本　正美**

★青柳君おめでとう！　読んでみて息がつまりそうでした。でも、あなたがこのジャンルを追求することは恐ろしい気がします。

いつの日か少しずつ笑いや明るさを取りいれてください。

十六歳のまんが家不志望の女の子

★第四回新人入選作——私の心臓と脳神経に異常な高鳴！　本を買って家につくまでしんぼうできず、道を歩きながら読んだ。読み終わった。からだ全体がふるえた。本を投げすてた。そして十分ほどじっとみつめながら考えていると、涙がでた。家へ飛んで帰り、自分の作品を見た。何時間も……。

大阪市港区　**のはら**

▼「天地想像」について▲

おもしろかった！　このひとことにつきる。一コマ一コマごと笑わずにいられなかった。

生まれて十五年、はじめてこんなヘンナまんがを見た。

兵庫県川西市の一ファン

▼ムードある「旅」▲

とてもよかった。なんともいえないムードのある作品である。

このごろ、水野先生の作品には、あまり気にいったものがなかったの





千葉県野田市吉春158　**池沢さとし**

だけれど……。

これからもこの調子で描いていただきたい。

ある日本人の女の子

▼三氏にひとこと▲

手塚治虫氏に——生と死の追求のテーマが展開されてきてこれからを期待する。ヒミコが火の鳥を目の前にして息絶えるシーンは、生と死のキビシサを強く感じさせる。

石森章太郎氏に——独特のファンタジックなムードがすばらしい。特に九号の「待つ」は、五号以来のすばらしいできだ。

永島慎二氏に——氏独自の味がいい。氏は、控えめながらセックスの問題について触れているのもよい。これからはもっと深くセックスの問題をつっこんで欲しい。『COM』読者層はこういうことを考えてもよい年齢だと思う。

銀河系に住む者より



カット／東京都新宿区　**砂　夏美**

▼つのだ先生の「一日一漫」▲

実に爽快。江戸っ子ロ調っていうんですか？　ぼくにはわかんないけど。キュウリをかじってるみたいに歯切れよく、四コマまんがに対する創作意欲がモリモリわいてきた。

またお願いしたいですね。

名古屋市瑞穂区太田町　**久野尚五郎**

▼もっと明るい楽しい雑誌に▲

『COM』は非常にすばらしい雑誌だと思います。特にぼくたちマンガファンにとって、かかすことのできない「ぐら・こん」など、たいへんいいと思います。

しかし、他の雑誌にくらべて、なにか暗い感じがします。たった一つの楽しいまんがが「悟空の大冒険」も終わりましたね。『COM』をもっと明るい楽しい雑誌にしてください。

熊本県荒尾市中央区　**橘高　淳一**

※ご忠告どうもありがとうございます。（編集部）

編集後記

▽…本号には、読者のみなさんのお知恵を拝借したく、アンケート用のはがきをつけました。でっかい仲間たちの雑誌『COM』をいっそう充実するためである。お手数ながら、ぜひ、ご協力ください。

▽…永島慎二氏の「フーテン」は、春の章が終わり、次号からは夏の章がはじまる。この章では、フーテン群像のひとりひとりにスポットをあて、作者自身をモデルにした作中人物、長暇貧治とからませながら、毎号読切形式で連載となるはずである。永島氏が自己の体験を通じ、現代的青春の意味を追求するこの作品が氏のライフワークとして結実することを期待したい。

▽…新人入選作については選評でふれたが、応募作にいま一歩パンチのきいた作品がほしいと思う。長谷川法世君、岡田史子さん、そして〝ぐら・こん〟のオールみなさん、がんばってください！

▽…次号のゲストまんがは、今回にひきつづき、川崎のぼる氏の登場で、時代まんがの予定。楽しみにどうぞ。（山崎）

COM（第10号）

昭和42年10月1日発行（毎月1回1日発行）
発行所／東京都豊島区南池袋1の20の1　**虫プロ商事KK**
編集人／**山崎邦保**　発行人／**桑田　裕**　印刷人／**保坂　栄**
印刷所／東京都品川区南品川2の2の15　**富士高速印刷KK**

☆落丁・乱丁・不良品があったときは、直接、本社へお送りください。すぐにおとりかえいたします。

COM こむ 10 1967

手塚治虫 永島慎二 石森章太郎

COM

第十号

第一巻第十号 昭和四十二年十月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十二年五月十七日第三種郵便物認可
昭和四十一年十二月九日国鉄東局特別扱承認雑誌第一二五〇六号

編集人 山崎邦保
発行人 桑田裕

発行所 虫プロ商事株式会社
東京都豊島区南池袋一の二〇の一 横田ビル 電話（九八七）五二五一代

定価50円

BM 019

